

江戸川区

介護保険事業計画及び熟年しあわせ計画 改定のための基礎調査 報告書

平成26年(2014年)4月



報告書発刊にあたって

介護保険制度が施行されてから今年で15年目を迎えます。現在、国においては、今後の超高齢社会を見据え、持続可能な介護保険制度の確立を図るため、地域包括ケアシステムの構築や費用負担の公平化など様々な検討がされているところです。

本報告書は「第6期介護保険事業計画及び熟年しあわせ計画」策定のための基礎的な資料とするため、熟年者の皆様の健康と生きがいに関する意識、介護保険サービスの利用状況、介護保険サービス提供者の現状などを幅広く調査・分析したものです。

発刊にあたり、調査にご協力いただいた熟年者及びご家族の方々、また、介護保険サービス事業者をはじめとする各関係機関の皆様に改めてお礼申し上げます。

平成26年4月

江戸川区

〔目次〕

【1】調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の概要	3
3. 報告書利用上の注意	4
4. 居住地(日常生活圏域)の分類について	5
【2】調査結果の詳細	7
第 1 章 熟年者の健康と生きがいに関する調査	7
1. 基本的属性	9
(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢	9
(2) 居住地(日常生活圏域)	10
(3) 世帯構成	11
(4) 日中独居の状況	13
(5) 住居の形態	14
(6) 居住階数、エレベーターの有無	16
(7) 本人と配偶者の収入源、年収	17
2. 健康について	18
(1) 健康状態	18
(2) かかりつけ医の有無	19
(3) 現在治療中の病気	20
(4) 身長と体重(BMI)	21
(5) 飲んでいる薬の種類	22
(6) 在宅療養に対する意向	23
3. 介護予防について	25
(1) 介護予防のための取り組み状況	25
(2) 今後取り組みたい活動	27
4. 日常生活機能の状況について	29
(1) 手段的日常生活動作(IADL)の自立度	29
(2) 日常生活動作(ADL)の自立度	32
(3) 日用品の買い物をする人	35
(4) 食事の用意をする人	36
(5) 運動や転倒の状況	37
(6) 栄養や口腔機能の状況	40
(7) 物忘れや気分の状況	42
(8) その日の活動の判断の可否、意思の伝達の可否	45
(9) 社会活動の状況	46
(10) 外出頻度	48

(11) 日常生活の中で手助けしてほしいこと	49
5. 日常生活機能の評価について	51
(1) 生活機能の評価	51
(2) 日常生活の自立度の評価	54
(3) 社会参加の評価	56
6. 社会参加、生きがいづくり、就労について	57
(1) 現在参加している余暇活動・社会参加活動	57
(2) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動	59
(3) 地域の支え手としてできること	61
(4) 現在の就労状況	63
(5) 今後の就労意向	64
(6) 近所の人とのつきあいの程度	66
(7) 身近に頼れる人の有無	68
7. 認知症や権利擁護について	70
(1) 認知症に関する知識	70
(2) 認知症に関する相談先	71
(3) 成年後見制度の認知度	73
(4) 成年後見制度の利用意向	74
(5) サギ・悪徳商法の電話を受けた経験	75
8. 今後の暮らしや介護について	76
(1) 今後介護を受けたい場所	76
(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと	78
(3) 災害時の避難の可否	79
(4) 介護保険サービス利用に対する考え、介護保険料の家計への影響	81
(5) 健康サポートセンターの認知度、利用経験	82
(6) 熟年相談室(地域包括支援センター)の認知度、利用経験	83
9. 江戸川区の熟年者施策について	84
(1) 区の熟年者施策の充実度	84
(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと	85
(3) 区への意見・要望	86

第 2 章 介護予防に関する調査 89

1. 基本的属性	91
(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢	91
(2) 居住地(日常生活圏域)	92
(3) 世帯構成	93
(4) 日中独居の状況	95
(5) 住居の形態	96
(6) 居住階数、エレベーターの有無	97

2. 健康について	98
(1) かかりつけ医の有無	98
(2) 現在治療中の病気	99
(3) 身長と体重(BMI)	100
3. 日常生活機能の状況と評価について	101
(1) 生活機能の状況	101
(2) 生活機能の評価	103
(3) 日常生活の中で手助けしてほしいこと	104
4. 社会参加、生きがいづくりについて	105
(1) 近所の人とのつきあいの程度	105
(2) 現在参加している余暇活動・社会参加活動	106
(3) 身近に頼れる人の有無	107
5. 介護予防について	108
(1) 介護予防の重要性の認知度	108
(2) 介護予防のために日ごろから心がけていること	109
(3) 介護予防相談会の参加状況、行かなかった理由	110
(4) 参加した介護予防事業	112
(5) 介護予防事業に参加してよかったこと	113
(6) 介護予防事業に参加しなかった理由	114
(7) 今後の介護予防の取り組み方の希望	115
(8) 今後取り組みたい活動	116
(9) 介護予防に継続して取り組むために必要な環境・条件	118
6. 認知症や権利擁護について	119
(1) 認知症に関する相談先	119
(2) 成年後見制度の認知度	120
(3) 成年後見制度の利用意向	120
(4) サギ・悪徳商法の電話を受けた経験	121
7. 今後の暮らしや介護について	122
(1) 今後介護を受けたい場所	122
(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと	123
(3) 災害時の避難の可否	124
(4) 健康サポートセンターの認知度、利用経験	125
(5) 熟年相談室(地域包括支援センター)の認知度、利用経験	126
8. 江戸川区の熟年者施策について	127
(1) 区の熟年者施策の充実度	127
(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと	128
(3) 区への意見・要望	129

第 3 章 介護保険サービス利用に関する調査	131
1. 基本的属性.....	133
(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢.....	133
(2) 居住地(日常生活圏域).....	135
(3) 世帯構成.....	136
(4) 日中独居の状況.....	138
(5) 住居の形態.....	139
(6) 居住階数、エレベーターの有無.....	140
(7) 本人と配偶者の収入源、年収.....	141
2. 要介護度及び健康について.....	142
(1) 要介護度.....	142
(2) 支援や介護が必要となった原因.....	143
(3) かかりつけ医の有無.....	145
(4) 現在治療中の病気.....	146
(5) 身長と体重(BMI).....	147
(6) 飲んでいる薬の種類.....	148
(7) 医療処置の状況.....	149
(8) 在宅療養に対する意向.....	151
3. 日常生活機能の状況について.....	152
(1) 手段的日常生活動作(IADL)の自立度.....	152
(2) 日常生活動作(ADL)の自立度.....	155
(3) 日用品の買い物をする人.....	159
(4) 食事の用意をする人.....	160
(5) 運動や転倒の状況.....	161
(6) 栄養や口腔機能の状況.....	164
(7) 物忘れや気分の状況.....	166
(8) その日の活動の判断の可否、意思の伝達の可否.....	169
(9) 社会活動の状況.....	170
(10) 外出頻度.....	172
(11) 日常の中で手助けしてほしいこと.....	173
4. 日常生活機能の評価について.....	174
(1) 生活機能の評価.....	174
(2) 日常生活の自立度の評価.....	177
(3) 社会参加の評価.....	179
5. 介護サービスの利用状況・意向について.....	180
(1) 介護保険サービスの利用状況.....	180
(2) 介護保険サービス利用の満足度.....	181
(3) 希望通りに利用できていない理由.....	182
(4) 希望通りに利用できていないサービス.....	183
(5) サービスを利用していない理由.....	184

(6) 今後利用したい介護保険サービス	186
(7) 今後利用したい介護保険外サービス	188
6. 認知症や権利擁護について	190
(1) 認知症に関する相談先	190
(2) 成年後見制度の認知度	191
(3) 成年後見制度の利用意向	191
(4) サギ・悪質商法の電話を受けた経験	192
7. 今後の暮らしや介護について	193
(1) 今後介護を受けたい場所	193
(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと	195
(3) 災害時の避難の可否	196
(4) 介護保険サービス利用に対する考え、介護保険料の家計への影響	198
(5) 熟年相談室(地域包括支援センター)の利用経験	199
8. 介護者の状況について	200
(1) 家族介護の状況	200
(2) 主な介護者の年齢	202
9. 江戸川区の熟年者施策について	203
(1) 区の熟年者施策の充実度	203
(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと	204
(3) 区への意見・要望	205
第 4 章 熟年者のお元気度チェック調査	209
1. 基本的属性	211
(1) 性別、現在の満年齢	211
(2) 世帯構成	213
2. 参加している地域活動について	214
(1) 参加している地域活動	214
(2) 活動に参加したきっかけ	215
(3) 活動への参加回数	216
(4) 活動年数	218
(5) 活動の運営にかかわる役割の有無	219
3. 健康状態について	220
(1) 健康状態	220
(2) 現在治療中の病気	221
(3) 身長と体重(BMI)	223
(4) 要介護認定の申請経験	224
4. 日常生活機能の状況と評価について	225
(1) 生活機能の状況	225
(2) 生活機能の評価	227

5. 社会参加、生きがいづくりについて.....	230
(1) 生きがいの状況.....	230
(2) 現在参加している余暇活動・社会参加活動.....	232
第 5 章 区民向け4調査間の比較結果.....	233
1. 基本的属性.....	235
(1) 居住地(日常生活圏域).....	235
(2) 世帯構成.....	236
2. 健康について.....	237
(1) 健康状態.....	237
(2) かかりつけ医の有無.....	238
(3) 在宅療養に対する意向.....	239
3. 日常生活機能の評価について.....	240
(1) 生活機能の評価.....	240
(2) 日常生活の自立度の評価.....	241
(3) 社会参加の評価.....	242
(4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと.....	243
4. 社会参加、生きがいづくりについて.....	244
(1) 現在参加している余暇活動・社会参加活動.....	244
(2) 近所の人とのつきあいの程度.....	245
5. 認知症や権利擁護について.....	246
(1) 認知症に関する相談先.....	246
(2) 成年後見制度の認知度.....	247
(3) 成年後見制度の利用意向.....	247
(4) サギ・悪質商法の電話を受けた経験.....	248
6. 今後の暮らしや介護について.....	249
(1) 今後介護を受けたい場所.....	249
(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと.....	250
(3) 介護保険サービス利用に対する考え.....	251
(4) 介護保険料の家計への影響.....	252
7. 江戸川区の熟年者施策について.....	253
(1) 区の熟年者施策の充実度.....	253
(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと.....	254
第 6 章 介護保険サービス事業者調査.....	255
1. 基本事項について.....	257
(1) 事業所の所在地.....	257
(2) 事業所の法人組織.....	258
(3) 実施している介護サービス事業.....	259
(4) 提供実績、従業者数.....	260

2. 要支援者への医療系サービスの提供状況	261
(1) 要支援者への訪問看護の提供状況	261
(2) 要支援者への訪問リハビリテーションの提供状況	264
(3) 要支援者への通所リハビリテーションの提供状況	267
(4) 制度改正によるサービス提供のあり方についてのご意見	270
3. 事業の経営について	271
(1) 収支が黒字であったサービス	271
(2) 縮小・撤退を考えているサービス	272
(3) 縮小・撤退を考えている理由	273
(4) 事業の拡大・新規参入を考えているサービス	274
(5) 複合型サービスの参入意向	275
(6) 定期巡回・随時対応サービスの参入意向	275
4. サービスの質の確保について	276
(1) 質の向上のための取り組み状況	276
(2) 苦情やトラブルの内容、苦情やトラブルへの対応	277
5. 人材の確保や雇用管理について	279
(1) 人材確保のための取り組み状況	279
(2) キャリアパスの設定状況、今後設ける予定の有無	280
(3) 人材確保のための東京都等の施策の活用状況	281
(4) 人材確保において困っていること	282
6. 介護サービスの提供体制について	283
(1) 介護職員がたんの吸引等を実施するための登録状況	283
(2) 登録事業者となっていない理由	284
(3) 医療ニーズの高い利用者の支援のために必要なこと	285
(4) 認知症の方の地域生活を支援するために必要なこと	286
(5) 認知症ケアパスの作成についてのご意見	287
7. 関係機関との連携について	288
(1) 熟年相談室(地域包括支援センター)との連携状況	288
(2) 熟年相談室(地域包括支援センター)に充実してほしい役割	289
(3) 医療機関との連携状況	290
(4) 医療との連携のために必要なこと	291
8. 危機管理について	292
(1) 危機管理対策状況	292
(2) 災害時対策状況	293
9. 区に対する要望について	294
(1) 区に充実・支援してほしいこと	294
(2) 今後力を入れるべき熟年者施策	295
(3) 江戸川区の熟年者施策や介護保険の推進に対する意見	296
10. 施設・居住系サービス事業者における看取りへの対応について	297
(1) 看取りに対する施設の方針	297

(2) 死亡退所者数	298
(3) 施設で亡くなった入居者数・入所者数の推移	298
(4) 看取り介護に関する指針等の有無	299
(5) 看取り介護に対応していく上での課題	300
第 7 章 介護支援専門員調査	301
1. 勤務先の概要	303
(1) 勤務先	303
(2) 勤務地及び法人形態	304
2. 基本的属性	305
(1) 本人の性別、現在の満年齢	305
(2) 介護支援専門員としての実務年数	306
(3) 主任介護支援専門員資格の取得状況と経験年数	307
(4) 介護支援専門員以外の保有資格	308
(5) 現在の勤務形態、兼務している業務	309
(6) 介護支援専門員業務の比率	310
3. 利用者の状況について	311
(1) 担当している利用者数	311
(2) 支援や対応に困難を感じている利用者の有無	312
(3) 支援や対応に困難を感じているケースの状況	313
4. 要支援の利用者の状況	314
(1) 利用者の基本状況	314
(2) 日常生活動作(ADL)・手段的日常生活動作(IADL)	315
(3) 日常生活の支援者	317
(4) 食事の用意への支援	318
(5) ケアプランに位置づけられているサービス	319
(6) 制度改正された場合の要支援者のケアマネジメントに対する意見	320
5. ケアマネジメントの状況について	321
(1) 十分なアセスメントの実施状況	321
(2) アセスメントを実施する際に困難に感じること	322
(3) サービス担当者会議の開催状況	323
(4) サービス担当者会議の開催にあたって困難に感じること	324
6. 認知症の利用者の状況について	325
(1) 認知症の利用者の有無	325
(2) 認知症の利用者のケアマネジメントにあたって困難に感じること	326
(3) 認知症の方の地域生活を支援するために必要なこと	327
7. 医療ニーズの高い利用者の状況について	328
(1) 医療ニーズの高い利用者の有無	328
(2) 医療ニーズの高い利用者のケアマネジメントにあたって困難に感じること	329
(3) 医療ニーズの高い利用者の在宅療養を支援するために必要なこと	330

8. 関係機関との連携について.....	331
(1) 主治医等の医療機関との連携状況.....	331
(2) 医療機関との連携が取れていない理由.....	332
(3) 主治医との意見交換の方法.....	333
(4) 医療との連携のために必要なこと.....	334
(5) 熟年相談室(地域包括支援センター)との連携状況.....	335
(6) 熟年相談室(地域包括支援センター)との連携が取れていない理由.....	336
(7) 熟年相談室(地域包括支援センター)機能に対する評価.....	337
(8) 熟年相談室(地域包括支援センター)に充実してほしい役割.....	338
9. 質の確保等について.....	339
(1) 研修の参加状況.....	339
(2) 研修に参加していない理由.....	340
(3) 今後希望する研修内容.....	341
10. 業務の満足度と今後の意向について.....	342
(1) 現在の勤務先での在職年数.....	342
(2) 介護支援専門員業務に対する満足度.....	343
(3) 転職意向.....	345
(4) 介護支援専門員としての就労意向.....	346
11. 今後の区の施策等について.....	347
(1) 充実すべき介護保険以外のサービス.....	347
(2) 区に支援・充実してほしいこと.....	348
(3) 区への意見・要望.....	349
【3】 参考資料.....	351
1. 日常生活機能評価判定基準.....	353
(1) 生活機能.....	353
(2) 日常生活の自立度.....	358
(3) 社会参加.....	360
(4) 生活機能(基本チェックリスト).....	361
2. 調査票.....	363
(1) 熟年者の健康と生きがいに関する調査.....	363
(2) 介護予防に関する調査.....	371
(3) 介護保険サービス利用に関する調査.....	379
(4) 熟年者のお元気度チェック調査.....	389
(5) 介護保険サービス事業者調査.....	392
(6) 介護支援専門員調査.....	400
3. 用語解説(あいうえお順).....	408

【1】調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、平成27年度～平成29年度を計画期間とする「第6期介護保険事業計画」及び「熟年しあわせ計画」の改定の基礎資料として用いるために実施した。

2. 調査の概要

調査名	熟年者の健康と生きがいに関する調査	介護予防に関する調査	介護保険サービス利用に関する調査
調査方法	郵送配付、郵送回収		
調査対象者	65歳以上の要介護認定を受けていない区民 (平成25年11月1日現在)	65歳以上の二次予防事業の候補者・決定者となっている区民 (平成25年11月1日現在)	65歳以上の要介護認定を受け、施設サービス、認知症高齢者グループホーム、有料老人ホームを利用していない区民 (平成25年11月1日現在)
抽出元及び抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出	健康診査等の結果より無作為抽出	介護保険被保険者台帳より無作為抽出
調査期間	平成25年11月15日～12月11日		
対象者及び回収率	対象者数：2,500 有効回収数：1,666 有効回収率：66.6%	対象者数：1,000 有効回収数：723 有効回収率：72.3%	対象者数：2,500 有効回収数：1,490 有効回収率：59.6%

調査名	熟年者のお元気度チェック調査	介護保険サービス事業者調査	介護支援専門員調査
調査方法	活動の場にて協力を得られた方に直接配布、郵送回収（一部その場で回収）	郵送配付、郵送回収	
調査対象者	リズム運動くすのきクラブ くすのきカルチャー教室 シルバー人材センター ウォーキング参加者	区内すべての介護保険サービス事業者 (平成25年9月1日現在)	NPO法人江戸川区ケアマネジャー協会に加入し、介護支援専門員として従事している会員
抽出元及び抽出方法	—	介護保険事業者名簿	NPO法人江戸川区ケアマネジャー協会会員名簿
調査期間	平成25年12月2日～平成26年1月10日	平成25年11月15日～12月11日	
対象者及び回収率	対象者数：512 有効回収数：372 有効回収率：72.7%	対象者数：405 有効回収数：275 有効回収率：67.9%	対象者数：423 有効回収数：256 有効回収率：60.5%

3. 報告書利用上の注意

○百分率について

百分率(%)は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100%にならない場合がある。

○図表の単位について

本文中に掲載したグラフ及びクロス集計の単位は、特にことわりのないかぎり、「%」であらわしている。

○単純集計及び分析について

各質問ごとに「単純集計」を行い、その特徴等を記述している。

単純集計のグラフにおいては、傾向をよりわかりやすくするために、選択肢を百分率(%)の大きなものから小さなものへと並びかえた「ランキング集計」を行っている場合がある。

○クロス集計及び分析について

本報告書では、各調査の対象者全員の合計を「全体」と表記し、特徴的なものについては、性別、年齢別、要介護度別等のクロス集計グラフまたはクロス集計表を掲載し、分析を行っている。

本報告書の分析に用いているクロス集計グラフ及びクロス集計表に関しては、分析の柱である性別、年齢別、要介護度別等について、「無回答」の掲載を省略しているため、分析軸(タテ軸)の回答者数の合計値と「全体」が一致していない場合がある。

○クロス集計表の網掛けについて

クロス集計表は、「全体」を上回るものに対して網掛けを行っている。ただし、表頭の「無回答」は除いている。

○共通項目の比較について

第1章から第4章までの4調査間における共通質問については、【比較調査〇〇参照】のように、第5章における参照ページを示し、結果について比較を行っている場合がある。

○専門用語・略式表現について

専門用語・略式表現については、【3】参考資料の用語解説で説明している。

4. 居住地（日常生活圏域）の分類について

居住地（日常生活圏域）は、以下の7つの日常生活圏域別に分類し、集計を行っている。

圏域名	該当する町名
区民課	中央、松島、松江、東小松川、西小松川町、大杉、西一之江、春江町4丁目、上一色、本一色、一之江、西瑞江4丁目1～2・10～27、江戸川4丁目15～25、松本、興宮町
小松川	小松川、平井
葛西北	春江町5丁目、西瑞江5丁目、江戸川5・6丁目、一之江町、二之江町、船堀、宇喜田町、東葛西1～3丁目、西葛西1丁目、中葛西1・2丁目、北葛西
葛西南	東葛西4～9丁目、西葛西2～8丁目、中葛西3～8丁目、南葛西、清新町、臨海町、堀江町
小岩	東小岩、西小岩、南小岩、北小岩
東部	春江町2・3丁目、東瑞江、西瑞江2・3丁目・4丁目5～9、江戸川1～3丁目・4丁目1～14、谷河内2丁目、下篠崎町、篠崎町3～6丁目、南篠崎町、東篠崎町、東篠崎、瑞江
鹿骨	新堀、春江町1丁目、谷河内1丁目、鹿骨町、鹿骨、上篠崎、篠崎町1・2・7・8丁目、西篠崎、北篠崎、東松本

※ただし、本調査においては、西瑞江4丁目及び江戸川4丁目は、すべて区民課圏域に分類・集計を行っている

【2】 調査結果の詳細

第 1 章

熟年者の健康と生きがい に関する調査

< 調 査 概 要 >

調 査 方 法	郵送配付、郵送回収
調 査 対 象 者	65歳以上の要介護認定を受けていない区民 (平成 25 年 11 月 1 日現在)
抽 出 方 法	住民基本台帳より無作為抽出
調 査 期 間	平成 25 年 11 月 15 日～12 月 11 日
対 象 者 数 及 び 回 収 率	対 象 者 数 : 2,500 有 効 回 収 数 : 1,666 有 効 回 収 率 : 66.6%

1. 基本的属性

(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)

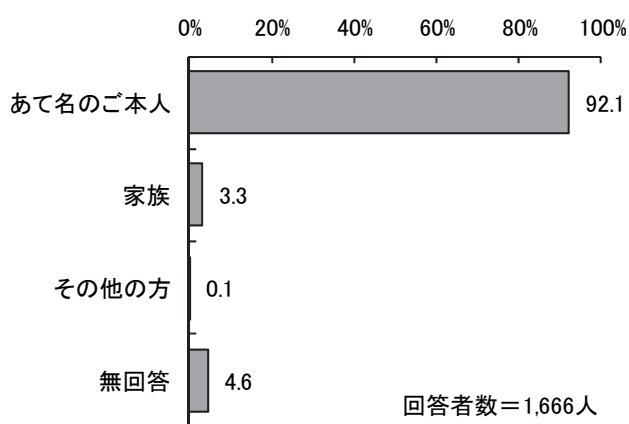
問2 あなた(あて名のご本人)の性別、平成25年11月1日現在の満年齢をお答えください。

調査回答者は、「あて名のご本人」が92.1%を占める。

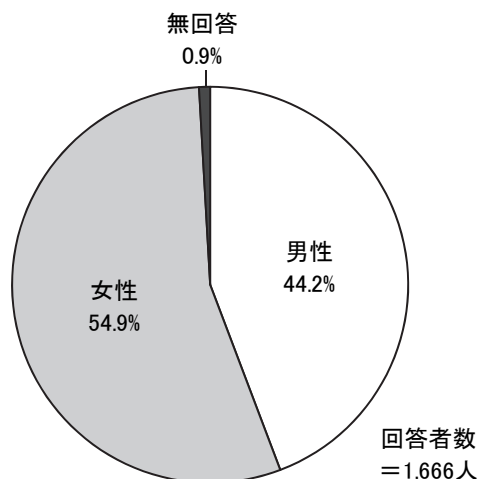
性別は、「男性」44.2%、「女性」54.9%と、女性のほうが10.7ポイント高い。

年齢は、「70～74歳」30.2%、「65～69歳」28.8%の順であり、これらをあわせた『65～74歳』が59.0%と約6割、「75～79歳」22.3%、「80～84歳」12.1%、「85歳以上」5.6%をあわせた『75歳以上』が40.0%となっている。平均年齢は73.6歳となっている。

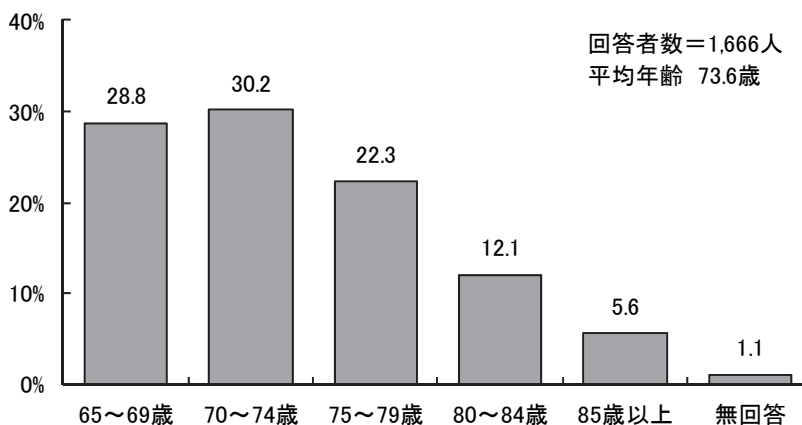
図表1-1 調査回答者(単数回答)



図表1-2 性別(単数回答)



図表1-3 年齢(単数回答)

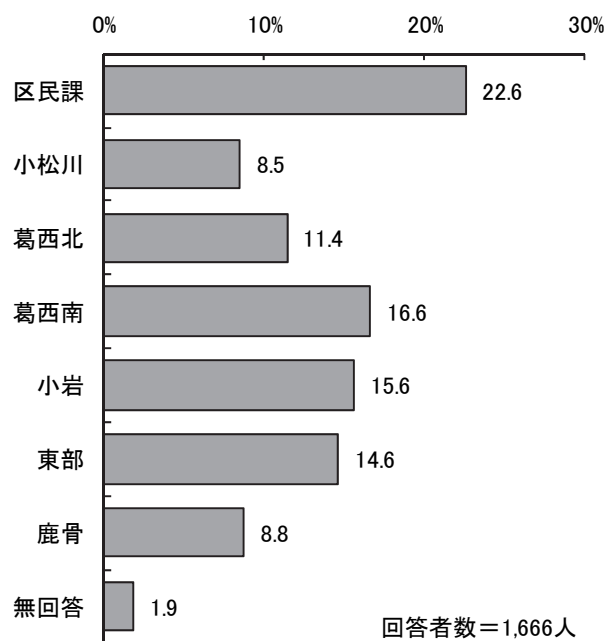


(2)居住地(日常生活圏域)

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。記入例を参考に記入してください。
丁目がない場合は、町名だけ記入してください。 【比較調査235頁参照】

居住地(日常生活圏域)は、「区民課」22.6%、「葛西南」16.6%、「小岩」15.6%の順となっている。「区民課」ともっとも割合の低い「小松川」8.5%の差は14.1ポイントとなっている。

図表1-4 居住地(日常生活圏域)(単数回答)

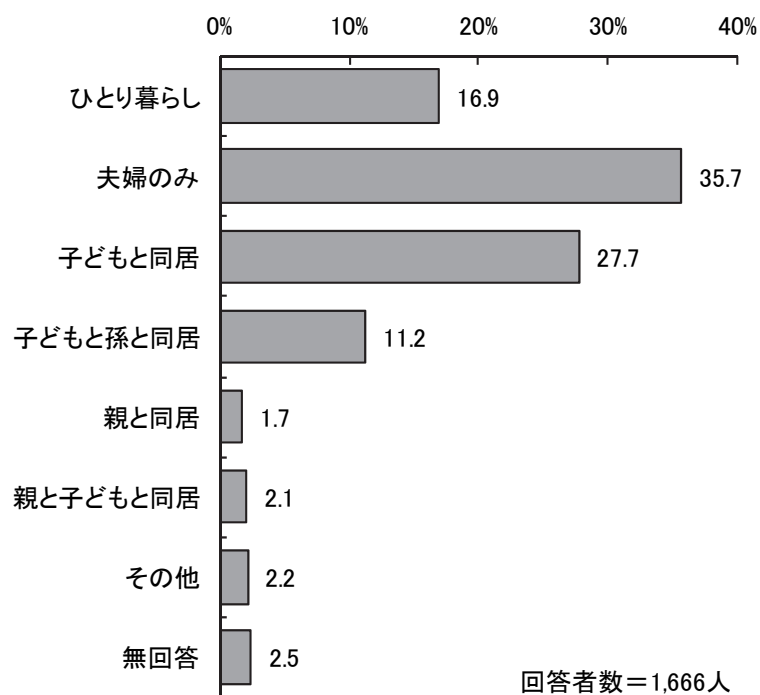


(3)世帯構成

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)
【比較調査236頁参照】

世帯構成は、「夫婦のみ」35.7%がもっとも高く、次いで「子どもと同居」27.7%、「ひとり暮らし」16.9%、「子どもと孫と同居」11.2%の順となっている。

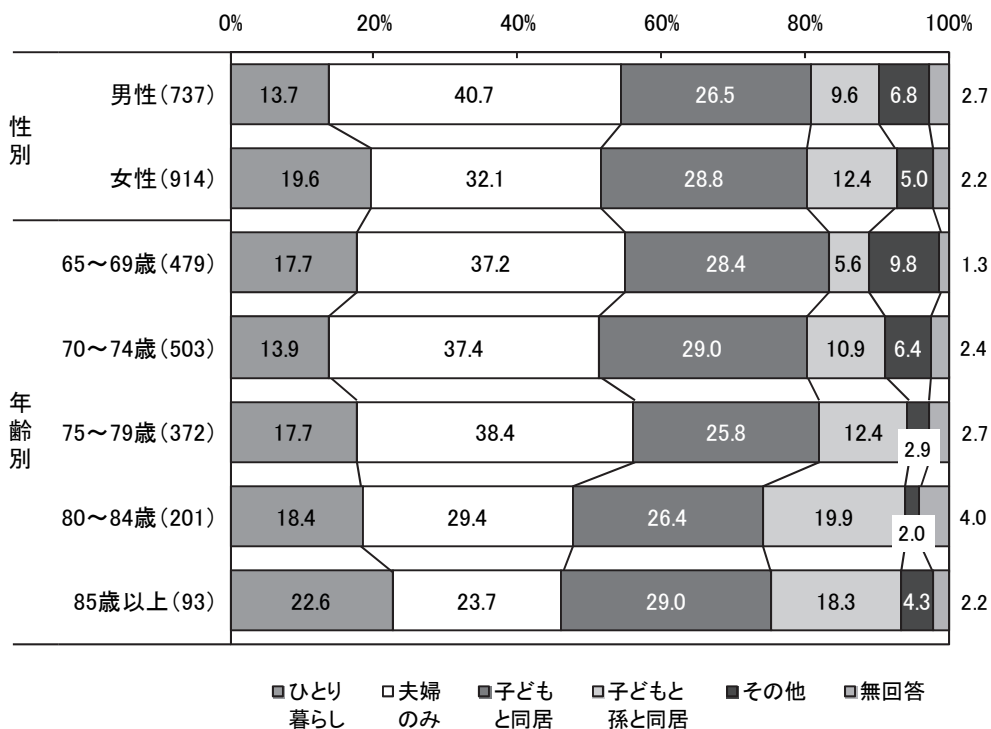
図表1-5 世帯構成(単数回答)



性別ごとにみると、男性は「夫婦のみ世帯」、女性は「ひとり暮らし」などの割合が、それぞれに比べて高くなっている。

年齢別にみると、65～79歳の年齢層は「夫婦のみ世帯」が3割台を占めてもっとも高い。80歳以上は「夫婦のみ世帯」は2割台であり、「ひとり暮らし」や「子どもと孫と同居」の割合が高くなる。「ひとり暮らし」は85歳以上が22.6%ともっとも高い。

図表1-6 世帯構成



※ () は回答者数

※ 「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(4) 日中独居の状況

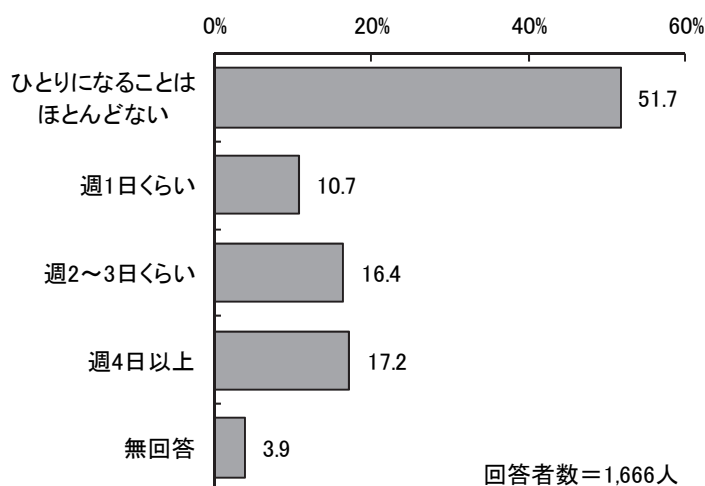
問5 あなた(あて名のご本人)は、日中、家にひとりでいることがどのくらいありますか。

(1つに○)

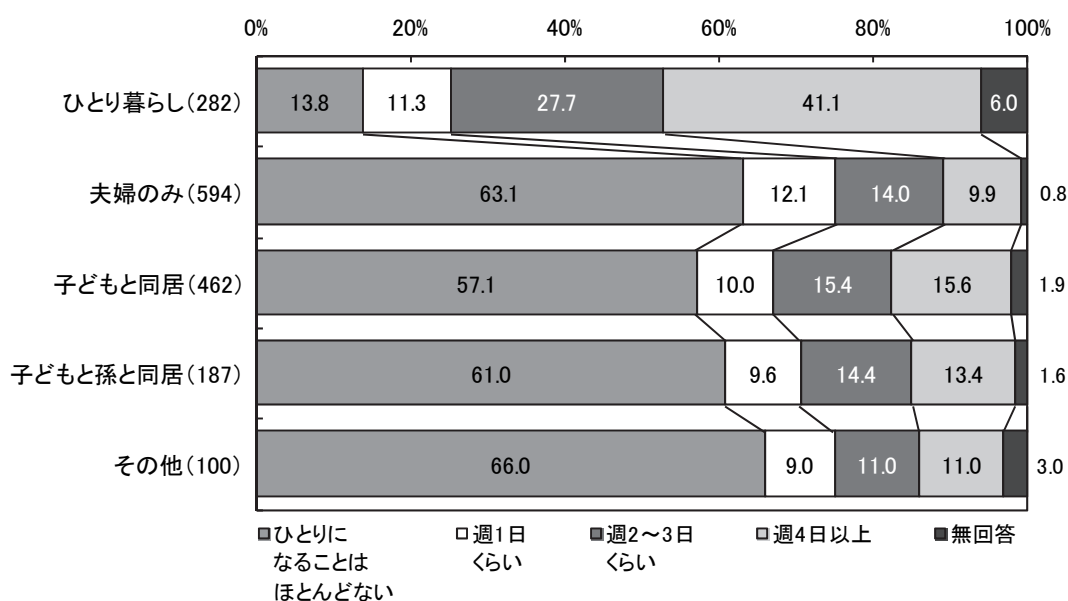
日中独居の状況は、「ひとりになることはほとんどない」が51.7%と半数強を占める一方、「週4日以上」という回答も17.2%と2割近い。

世帯構成別にみると、夫婦のみ世帯や子どもや孫との同居世帯の人は「ひとりになることはほとんどない」が6割を超える。一方、ひとり暮らしの人では1割台であり、「週4日以上」ひとりでいる割合は、ひとり暮らしの人が41.1%、夫婦のみ世帯の人が9.9%、その他の世帯の人は1割台となっている。

図表1-7 日中独居の状況(単数回答)



図表1-8 日中独居の状況



※ () は回答者数

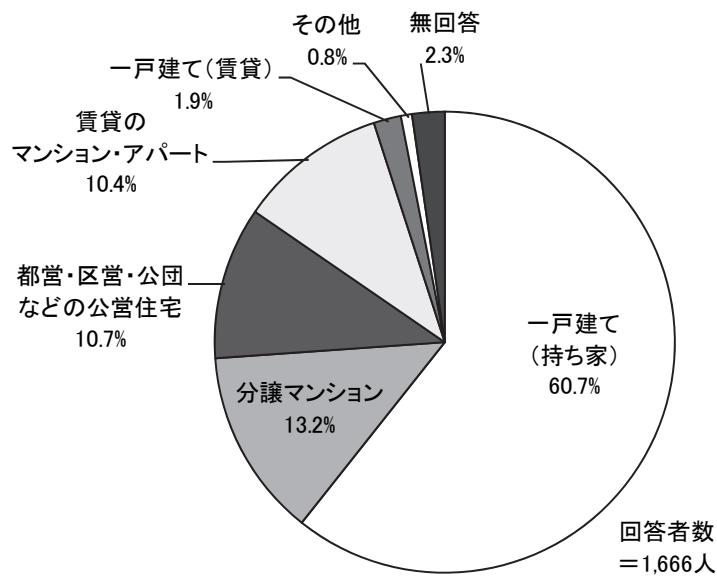
※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(5)住居の形態

問6 あなた(あて名のご本人)の現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

住居の形態は、「一戸建て(持ち家)」60.7%がもっとも高く、次いで「分譲マンション」が13.2%、「都営・区営・公団などの公営住宅」が10.7%、「賃貸のマンション・アパート」が10.4%、「一戸建て(賃貸)」が1.9%となっている。

図表1-9 住居の形態(単数回答)



日常生活圏域別にみると、区民課、小岩、東部及び鹿骨は7割以上が「一戸建て（持ち家）」となっている。葛西南は「分譲マンション」37.5%がもっとも高く、次いで「都営・区営・公団などの公営住宅」となっている。

世帯構成別にみると、子どもや孫との同居世帯の人では「一戸建て（持ち家）」が約7～8割を占める。一方、ひとり暮らしの人は「一戸建て（持ち家）」は約4割であり、「賃貸のマンション・アパート」が29.1%、「都営・区営・公団などの公営住宅」が15.6%となっている。

図表1-10 住居の形態

		回答者数(人)	一戸建て(持ち家)	分譲マンション	都営・区営・公団などの公営住宅	賃貸のマンション・アパート	一戸建て(賃貸)	その他	無回答
全 体		1,666	60.7	13.2	10.7	10.4	1.9	0.8	2.3
日常生活圏域別	区民課	376	71.5	5.3	3.2	13.8	3.2	1.1	1.9
	小松川	142	43.7	19.7	22.5	10.6	1.4	0.7	1.4
	葛西北	190	57.4	15.3	13.7	9.5	1.6	0.0	2.6
	葛西南	277	22.4	37.5	25.6	10.8	0.7	0.7	2.2
	小岩	260	74.6	6.5	0.8	11.5	2.3	1.5	2.7
	東部	244	70.9	4.9	11.9	6.1	1.6	0.8	3.7
	鹿骨	146	84.2	4.8	1.4	6.8	1.4	0.0	1.4
世帯構成別	ひとり暮らし	282	39.7	9.6	15.6	29.1	2.1	2.5	1.4
	夫婦のみ	594	59.1	18.2	13.6	6.2	2.0	0.7	0.2
	子どもと同居	462	69.7	12.3	8.2	7.8	1.5	0.2	0.2
	子どもと孫と同居	187	80.7	8.6	1.6	4.3	2.1	0.0	2.7
	その他	100	69.0	11.0	7.0	10.0	2.0	0.0	1.0

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(6) 居住階数、エレベーターの有無

マンションやアパート等にお住まいの方(問6で3～6に○)にうかがいます。

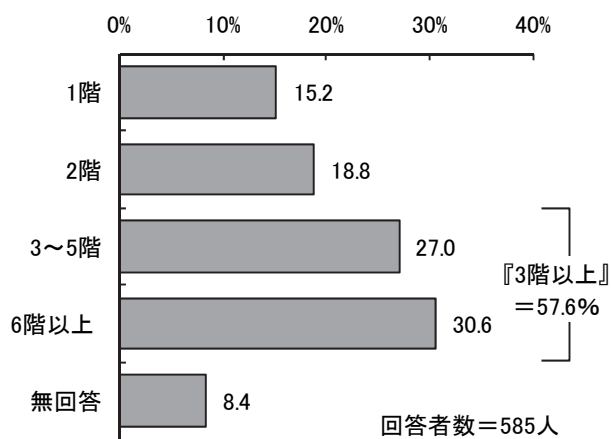
問6-1 現在、何階で生活していますか。また、2階以上で生活している場合、エレベーターはありますか。(それぞれ1つに○)

マンションやアパート等に居住している人の居住階数は、「6階以上」30.6%、「3～5階」27.0%の順であり、『3階以上』が57.6%と6割近い。

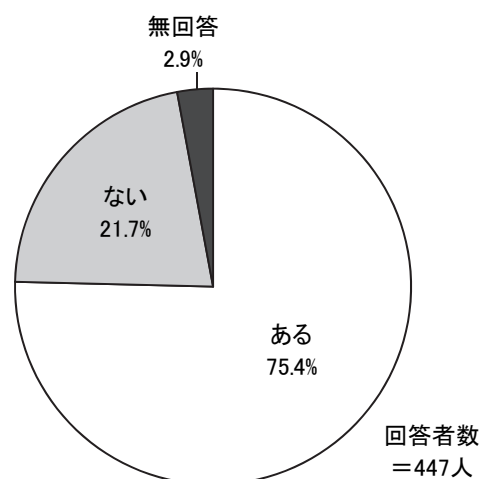
2階以上に居住している場合のエレベーターの有無をみると、「ある」が75.4%を占め、「ない」は21.7%となっている。

居住階数を日常生活圏域別にみると、小岩及び鹿骨は「1階」、区民課は「2階」、東部は「3～5階」、小松川、葛西北及び葛西南は「6階以上」居住者の割合が、それぞれもとも高い。

図表1-11 居住階数(単数回答)

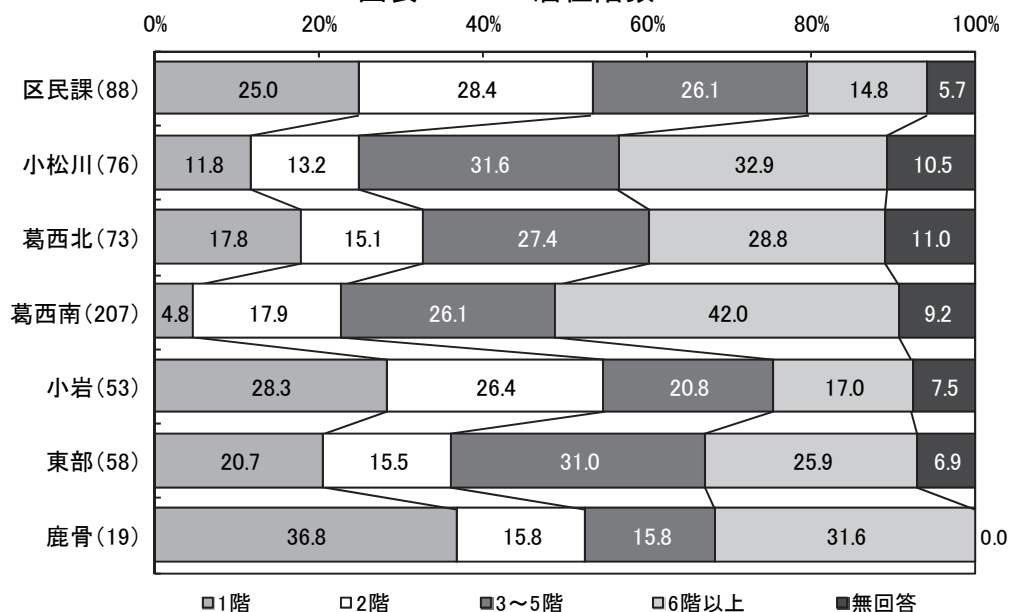


図表1-12 エレベーターの有無(単数回答)



※『3階以上』 = 「3～5階」 + 「6階以上」

図表1-13 居住階数



※ () は回答者数

(7) 本人と配偶者の収入源、年収

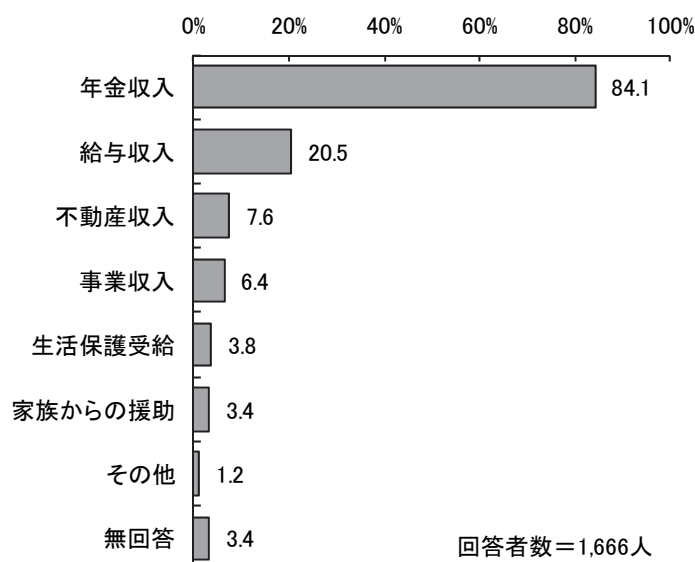
問7 あなた(あて名のご本人)と配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の収入は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

問8 あなた(あて名のご本人)と配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の税込みの年収(年金を含む)の合計は、次のうちどれですか。(1つに○)

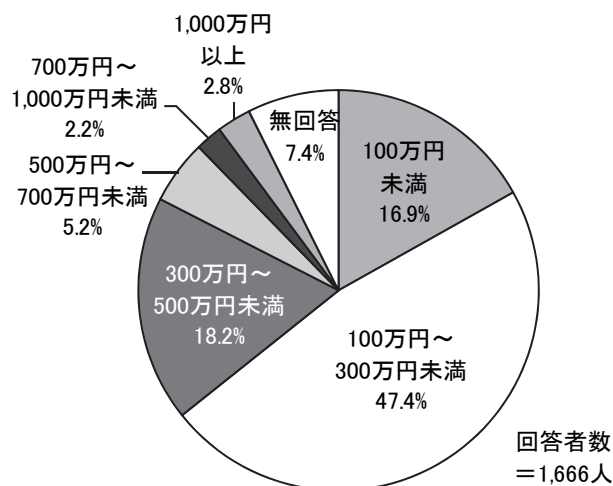
本人と配偶者の収入源は、「年金収入」が84.1%であり、「給与収入」がある人は20.5%と約2割である。

本人と配偶者の年収は、「100万円～300万円未満」47.4%、「300万円～500万円未満」18.2%、「100万円未満」16.9%の順であり、300万円未満の人が64.3%を占める。

図表1-14 本人と配偶者の収入源(複数回答)



図表1-15 本人と配偶者の年収(単数回答)



2. 健康について

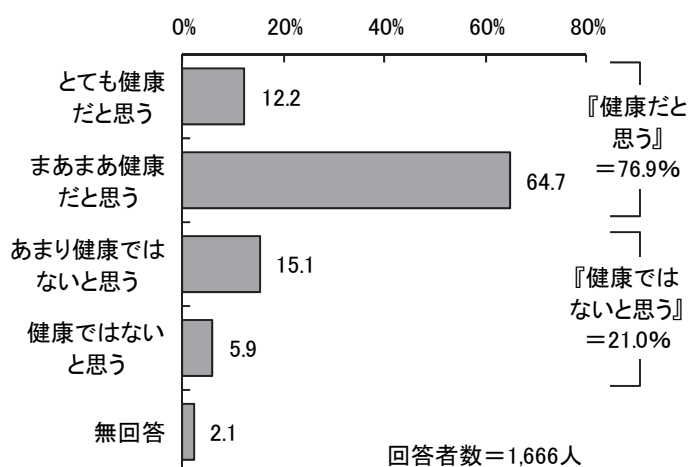
(1) 健康状態

問9 あなた(あて名のご本人)は、ご自分の健康状態について、どのように感じていますか。
(1つに○) 【比較調査237頁参照】

健康状態は、「まあまあ健康だと思う」64.7%がもっとも高く、「とても健康だと思う」12.2%をあわせた76.9%が『健康だと思う』と回答している。「あまり健康ではないと思う」15.1%、「健康ではないと思う」5.9%をあわせた『健康ではないと思う』は21.0%となっている。

年齢別にみると、65～74歳の年齢層は8割台が『健康だと思う』と回答しているが、75歳以上の年齢層では6～7割台に低下し、『健康ではないと思う』が2割台となっている。

図表1-16 健康状態(単数回答)



図表1-17 健康状態

		回答者数(人)	とても健康だと思う	まあまあ健康だと思う	あまり健康ではないと思う	健康ではないと思う	無回答	『健康だと思う』	『健康ではないと思う』
全体		1,666	12.2	64.7	15.1	5.9	2.1	76.9	21.0
年齢別	65～69歳	479	13.8	68.1	11.5	5.8	0.8	81.9	17.3
	70～74歳	503	14.3	65.8	13.7	4.2	2.0	80.1	17.9
	75～79歳	372	8.6	63.4	18.5	7.0	2.4	72.0	25.5
	80～84歳	201	10.0	57.7	20.9	7.0	4.5	67.7	27.9
	85歳以上	93	11.8	64.5	12.9	8.6	2.2	76.3	21.5

※『健康だと思う』 = 「とても健康だと思う」 + 「まあまあ健康だと思う」

※『健康ではないと思う』 = 「あまり健康ではないと思う」 + 「健康ではないと思う」

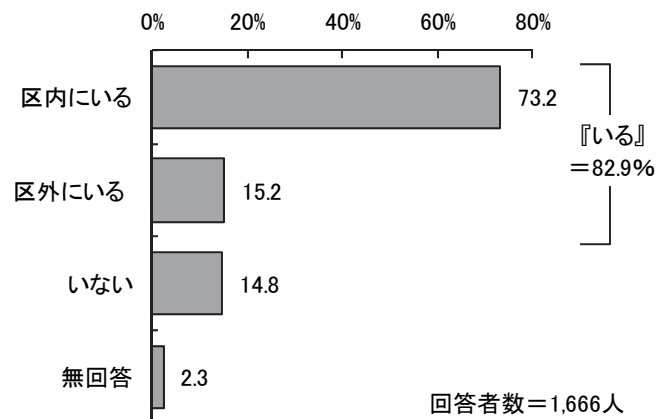
(2) かかりつけ医の有無

問10 あなた(あて名のご本人)には、かかりつけの医師がいますか。
(あてはまるものすべてに○)

【比較調査238頁参照】

かかりつけ医の有無は、「区内にいる」73.2%、「区外にいる」15.2%であり、『いる』は82.9%となっている。

図表1-18 かかりつけ医の有無(複数回答)



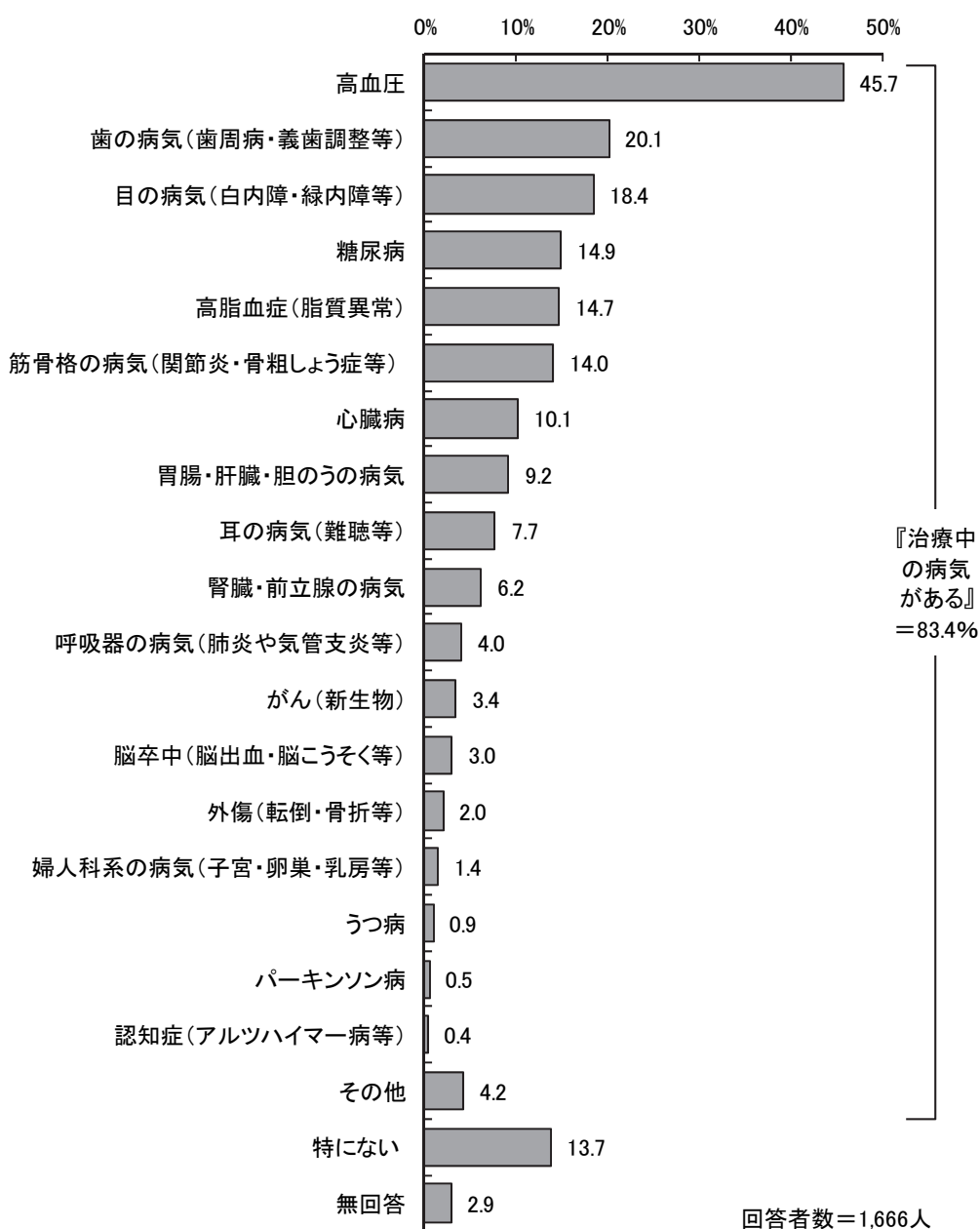
※『いる』=100%－「いない」－「無回答」

(3) 現在治療中の病気

問12 あなた(あて名のご本人)は、現在かかっている、または治療中の病気がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

現在治療中の病気は「特にない」は 13.7%であり、83.4%が『治療中の病気がある』と回答している。具体的な病気としては、「高血圧」45.7%に次いで、「歯の病気(歯周病・義歯調整等)」20.1%、「目の病気(白内障・緑内障等)」18.4%、「糖尿病」14.9%、「高脂血症(脂質異常)」14.7%の順となっている。

図表1-19 現在治療中の病気(複数回答)



※『治療中の病気がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

(4) 身長と体重(BMI)

問11 あなた(あて名のご本人)の身長と体重を記入してください。

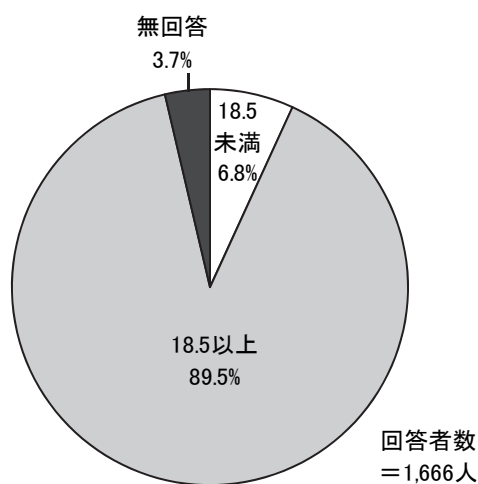
(枠の中に数字をご記入ください)

身長と体重から算出したBMI（身長からみた体重の割合を示す体格指数）について、低栄養が疑われる「18.5未満」の人は6.8%となっている。

性別ごとにみると「18.5未満」の割合は、男性4.9%に対して、女性に8.4%と高い。

年齢別にみると、「18.5未満」の割合は、84歳以下の年齢層では5~6%台であるが、85歳以上では16.1%と1割を超える。

図表1-20 BMI(単数回答)



図表1-21 BMI

		回答者数(人)	18.5未満	18.5以上	無回答
全体		1,666	6.8	89.5	3.7
性別	男性	737	4.9	90.9	4.2
	女性	914	8.4	88.5	3.1
年齢別	65~69歳	479	6.1	92.3	1.7
	70~74歳	503	6.4	91.5	2.2
	75~79歳	372	6.7	88.7	4.6
	80~84歳	201	5.5	87.6	7.0
	85歳以上	93	16.1	74.2	9.7

(5) 飲んでいる薬の種類

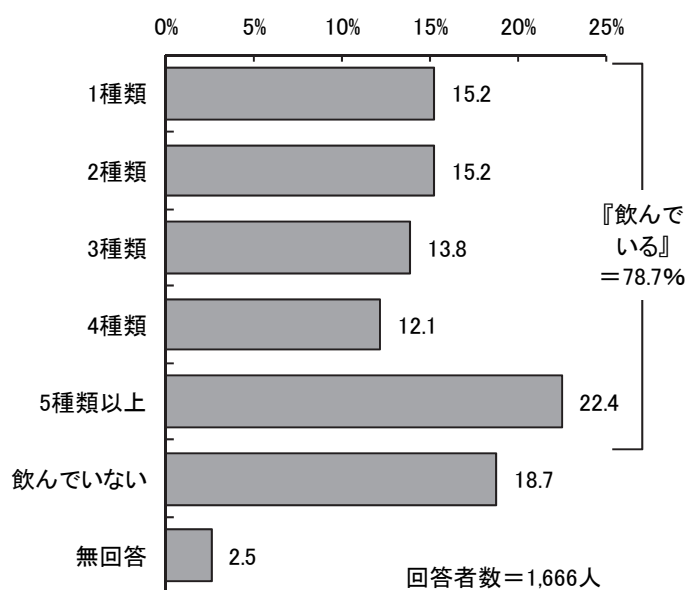
問13 あなた(あて名のご本人)は、現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。

(1つに○)

飲んでいる薬の種類をみると、78.7%が薬を『飲んでいる』と回答しており、「5種類以上」22.4%がもっとも高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が高いほど『飲んでいる』割合が高く、75～84歳の年齢層では8割台、85歳以上では約9割を占める。

図表1-22 飲んでいる薬の種類(単数回答)



図表1-23 飲んでいる薬の種類

		回答者数(人)	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上	飲んでいない	無回答	『飲んでいる』
全体		1,666	15.2	15.2	13.8	12.1	22.4	18.7	2.5	78.7
年齢別	65～69歳	479	17.1	15.7	12.1	7.7	16.1	30.5	0.8	68.7
	70～74歳	503	17.3	17.9	12.3	11.3	19.7	19.5	2.0	78.5
	75～79歳	372	14.2	13.2	15.1	15.3	26.1	10.8	5.4	83.9
	80～84歳	201	10.0	12.4	16.4	16.9	33.8	7.5	3.0	89.5
	85歳以上	93	9.7	14.0	17.2	16.1	33.3	8.6	1.1	90.3

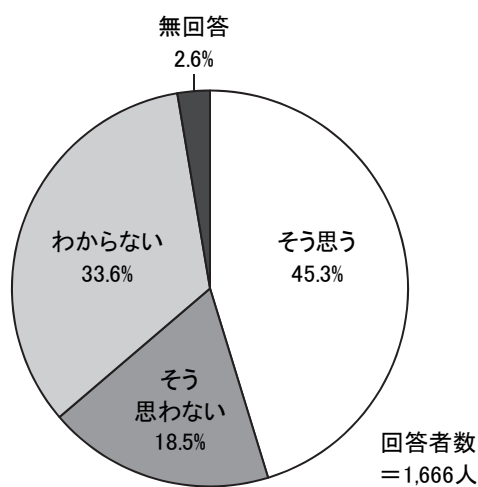
※『飲んでいる』 = 「1種類」 + 「2種類」 + 「3種類」 + 「4種類」 + 「5種類以上」

(6) 在宅療養に対する意向

問14 あなた(あて名のご本人)は、病気で長期の療養が必要になった場合、往診や訪問診療などの医療サービスを受けながら、自宅で療養生活を続けたいと思いますか。
(近い希望1つに○) 【比較調査239参照】

在宅療養に対する意向は、「そう思う」が 45.3%を占め、「そう思わない」18.5%のおおよそ 2.5 倍となっている。

図表1-24 在宅療養に対する意向(単数回答)



性別ごとにみると、「そう思う」との在宅療養意向を示した人の割合は、男性 50.3%、女性 41.1%と男性のほうが高い。

年齢別にみると、「そう思う」は年齢の高い層に高く、85歳以上では 54.8%と過半数を占める。

世帯構成別にみると、「そう思う」は夫婦のみ世帯がもっとも高く、50.8%を占める。

図表1-25 在宅療養に対する意向

		回答者数(人)	そう思う	そう思わない	わからない	無回答
全体		1,666	45.3	18.5	33.6	2.6
性別	男性	737	50.3	16.0	31.1	2.6
	女性	914	41.1	20.7	35.6	2.6
年齢別	65～69歳	479	42.8	20.3	34.7	2.3
	70～74歳	503	46.5	18.9	33.4	1.2
	75～79歳	372	42.5	18.0	36.0	3.5
	80～84歳	201	48.8	16.9	29.9	4.5
	85歳以上	93	54.8	11.8	30.1	3.2
世帯構成別	ひとり暮らし	282	36.5	24.1	37.9	1.4
	夫婦のみ	594	50.8	15.8	30.6	2.7
	子どもと同居	462	46.1	16.2	35.1	2.6
	子どもと孫と同居	187	38.0	26.2	34.2	1.6
	その他	100	43.0	15.0	38.0	4.0

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

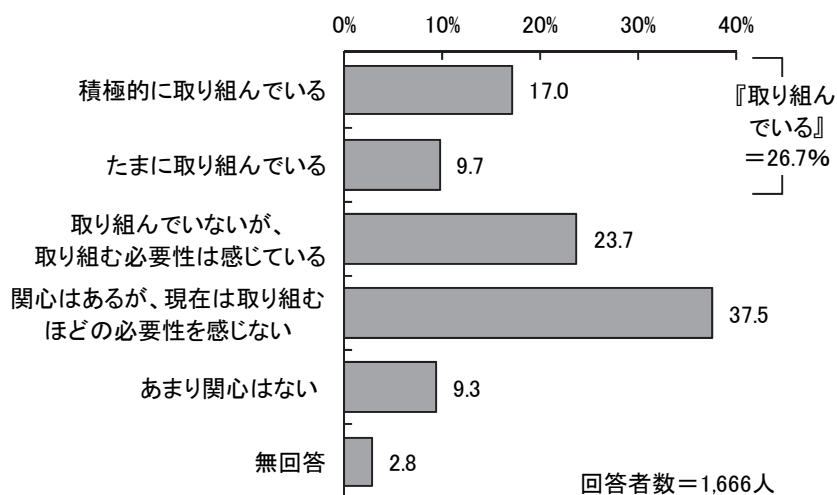
3. 介護予防について

(1) 介護予防のための取り組み状況

問15 今後取り組みたい活動(あて名のご本人)は、現在、介護予防のための取り組みをしていますか。(1つに○)

介護予防のための取り組み状況は、「関心はあるが、現在は取り組むほどの必要性を感じない」37.5%、「取り組んでいないが、取り組む必要性は感じている」23.7%の順となっている。「積極的に取り組んでいる」17.0%と「たまに取り組んでいる」9.7%をあわせた『取り組んでいる』人の割合は26.7%であった。

図表1-26 介護予防のための取り組み状況(単数回答)



※『取り組んでいる』 = 「積極的に取り組んでいる」 + 「たまに取り組んでいる」

性別ごとにみると、『取り組んでいる』は、男性 21.7%に比べて女性のほうが 30.7%と高い。

年齢別にみると、他に比べて 65～74 歳の年齢層において『取り組んでいる』割合が高い。一方、80～84 歳は『取り組んでいる』人の割合がもっとも低くなっている。

図表1-27 介護予防のための取り組み状況

		回答者数(人)	積極的に取り組んでいる	たまに取り組んでいる	取り組んでいないが、取り組む必要性を感じている	関心はあるが、現在は取り組むほどの必要性を感じない	あまり関心はない	無回答	『取り組んでいる』
全体		1,666	17.0	9.7	23.7	37.5	9.3	2.8	26.7
性別	男性	737	14.1	7.6	25.5	37.7	12.5	2.6	21.7
	女性	914	19.4	11.3	22.4	37.2	6.9	2.8	30.7
年齢別	65～69 歳	479	18.2	10.0	24.6	37.6	7.7	1.9	28.2
	70～74 歳	503	17.7	10.5	21.3	40.6	8.3	1.6	28.2
	75～79 歳	372	17.7	8.3	23.7	36.0	10.2	4.0	26.0
	80～84 歳	201	11.9	8.5	28.4	34.8	11.4	5.0	20.4
	85 歳以上	93	15.1	11.8	21.5	33.3	15.1	3.2	26.9

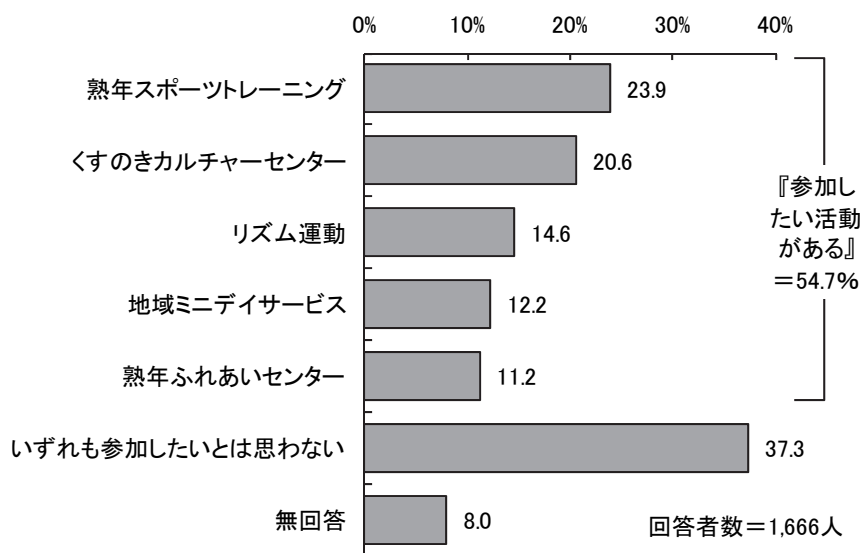
※『取り組んでいる』＝「積極的に取り組んでいる」＋「たまに取り組んでいる」

(2) 今後取り組みたい活動

問16 あなた(あて名のご本人)が、今後、続けたい・新たに参加したいと思う活動が、以下の中にありますか。(あてはまるものすべてに○)

今後取り組みたい活動をみると、「いずれも参加したいとは思わない」が37.3%を占め、『参加したい活動がある』人の割合は、54.7%となっている。具体的には、「熟年スポーツトレーニング」23.9%、「くすのきカルチャーセンター」20.6%、「リズム運動」14.6%の順となっている。

図表1-28 今後取り組みたい活動(複数回答)



※『参加したい活動がある』 = 100% - 「いずれも参加したいとは思わない」 - 「無回答」

性別ごとにみると、『参加したい活動がある』人の割合は、男性 49.1%に比べて女性のほうが 59.3%と約 10 ポイント高い。男性は「熟年スポーツトレーニング」、女性は「くすのきカルチャーセンター」をあげた人の割合が、それぞれもっとも高い。

年齢別にみると、年齢層が低いほど参加意向も高く、『参加したい活動がある』人の割合は、65～69 歳は約 6 割、70～79 歳は 5 割台、80 歳以上は 4 割台となっている。

図表1-29 今後取り組みたい活動

		回答者数(人)	熟年スポーツトレーニング	くすのきカルチャーセンター	リズム運動	地域ミニデイサービス	熟年ふれあいセンター	いずれも参加したいとは思わない	無回答	『参加したい活動がある』
全体		1,666	23.9	20.6	14.6	12.2	11.2	37.3	8.0	54.7
性別	男性	737	25.0	16.4	6.1	11.5	11.1	42.9	8.0	49.1
	女性	914	23.3	24.1	21.6	12.8	11.2	32.8	7.9	59.3
年齢別	65～69 歳	479	30.1	24.0	12.9	12.7	10.4	35.9	5.2	58.9
	70～74 歳	503	24.9	24.3	15.3	10.7	12.3	35.6	7.8	56.6
	75～79 歳	372	23.7	15.1	15.3	11.6	9.9	38.7	8.6	52.7
	80～84 歳	201	15.4	17.4	14.4	12.9	14.9	39.3	12.4	48.3
	85 歳以上	93	7.5	10.8	14.0	19.4	7.5	46.2	8.6	45.2

※『参加したい活動がある』=100%－「いずれも参加したいとは思わない」－「無回答」

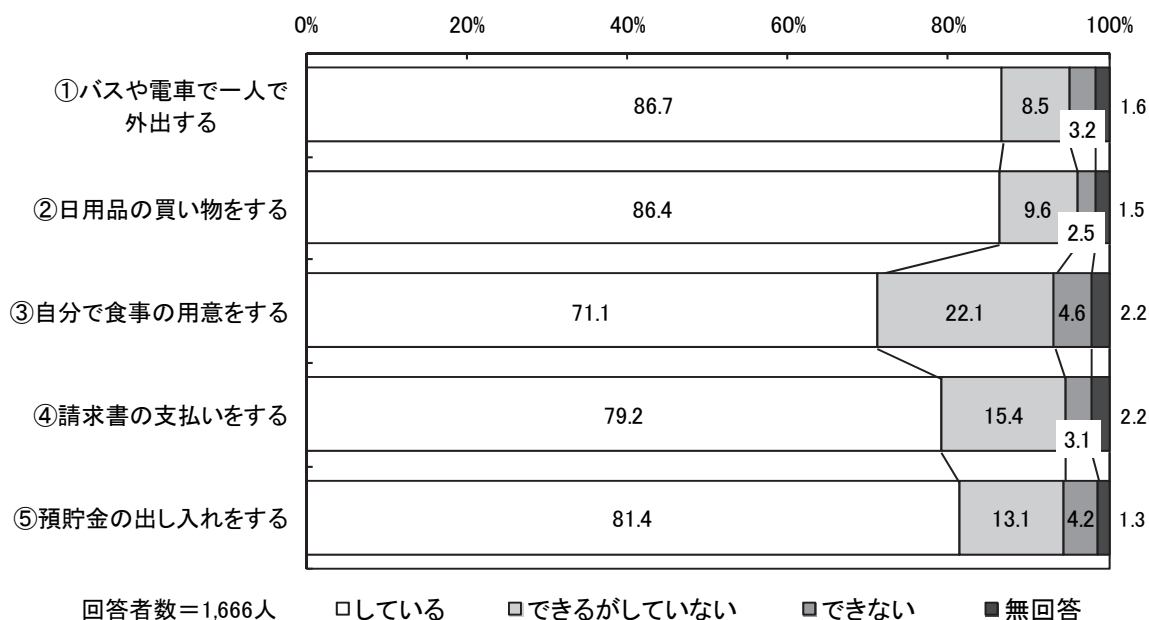
4. 日常生活機能の状況について

(1) 手段的日常生活動作(IADL)の自立度

問20 あなた(あて名のご本人)の日常生活等についてお答えください。(それぞれ1つに○)

手段的日常生活動作（IADL：交通機関の利用、家事、金銭管理など、日常生活を送るために必要な動作）の自立度をみると、「している」割合は、“①バスや電車で一人で外出する”“②日用品の買い物をする”“⑤預貯金の出し入れをする”が8割台、“④請求書の支払いをする”が約8割、もっとも自立度が低い“③自分で食事の用意をする”が71.1%となっている。

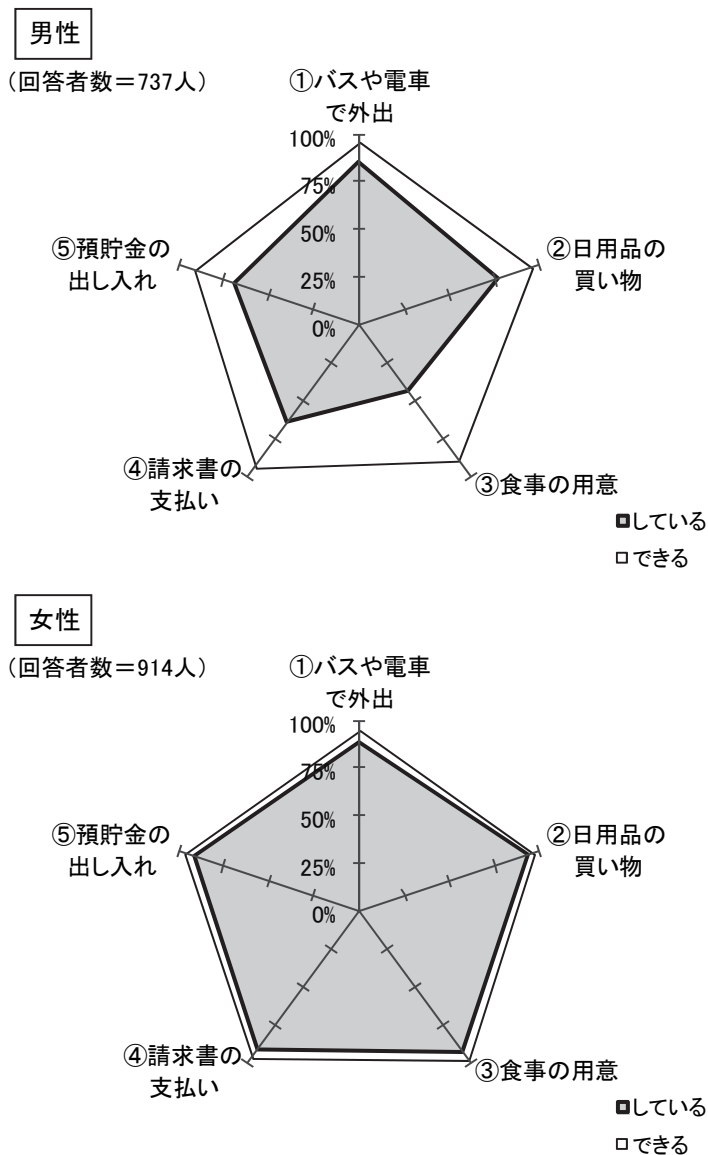
図表1-30 手段的日常生活動作(IADL)の自立度(各単数回答)



性別ごとにみると、「している割合」（下図のグレーの網掛け部分）は、男性が女性を大きく下回っていることがわかる。女性はいずれも8～9割台であるのに対し、男性はもっとも割合の高い“①バスや電車で外出”が85.2%であり、“③食事の用意”は44.1%にとどまっている。

「している」に「できるが、していない」をあわせた『できる』割合（下図の外側の枠）をみると、男性は①・②・④・⑤は9割台、③は8割台、女性はいずれも9割台となっている。

図表1-31 手段的日常生活動作(IADL)の自立度



※各項目の「している」、「できる」(「している」+「できるがしていない」)割合を掲載している

年齢別にみると、いずれの項目も年齢層が高くなるほど概ね「している」割合は低くなっており、加齢に伴い手段的日常生活動作（IADL）の自立度が低くなることがわかる。

図表1-32 手段的日常生活動作(IADL)の自立度

		回答者数(人)	①バスや電車で外出			②日用品の買物			③食事の用意		
			している	していない できるが	できない	している	していない できるが	できない	している	していない できるが	できない
全体		1,666	86.7	8.5	3.2	86.4	9.6	2.5	71.1	22.1	4.6
性別	男性	737	85.2	10.4	1.9	77.2	18.5	1.8	44.1	44.4	7.9
	女性	914	88.3	6.7	4.2	94.0	2.4	3.0	92.9	4.3	1.9
年齢別	65～69歳	479	89.1	8.4	1.5	90.2	7.9	1.0	78.1	18.0	3.5
	70～74歳	503	90.5	7.6	0.8	88.9	9.3	0.8	70.0	24.1	3.8
	75～79歳	372	87.6	7.8	2.7	86.6	9.4	2.2	72.6	19.9	3.8
	80～84歳	201	80.6	9.0	8.5	79.1	13.4	5.0	63.2	26.9	7.0
	85歳以上	93	63.4	17.2	16.1	71.0	10.8	15.1	53.8	31.2	12.9

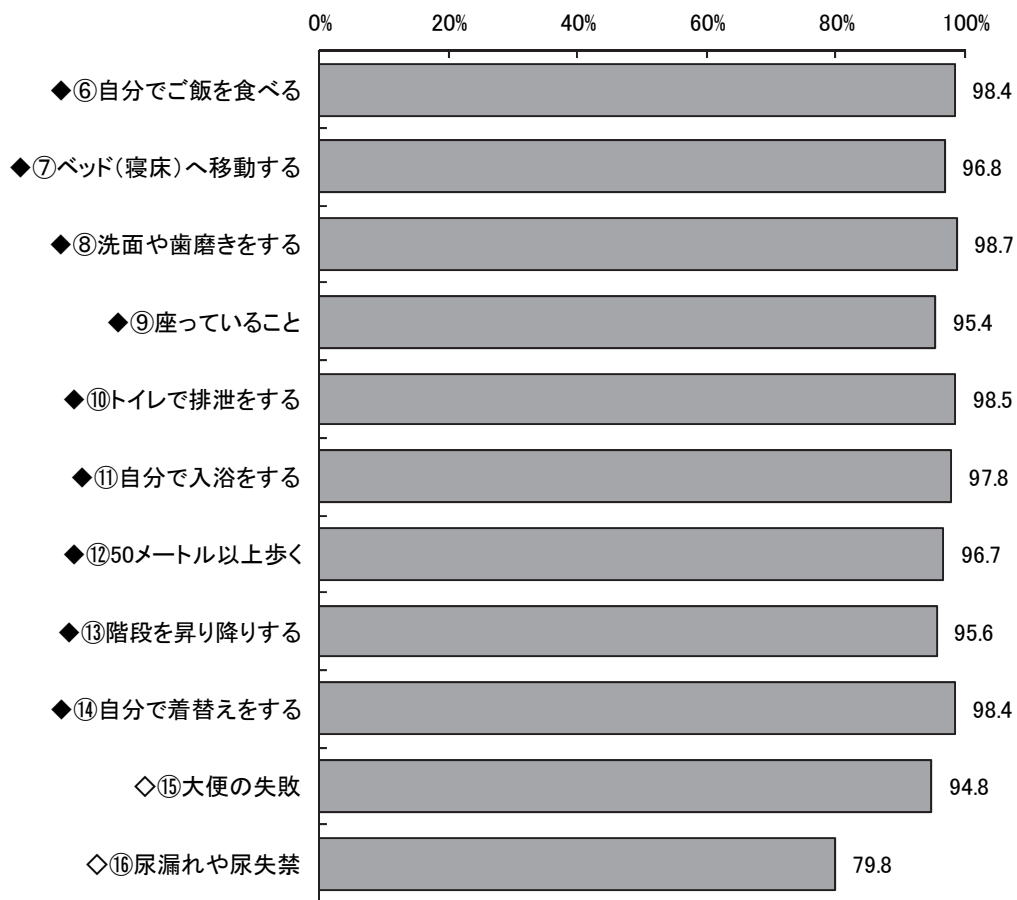
		回答者数(人)	④請求書の支払い			⑤預貯金の出し入れ		
			している	していない できるが	できない	している	していない できるが	できない
全体		1,666	79.2	15.4	3.1	81.4	13.1	4.2
性別	男性	737	64.2	28.9	3.9	68.7	22.9	6.1
	女性	914	91.2	4.7	2.4	91.6	5.3	2.6
年齢別	65～69歳	479	82.7	14.8	2.1	85.2	12.1	2.3
	70～74歳	503	81.1	14.3	2.2	83.5	11.9	3.8
	75～79歳	372	77.2	16.9	2.7	79.8	12.6	4.6
	80～84歳	201	76.6	14.4	5.0	76.1	15.9	6.0
	85歳以上	93	64.5	21.5	11.8	66.7	20.4	11.8

※「無回答」は掲載を省略している

(2) 日常生活動作(ADL)の自立度

日常生活動作（ADL：食事、移動、整容、トイレ動作、入浴など、日常生活を送るために必要な基本的な身体動作）の自立度をみると、⑥～⑭の各項目については、いずれも「できる」が9割以上となっている。また、“⑮大便の失敗”が「ない」は9割台、“⑯小便の失敗”が「ない」は約8割となっている。

図表1-33 日常生活動作(ADL)の自立度(各単数回答)



回答者数=1,666人

※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容
 ※⑥～⑭は「できる」割合、⑮・⑯は「ない」割合

図表1-34 日常生活動作(ADL)の自立度

	回答者数(人)	1	2	3	無回答
◆⑥自分でご飯を食べる	1,666	98.4	0.2	0.2	1.3
◆⑦ベッド(寝床)へ移動する	1,666	96.8	0.4	0.1	2.7
◆⑧洗面や歯磨きをする	1,666	98.7	0.1	0.1	1.1
◆⑨座っていること	1,666	95.4	0.7	2.4	1.6
◆⑩トイレで排泄をする	1,666	98.5	0.1	0.1	1.3
◆⑪自分で入浴をする	1,666	97.8	0.7	0.2	1.3
◆⑫50メートル以上歩く	1,666	96.7	1.1	1.1	1.1
◆⑬階段を昇り降りする	1,666	95.6	1.3	1.9	1.3
◆⑭自分で着替えをする	1,666	98.4	0.3	0.1	1.1
◇⑮大便の失敗	1,666	94.8	3.8	0.1	1.3
◇⑯尿漏れや尿失禁	1,666	79.8	17.4	1.4	1.4

※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

※⑥～⑧、⑩～⑭の選択肢は、「1. できる」「2. 介助があればできる」「3. できない」

⑨の選択肢は、「1. できる」「2. 支えが必要」「3. できない」

⑮・⑯の選択肢は、「1. ない」「2. ときどきある」「3. よくある」

性別による差がみられるのは“⑯小便の失敗”であり、「ない」は男性の83.7%に対して、女性は76.8%となっている。

年齢別にみると、いずれの項目も年齢層が高くなるほど、概ね「している」割合は低くなっているが、“⑨座っていること”“⑪入浴”“⑫50メートル以上歩く”“⑬階段の昇り降り”“⑮大便の失敗”“⑯小便の失敗”は、特にその差が顕著である。

図表1-35 日常生活動作(ADL)の自立度

		回答者数(人)	⑥食事			⑦ベッドへの移動			⑧洗面や歯磨き			⑨座っていること		
			できる	介助があれば できる	できない	できる	介助があれば できる	できない	できる	介助があれば できる	できない	できる	支えが必要	できない
全体		1,666	98.4	0.2	0.2	96.8	0.4	0.1	98.7	0.1	0.1	95.4	0.7	2.4
性別	男性	737	97.0	0.4	0.3	95.8	0.5	0.0	97.8	0.1	0.0	95.5	0.7	1.6
	女性	914	99.6	0.0	0.0	97.8	0.2	0.1	99.5	0.0	0.1	95.4	0.7	2.8
年齢別	65～69歳	479	99.4	0.0	0.0	98.5	0.2	0.0	99.4	0.0	0.0	98.3	0.0	0.8
	70～74歳	503	98.6	0.0	0.2	97.4	0.2	0.2	98.8	0.0	0.2	95.6	1.0	2.2
	75～79歳	372	97.6	0.3	0.0	95.7	0.8	0.0	97.8	0.3	0.0	95.2	1.1	1.6
	80～84歳	201	97.5	1.0	0.0	95.5	0.5	0.0	98.5	0.0	0.0	92.0	1.0	5.0
	85歳以上	93	96.8	0.0	2.2	93.5	0.0	1.1	97.8	0.0	1.1	87.1	0.0	8.6

		回答者数(人)	⑩トイレでの排泄			⑪入浴			⑫50メートル以上歩く			⑬階段の昇り降り		
			できる	介助があれば できる	できない	できる	介助があれば できる	できない	できる	介助があれば できる	できない	できる	介助があれば できる	できない
全体		1,666	98.5	0.1	0.1	97.8	0.7	0.2	96.7	1.1	1.1	95.6	1.3	1.9
性別	男性	737	98.0	0.3	0.0	97.4	0.1	0.3	96.6	0.5	1.1	95.9	0.5	1.5
	女性	914	99.0	0.0	0.1	98.4	1.0	0.1	96.8	1.5	1.0	95.2	2.0	2.2
年齢別	65～69歳	479	99.2	0.0	0.0	99.2	0.0	0.0	99.0	0.4	0.0	98.7	0.4	0.2
	70～74歳	503	98.8	0.0	0.0	98.8	0.2	0.0	98.4	0.4	0.2	98.2	0.4	0.4
	75～79歳	372	97.8	0.5	0.0	97.0	0.5	0.5	96.2	0.8	1.3	94.4	1.1	2.2
	80～84歳	201	98.5	0.0	0.0	97.0	2.0	0.0	93.0	3.5	2.5	89.1	4.0	6.0
	85歳以上	93	96.8	0.0	2.2	91.4	4.3	2.2	84.9	4.3	7.5	84.9	5.4	7.5

		回答者数(人)	⑭着替え			⑮大便の失敗			⑯小便の失敗		
			できる	介助があれば できる	できない	ない	ときどきある	よくある	ない	ときどきある	よくある
全体		1,666	98.4	0.3	0.1	94.8	3.8	0.1	79.8	17.4	1.4
性別	男性	737	97.4	0.5	0.0	94.0	4.2	0.0	83.7	13.2	0.9
	女性	914	99.3	0.1	0.1	95.5	3.4	0.2	76.8	20.7	1.8
年齢別	65～69歳	479	99.4	0.0	0.0	97.1	2.3	0.0	86.6	11.9	0.8
	70～74歳	503	99.0	0.0	0.0	97.0	1.8	0.2	84.5	13.9	0.6
	75～79歳	372	97.6	0.5	0.0	92.2	6.2	0.0	75.3	21.0	2.2
	80～84歳	201	98.0	1.0	0.0	93.0	5.0	0.0	68.2	27.9	1.0
	85歳以上	93	94.6	1.1	2.2	87.1	9.7	1.1	62.4	29.0	5.4

※「無回答」は記載を省略している

(3)日用品の買い物をする人

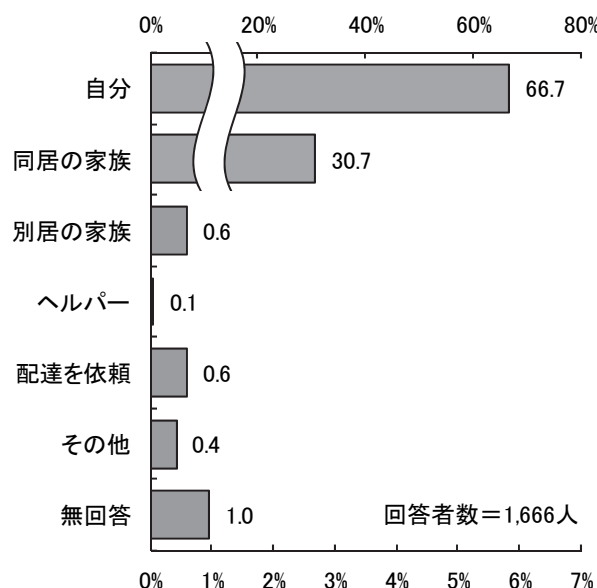
問17 日用品の買い物をする人は、主にどなたですか。(1つに○)

日用品の買い物をする人は、「自分」が66.7%を占め、次いで「同居の家族」が30.7%となっている。

性別ごとにみると、女性は8割台が「自分」であるのに対し、男性は4割台であり、「同居の家族」が54.4%と過半数を占める。

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「自分」の割合は低下する傾向にあり、それに伴い「同居の家族」の割合が高くなる傾向にある。

図表1-36 日用品の買い物をする人(単数回答)



図表1-37 日用品の買い物をする人

		回答者数(人)	自分	同居の家族	別居の家族	ヘルパー	配達を依頼	その他	無回答
全体		1,666	66.7	30.7	0.6	0.1	0.6	0.4	1.0
性別	男性	737	43.0	54.4	0.4	0.1	0.5	0.3	1.2
	女性	914	85.8	11.6	0.8	0.0	0.7	0.5	0.7
年齢別	65～69歳	479	71.6	25.9	0.4	0.0	1.3	0.2	0.6
	70～74歳	503	67.0	31.4	0.4	0.0	0.2	0.6	0.4
	75～79歳	372	68.3	29.0	0.5	0.3	0.0	0.0	1.9
	80～84歳	201	58.2	37.8	1.0	0.0	0.5	0.5	2.0
	85歳以上	93	51.6	41.9	2.2	0.0	2.2	2.2	0.0

(4) 食事の用意をする人

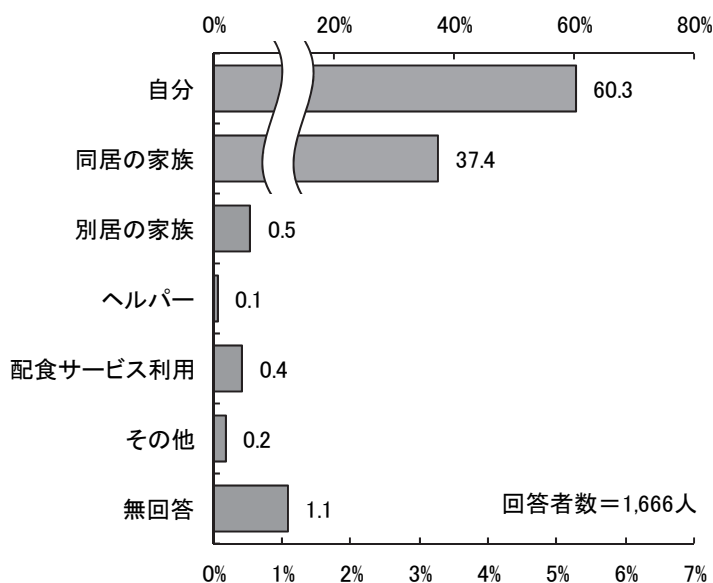
問18 あなた(あて名のご本人)の食事の用意をする人は、主にどなたですか。(1つに○)

食事の用意をする人は、「自分」が 60.3%を占め、次いで「同居の家族」が 37.4%となっている。

性別ごとにみると、日用品の買い物と同様に、女性は8割台が「自分」である。一方、男性は2割台であり、「同居の家族」が7割台を占める。

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「自分」の割合は低下し、「同居の家族」の割合が高くなっている。

図表1-38 食事の用意をする人(単数回答)



図表1-39 食事の用意をする人

		回答者数(人)	自分	同居の家族	別居の家族	ヘルパー	配食サービス利用	その他	無回答
全体		1,666	60.3	37.4	0.5	0.1	0.4	0.2	1.1
性別	男性	737	24.8	71.6	0.9	0.1	0.8	0.3	1.4
	女性	914	88.8	10.0	0.2	0.0	0.1	0.1	0.8
年齢別	65~69歳	479	68.9	29.6	0.6	0.0	0.2	0.0	0.6
	70~74歳	503	59.2	39.0	0.4	0.0	0.6	0.4	0.4
	75~79歳	372	59.1	38.2	0.3	0.3	0.3	0.0	1.9
	80~84歳	201	52.7	43.3	1.0	0.0	0.5	0.0	2.5
	85歳以上	93	43.0	52.7	1.1	0.0	1.1	1.1	1.1

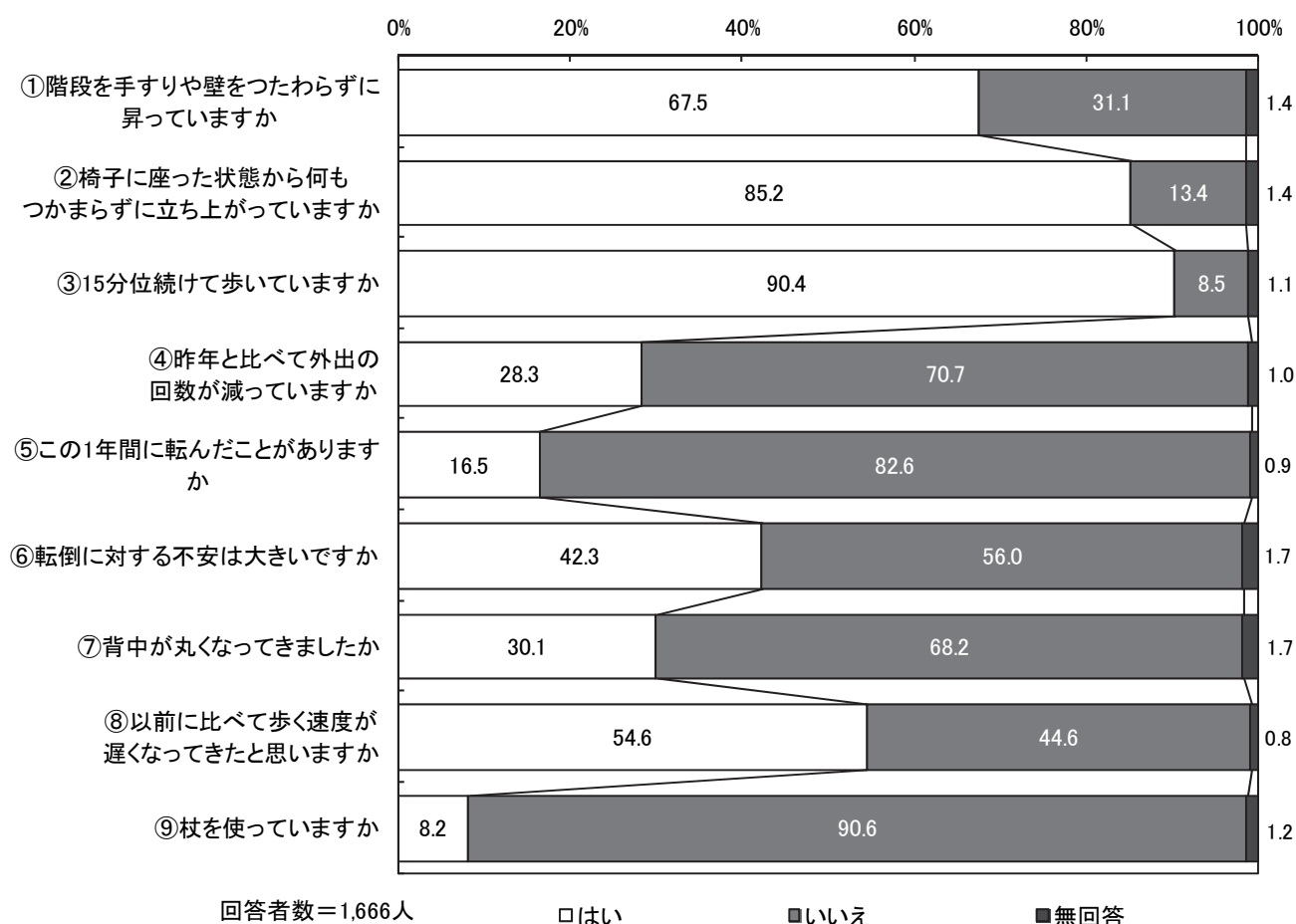
(5) 運動や転倒の状況

問21 「運動や転倒」状況についてお答えください。(それぞれ1つに○)

運動や転倒の状況を見ると、①～③の肯定的質問に「はい」と回答した人の割合は、“①階段の手すりや壁をつたわずに昇っていますか”が67.5%と、他の2項目に比べて低くなっている。

④～⑨の否定的質問に「はい」と回答した人の割合は、“⑥転倒に対する不安は大きいですか”が42.3%、“⑧以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか”が54.6%と、他の項目に比べて高くなっている。

図表1-40 運動や転倒の状況(各単数回答)



性別ごとにみると、「はい」と回答した人の割合は、①～③の肯定的質問はいずれも男性、④～⑨の否定的質問はいずれも女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「はい」と回答した人の割合は、①～③の肯定的質問はいずれも年齢層が高くなるほど低くなっている。特に、“①階段を昇る時、手すりや壁をつたわらない”は、65～69歳の8割台から、85歳以上では3割台に低下している。④～⑨の否定的質問はいずれも年齢層が高くなるほど高くなっている。特に、“⑧歩く速度が遅くなってきた”は、65～69歳の3割台から、85歳以上では約8割にのぼっている。

図表1-41 運動や転倒の状況

		回答者数(人)	①階段を昇る時、手すりや壁をつたわらない			②椅子から立つときつかまらぬ			③15分位続けて歩くことができる		
			はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体		1,666	67.5	31.1	1.4	85.2	13.4	1.4	90.4	8.5	1.1
性別	男性	737	75.2	22.7	2.2	89.0	8.7	2.3	90.8	7.5	1.8
	女性	914	61.8	37.4	0.8	82.6	16.7	0.7	89.9	9.5	0.5
年齢別	65～69歳	479	83.1	16.5	0.4	92.5	6.9	0.6	92.3	6.9	0.8
	70～74歳	503	72.8	26.2	1.0	89.3	9.5	1.2	91.5	7.6	1.0
	75～79歳	372	60.5	37.9	1.6	82.0	15.9	2.2	91.9	7.0	1.1
	80～84歳	201	46.3	50.2	3.5	73.6	24.4	2.0	87.6	11.4	1.0
	85歳以上	93	36.6	60.2	3.2	64.5	33.3	2.2	76.3	20.4	3.2

		回答者数(人)	④昨年と比べ外出の回数が減った			⑤この1年間に転んだことがある			⑥転倒に対する不安が大きい		
			はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体		1,666	28.3	70.7	1.0	16.5	82.6	0.9	42.3	56.0	1.7
性別	男性	737	25.6	72.7	1.6	15.3	83.0	1.6	27.0	70.4	2.6
	女性	914	30.3	69.3	0.4	17.4	82.3	0.3	54.4	44.6	1.0
年齢別	65～69歳	479	20.9	78.3	0.8	11.9	87.5	0.6	29.4	69.5	1.0
	70～74歳	503	21.7	77.7	0.6	12.9	86.3	0.8	38.6	59.8	1.6
	75～79歳	372	29.3	69.4	1.3	19.6	79.3	1.1	46.8	51.1	2.2
	80～84歳	201	49.3	49.3	1.5	23.4	75.6	1.0	60.2	37.3	2.5
	85歳以上	93	53.8	45.2	1.1	30.1	67.7	2.2	69.9	28.0	2.2

		回答者数(人)	⑦背中が丸くなってきた		
			はい	いいえ	無回答
全体		1,666	30.1	68.2	1.7
性別	男性	737	23.1	74.9	2.0
	女性	914	35.7	62.8	1.5
年齢別	65～69歳	479	22.3	76.4	1.3
	70～74歳	503	27.2	71.8	1.0
	75～79歳	372	31.5	66.1	2.4
	80～84歳	201	45.3	52.2	2.5
	85歳以上	93	46.2	49.5	4.3

			⑧歩く速度が遅くなってきた		
	はい	いいえ	無回答		
全体			54.6	44.6	0.8
性別	男性	53.7	44.9	1.4	
	女性	55.1	44.4	0.4	
年齢別	65～69歳	38.4	61.0	0.6	
	70～74歳	49.7	49.7	0.6	
	75～79歳	62.9	36.3	0.8	
	80～84歳	76.6	21.9	1.5	
	85歳以上	79.6	18.3	2.2	

			⑨杖を使っている		
	はい	いいえ	無回答		
全体			8.2	90.6	1.2
性別	男性	5.0	93.2	1.8	
	女性	10.4	88.8	0.8	
年齢別	65～69歳	2.1	97.3	0.6	
	70～74歳	4.4	94.8	0.8	
	75～79歳	7.5	91.4	1.1	
	80～84歳	22.4	75.6	2.0	
	85歳以上	31.2	63.4	5.4	

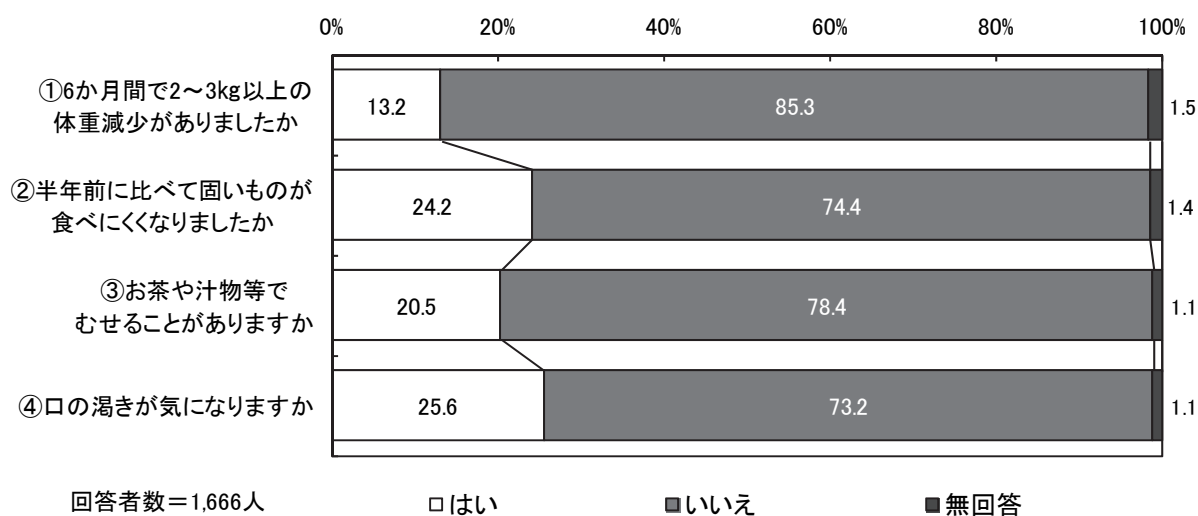
(6) 栄養や口腔機能の状況

問22 「栄養や口の健康」状況についてお答えください。(それぞれ1つに○)

栄養に関する“①最近6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか”に「はい」と回答した人の割合は、13.2%となっている。

口腔機能に関する②～④については、いずれも2割台が「はい」と回答している。

図表1-42 栄養や口腔機能の状況(各単数回答)



栄養に関する“①6 か月間で 2～3 kg以上体重が減った”に「はい」と回答した人の割合は、性別では男性より女性のほうが高いものの、年齢による顕著な差はみられない。

口腔機能に関する②～④について性別ごとにみると、「はい」と回答した人の割合は“③お茶や汁物でむせることがある”“④口の渇きが気になる”は男性より女性のほうが高い。年齢別にみると、「はい」と回答した人の割合はいずれも年齢層が高くなるほど概ね割合も高くなっており、特に“②半年前に比べ固いものが食べにくい”は 65～69 歳の 1 割台から 80 歳以上は 3 割台となっている。

図表1-43 栄養や口腔機能の状況

		回答者数(人)	①6か月間で2～3kg以上体重が減った			②半年前に比べ固いものが食べにくい		
			はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体		1,666	13.2	85.3	1.5	24.2	74.4	1.4
性別	男性	737	13.0	84.8	2.2	23.5	74.4	2.2
	女性	914	13.5	85.6	1.0	24.5	74.8	0.7
年齢別	65～69歳	479	11.9	87.5	0.6	18.6	80.6	0.8
	70～74歳	503	16.1	82.9	1.0	19.9	79.3	0.8
	75～79歳	372	11.6	86.8	1.6	28.0	70.7	1.3
	80～84歳	201	12.9	84.1	3.0	35.8	61.2	3.0
	85歳以上	93	14.0	81.7	4.3	33.3	63.4	3.2

		回答者数(人)	③お茶や汁物でむせることがある			④口の渇きが気になる		
			はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体		1,666	20.5	78.4	1.1	25.6	73.2	1.1
性別	男性	737	18.0	80.5	1.5	21.4	76.7	1.9
	女性	914	22.2	76.9	0.9	28.9	70.6	0.5
年齢別	65～69歳	479	18.0	81.6	0.4	18.8	80.6	0.6
	70～74歳	503	17.1	82.1	0.8	24.3	75.0	0.8
	75～79歳	372	23.9	75.0	1.1	30.6	68.3	1.1
	80～84歳	201	26.4	71.6	2.0	34.8	63.2	2.0
	85歳以上	93	24.7	71.0	4.3	29.0	66.7	4.3

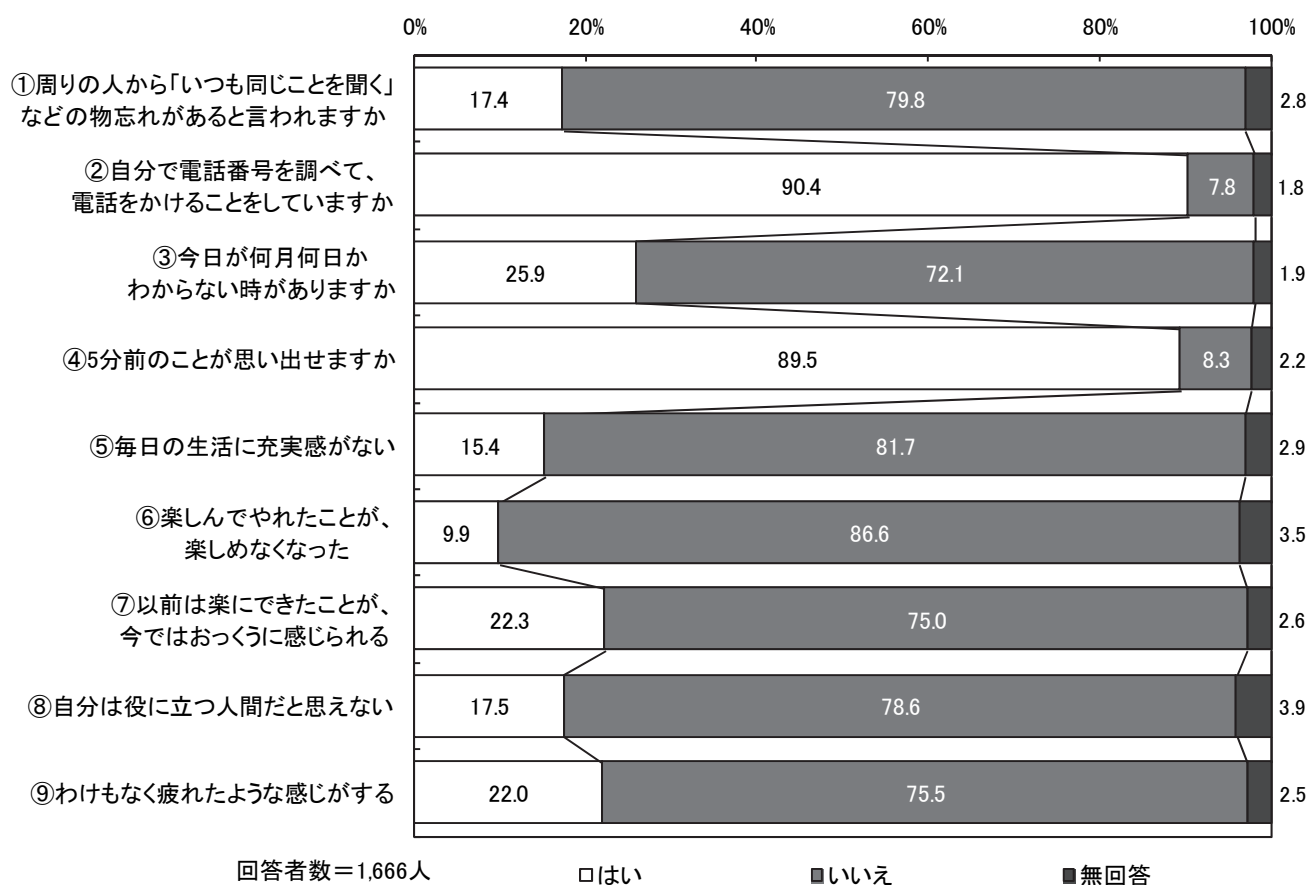
(7)物忘れや気分の状況

問24 「物忘れや気分」の状況についてお答えください。(それぞれ1つに○)

もの忘れの状況に関する①～④のうち、肯定的な質問である“②自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか”“④5分前のことが思い出せますか”はともに約9割が「はい」と回答している。一方、否定的な質問である“①周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるとされますか”に「はい」は1割台、“③今日が何月何日かわからない時がありますか”は2割台を占める。

気分の状況に関する⑤～⑨はいずれも否定的な質問であり、各項目1～2割台が「はい」と回答している。

図表1-44 物忘れや気分の状況(各単数回答)



もの忘れの状況に関する①～④について性別ごとにみると、「はい」と回答した人の割合は、いずれも女性のほうが若干高い。年齢別にみると、肯定的な質問である②・④は概ね年齢層が低いほど、否定的な質問である①・③は年齢層が高いほど割合が高くなっている。

気分の状況に関する⑤～⑨について性別ごとにみると、「はい」と回答した人の割合は、⑤・⑧は男性、⑦・⑨は女性のほうが高くなっている。年齢別にみると、いずれも年齢層が高くなるほど割合も高くなっている。

図表1-45 物忘れや気分の状況

		回答者数(人)	①「いつも同じことを聞く」など物忘れがある			②自分で電話番号を調べ、電話をかける			③今日が何月何日かわからない時がある		
			はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体		1,666	17.4	79.8	2.8	90.4	7.8	1.8	25.9	72.1	1.9
性別	男性	737	17.2	79.6	3.1	89.3	8.3	2.4	23.5	73.7	2.8
	女性	914	17.4	80.3	2.3	91.4	7.4	1.2	27.7	71.2	1.1
年齢別	65～69歳	479	14.2	83.5	2.3	90.6	7.1	2.3	17.7	80.2	2.1
	70～74歳	503	13.5	84.5	2.0	92.4	6.4	1.2	24.7	74.2	1.2
	75～79歳	372	18.5	78.8	2.7	91.7	6.5	1.9	29.3	68.5	2.2
	80～84歳	201	26.9	69.7	3.5	88.1	10.4	1.5	34.8	63.7	1.5
	85歳以上	93	28.0	65.6	6.5	79.6	18.3	2.2	40.9	54.8	4.3

		回答者数(人)	④5分前のことが思い出せる			⑤毎日の生活に充実感がない			⑥楽しんでやれたことが、楽しめなくなった		
			はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体		1,666	89.5	8.3	2.2	15.4	81.7	2.9	9.9	86.6	3.5
性別	男性	737	88.2	8.5	3.3	16.1	79.9	3.9	9.6	85.8	4.6
	女性	914	90.7	8.0	1.3	14.6	83.4	2.1	9.8	87.5	2.6
年齢別	65～69歳	479	91.2	6.5	2.3	12.7	84.8	2.5	7.1	90.0	2.9
	70～74歳	503	91.8	6.8	1.4	10.7	87.3	2.0	7.4	90.1	2.6
	75～79歳	372	87.6	9.9	2.4	19.4	77.4	3.2	11.6	85.2	3.2
	80～84歳	201	84.1	12.9	3.0	19.4	75.6	5.0	14.9	78.1	7.0
	85歳以上	93	87.1	9.7	3.2	26.9	68.8	4.3	18.3	77.4	4.3

		回答者数(人)	⑦以前は楽にできた事が、おっくうに感じる			⑧自分は役に立つ人間だと思えない			⑨わけもなく疲れたような感じがする		
			はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体		1,666	22.3	75.0	2.6	17.5	78.6	3.9	22.0	75.5	2.5
性別	男性	737	20.5	76.3	3.3	19.3	76.0	4.7	20.2	76.3	3.5
	女性	914	23.6	74.3	2.1	16.0	80.9	3.2	23.0	75.4	1.6
年齢別	65～69歳	479	12.9	84.6	2.5	11.7	84.6	3.8	16.1	81.2	2.7
	70～74歳	503	19.7	78.5	1.8	16.5	81.1	2.4	17.3	81.3	1.4
	75～79歳	372	25.3	71.8	3.0	19.6	76.1	4.3	24.7	72.6	2.7
	80～84歳	201	33.8	62.2	4.0	25.9	69.7	4.5	34.8	61.7	3.5
	85歳以上	93	46.2	50.5	3.2	25.8	64.5	9.7	34.4	61.3	4.3

(8)その日の活動の判断の可否、意思の伝達の可否

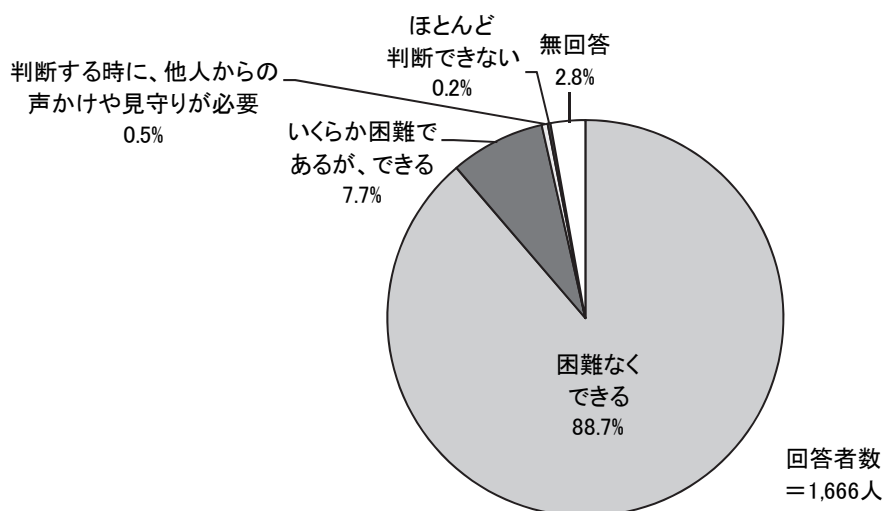
問25 あなた(あて名のご本人)は、その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか。(1つに○)

問26 あなた(あて名のご本人)は、人に自分の考えをうまく伝えられますか。(1つに○)

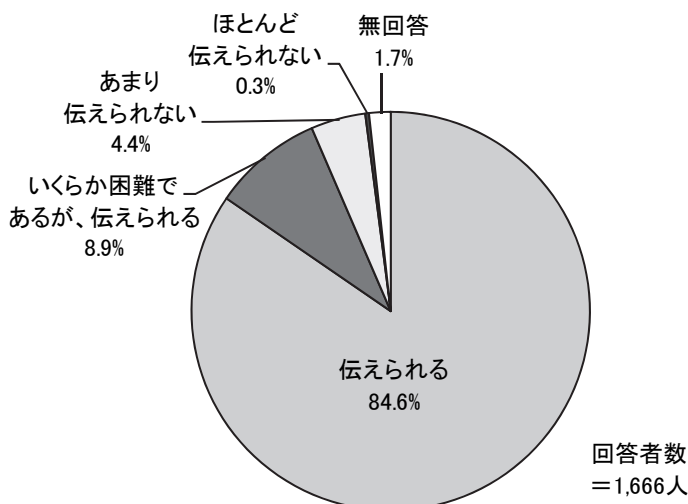
その日の活動の判断の可否は、「困難なくできる」が 88.7%を占め、「いくらか困難であるが、できる」7.7%、「判断する時に、他人からの声かけや見守りが必要」0.5%、「ほとんど判断できない」0.2%となっている。

意思の伝達の可否は、「伝えられる」が 84.6%を占め、「いくらか困難であるが、伝えられる」8.9%、「あまり伝えられない」4.4%、「ほとんど伝えられない」0.3%となっている。

図表1-46 その日の活動の判断の可否(単数回答)



図表1-47 意思の伝達の可否(単数回答)



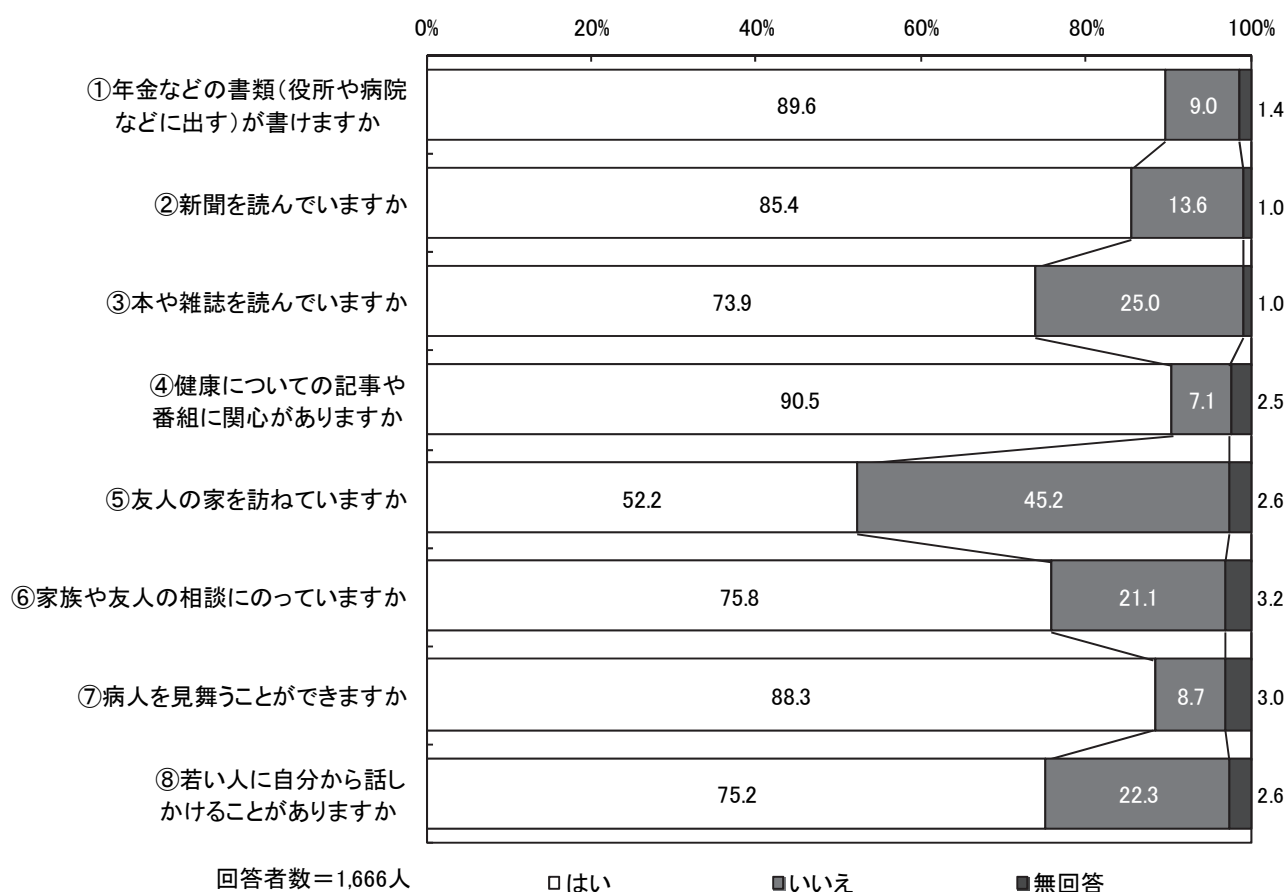
(9) 社会活動の状況

問23 「社会活動」状況についてお答えください。(それぞれ1つに○)

知的能動性（余暇や創作など生活を楽しむ能力）の状況に関する①～④について、「はい」と回答した人の割合は“③本や雑誌を読んでいますか”73.9%がもっとも低く、他の3項目は8～9割台となっている。

社会的役割（地域で社会的な役割を果たす能力）の状況に関する⑤～⑧について、「はい」と回答した人の割合は、知的能動性に関する項目に比べて全体的に低く、“⑤友人の家を訪ねていますか”は5割台、“⑥家族や友人の相談にのっていますか”“⑧若い人に自分から話しかけることがありますか”が7割台、“⑦病人を見舞うことができますか”が8割台となっている。

図表1-48 社会活動の状況(各単数回答)



知的能動性の状況に関する①～④について性別ごとにみると、「はい」と回答した人の割合は、“②新聞を読んでいる”は男性、“④健康についての記事や番組に関心がある”は女性のほうが高くなっている。年齢別にみると、②を除く3項目は、年齢層が高くなるほど割合は低くなっており、特に“③本や雑誌を読んでいる”は65～69歳の8割台から85歳以上では5割台となっている。

社会的役割の状況に関する⑤～⑧について性別ごとにみると、「はい」と回答した人の割合は、⑦を除く3項目は女性のほうが高くなっている。年齢別にみると、いずれも概ね年齢層が高くなるほど割合は低くなっている。

図表1-49 社会活動の状況

		回答者数(人)	①年金などの書類を自分で書ける			②新聞を読んでいる			③本や雑誌を読んでいる			④健康についての記事や番組に関心がある		
			はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体		1,666	89.6	9.0	1.4	85.4	13.6	1.0	73.9	25.0	1.0	90.5	7.1	2.5
性別	男性	737	89.0	9.4	1.6	90.5	8.1	1.4	73.4	25.1	1.5	86.3	10.4	3.3
	女性	914	90.2	8.8	1.1	81.5	17.8	0.7	74.7	24.6	0.7	93.9	4.4	1.8
年齢別	65～69歳	479	95.0	4.4	0.6	84.3	15.0	0.6	81.6	17.5	0.8	89.1	9.0	1.9
	70～74歳	503	92.2	6.8	1.0	86.3	12.9	0.8	76.1	22.9	1.0	91.7	6.6	1.8
	75～79歳	372	87.1	10.8	2.2	84.4	14.0	1.6	72.0	26.6	1.3	91.7	5.1	3.2
	80～84歳	201	82.1	15.9	2.0	84.6	14.4	1.0	63.2	35.8	1.0	90.0	7.0	3.0
	85歳以上	93	73.1	24.7	2.2	90.3	8.6	1.1	55.9	43.0	1.1	86.0	8.6	5.4

		回答者数(人)	⑤友人の家を訪ねている			⑥家族や友人の相談にのっている			⑦病人を見舞うことができる			⑧若い人に自分から話しかけることがある		
			はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体		1,666	52.2	45.2	2.6	75.8	21.1	3.2	88.3	8.7	3.0	75.2	22.3	2.6
性別	男性	737	41.2	55.2	3.5	68.7	27.8	3.5	89.0	7.7	3.3	70.1	26.3	3.5
	女性	914	61.1	37.1	1.9	81.5	15.6	2.8	88.1	9.3	2.6	79.5	18.7	1.8
年齢別	65～69歳	479	50.9	46.8	2.3	76.8	20.5	2.7	92.7	4.8	2.5	78.1	19.8	2.1
	70～74歳	503	54.5	43.5	2.0	79.7	18.7	1.6	92.8	5.2	2.0	78.7	19.7	1.6
	75～79歳	372	52.2	45.2	2.7	75.8	20.2	4.0	88.2	8.6	3.2	73.1	23.1	3.8
	80～84歳	201	53.2	43.3	3.5	70.6	23.9	5.5	79.6	15.4	5.0	69.2	26.9	4.0
	85歳以上	93	40.9	53.8	5.4	59.1	34.4	6.5	61.3	32.3	6.5	64.5	32.3	3.2

(10)外出頻度

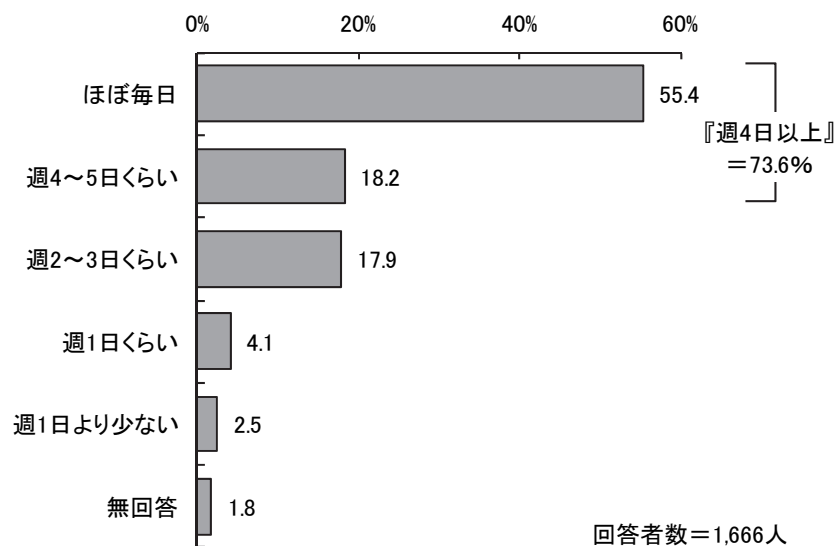
問27 あなた(あて名のご本人)は、どのくらい外出をしていますか。(1つに○)

外出頻度は、「ほぼ毎日」が55.4%と過半数を占める。次いで「週4～5日くらい」18.2%であり、これらをあわせた73.6%は『週4日以上』外出していると回答している。一方、閉じこもりのリスクのある「週1日より少ない」は2.5%であった。

性別ごとにみると、閉じこもりのリスクのある「週1日より少ない」割合は、男性2.4%、女性2.6%と、顕著な差はみられない。

年齢別にみると、閉じこもりのリスクのある「週1日より少ない」割合は、年齢層が高くなるほど高く、65～69歳の1.7%から、85歳以上は14.0%と1割を超える。

図表1-50 外出頻度(単数回答)



図表1-51 外出頻度

		回答者数(人)	ほぼ毎日	週4～5日くらい	週2～3日くらい	週1日くらい	週1日より少ない	無回答
全体		1,666	55.4	18.2	17.9	4.1	2.5	1.8
性別	男性	737	60.7	14.1	15.7	4.7	2.4	2.3
	女性	914	51.0	21.8	19.8	3.5	2.6	1.3
年齢別	65～69歳	479	60.1	18.2	14.6	3.5	1.7	1.9
	70～74歳	503	60.0	17.5	17.3	3.2	0.8	1.2
	75～79歳	372	52.4	21.2	18.3	4.3	1.9	1.9
	80～84歳	201	46.8	19.4	21.9	4.0	5.0	3.0
	85歳以上	93	33.3	11.8	29.0	9.7	14.0	2.2

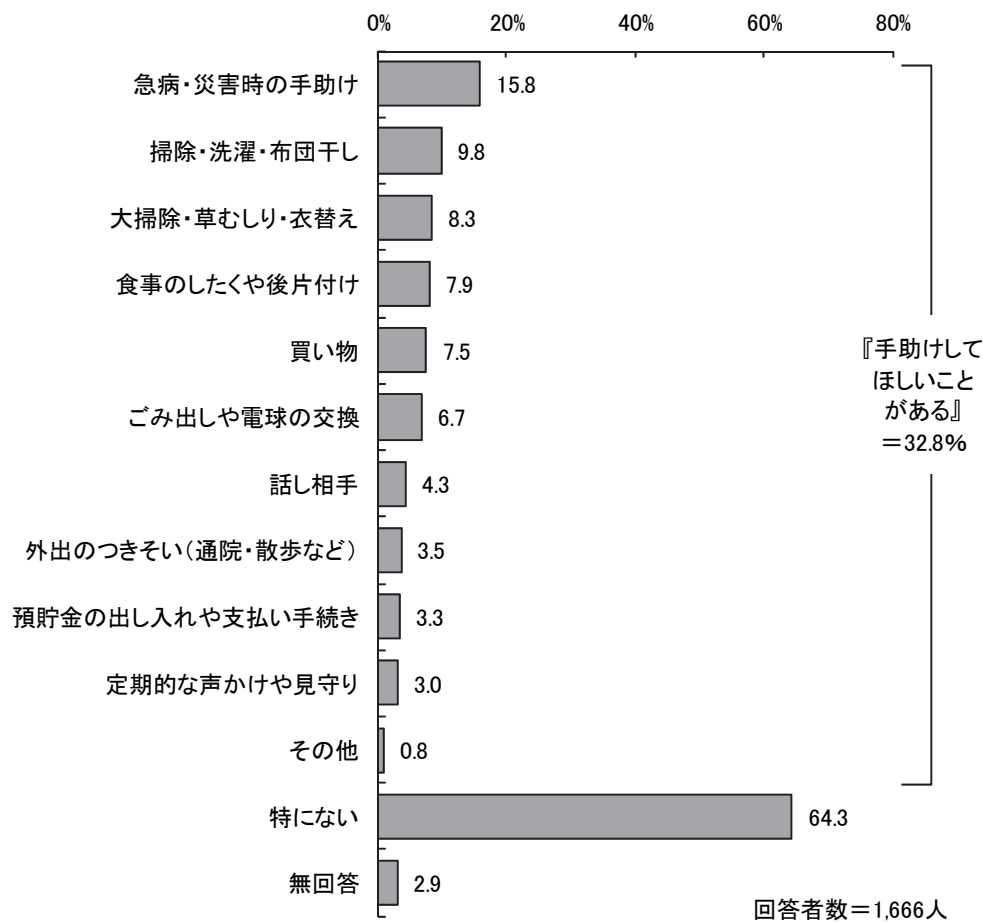
(11) 日常生活の中で手助けしてほしいこと

問19 あなた(あて名のご本人)は、日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことがありますか。(あてはまるものすべてに○) 【比較調査243頁参照】

日常生活の中で手助けしてほしいことは「特にない」は 64.3%であり、32.8%が『手助けしてほしいことがある』と回答している。

具体的に手助けしてほしいことは、「急病・災害時の手助け」15.8%、「掃除・洗濯・布団干し」9.8%、「大掃除・草むしり・衣替え」8.3%が上位3項目となっている。

図表1-52 日常生活の中で手助けしてほしいこと(複数回答)



※『手助けしてほしいことがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

性別ごとにみると、『手助けしてほしいことがある』割合は、男性の 23.3%に対して、女性は 40.2%と男性を大きく上回っている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど『手助けしてほしいことがある』割合も高くなり、85歳以上では 58.1%と 6割近い。

世帯構成別にみると、ひとり暮らしの人の 40.0%が『手助けしてほしいことがある』と回答しており、他に比べて高い割合となっている。

図表1-53 日常生活の中で手助けしてほしいこと

		回答者数(人)	急病・災害時の手助け	掃除・洗濯・布団干し	大掃除・草むしり・衣替え	食事のしたくや後片付け	買い物	ゴミ出しや電球の交換	話し相手	外出のつきそい(通院・散歩など)	預貯金の出し入れや支払い手続き	定期的な声かけや見守り	その他	特にない	『手助けしてほしいことがある』
全体		1,666	15.8	9.8	8.3	7.9	7.5	6.7	4.3	3.5	3.3	3.0	0.8	64.3	32.8
性別	男性	737	11.1	9.6	4.6	9.5	5.6	3.4	3.8	1.9	4.1	2.6	0.1	73.9	23.3
	女性	914	19.6	9.8	11.2	6.5	8.9	9.3	4.6	4.8	2.6	3.4	1.4	56.7	40.2
年齢別	65～69歳	479	11.7	6.5	5.6	6.3	5.2	3.3	2.9	2.1	1.5	1.7	0.8	73.9	24.2
	70～74歳	503	12.7	6.8	6.4	6.4	5.0	6.2	2.0	0.8	1.6	2.0	0.8	70.8	26.2
	75～79歳	372	16.4	9.4	9.4	7.5	9.1	5.4	5.9	3.8	4.6	3.5	1.3	61.3	34.9
	80～84歳	201	25.9	20.4	12.4	11.9	11.9	13.4	6.5	9.0	7.5	5.5	0.0	45.3	51.2
	85歳以上	93	28.0	19.4	17.2	17.2	16.1	15.1	11.8	11.8	7.5	8.6	1.1	37.6	58.1
世帯構成別	ひとり暮らし	282	23.8	10.6	7.8	3.2	5.0	7.1	6.7	2.5	1.1	6.0	1.8	58.9	40.0
	夫婦のみ	594	13.3	8.1	7.2	7.2	7.6	5.7	3.5	3.0	3.9	2.7	0.7	68.5	28.8
	子どもと同居	462	16.7	11.0	9.5	10.2	7.6	6.9	3.5	4.1	3.9	2.4	0.6	61.5	34.8
	子どもと孫と同居	187	14.4	13.4	9.1	11.2	10.2	10.2	4.3	5.3	3.2	2.7	0.0	65.2	31.1
	その他	100	10.0	4.0	9.0	4.0	5.0	3.0	5.0	1.0	2.0	1.0	2.0	70.0	26.0

※「無回答」は掲載を省略している

※『手助けしてほしいことがある』=100%－「特にない」－「無回答」

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

5. 日常生活機能の評価について

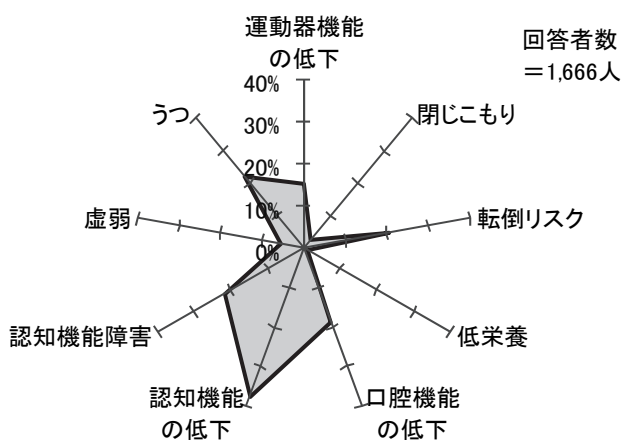
(1)生活機能の評価【比較調査 240 参照】

「4. 日常生活機能の状況について」の項の回答結果をもとに、参考資料の「1. 日常生活機能評価判定基準（1）生活機能」（353 ページ参照）に基づき生活機能の評価を行った。

結果、生活機能が低下している可能性がある（該当する）人の割合は、認知機能の低下がもっとも高い 37.5%、転倒リスク、認知機能障害及びうつが 2 割台、運動器機能の低下及び口腔機能の低下が 1 割台、その他の項目は 1 割未満となっている。

また、運動器機能の低下、低栄養、口腔機能の低下、虚弱（全般的な機能低下）のいずれかに該当した、介護保険の二次予防事業対象者は 23.9%となっている。

図表1-54 生活機能の評価



※各項目の「該当」の割合を掲載している

図表1-55 生活機能の評価

	回答者数 (人)	該当	非該当	無回答
運動器機能の低下	1,666	15.2	81.9	2.9
閉じこもり	1,666	2.5	95.7	1.8
転倒リスク	1,666	20.7	74.9	4.4
低栄養	1,666	1.0	94.2	4.8
口腔機能の低下	1,666	18.7	79.5	1.8
認知機能の低下	1,666	37.5	59.5	3.1
認知機能障害	1,666	21.8	74.4	3.8
虚弱(全般的な機能低下)	1,666	5.6	82.5	11.9
うつ	1,666	22.0	71.3	6.7
二次予防事業対象者	1,666	23.9	64.2	11.9

生活機能が低下している可能性がある（該当する）人の割合を性別ごとにみると、運動器機能の低下、転倒リスク、口腔機能の低下は、男性に比べて女性に高い。一方、認知機能障害に関しては、若干男性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、運動器機能の低下、閉じこもり、転倒リスク、低栄養、口腔機能の低下、認知機能の低下、認知機能障害、うつは、年齢層が高くなるほど割合も高くなっている。虚弱（全般的な機能低下）は、84歳までの1割未満から85歳以上で2割台と大幅に割合が上昇している。

二次予防事業対象者は、性別では女性、年齢別では年齢層が高くなるほど該当者の割合も高くなっている。

図表1-56 生活機能の評価

		回答者数(人)	運動器機能の低下			閉じこもり			転倒リスク		
			該当	非該当	無回答	該当	非該当	無回答	該当	非該当	無回答
全体		1,666	15.2	81.9	2.9	2.5	95.7	1.8	20.7	74.9	4.4
性別	男性	737	9.0	86.8	4.2	2.4	95.3	2.3	17.1	78.3	4.6
	女性	914	19.9	78.1	2.0	2.6	96.1	1.3	23.6	72.2	4.2
年齢別	65～69歳	479	7.5	91.2	1.3	1.7	96.5	1.9	11.7	86.2	2.1
	70～74歳	503	9.7	87.5	2.8	0.8	98.0	1.2	15.9	80.9	3.2
	75～79歳	372	17.7	78.5	3.8	1.9	96.2	1.9	22.3	70.2	7.5
	80～84歳	201	27.4	67.7	5.0	5.0	92.0	3.0	39.8	55.2	5.0
	85歳以上	93	44.1	50.5	5.4	14.0	83.9	2.2	44.1	47.3	8.6

		回答者数(人)	低栄養			口腔機能の低下			認知機能の低下		
			該当	非該当	無回答	該当	非該当	無回答	該当	非該当	無回答
全体		1,666	1.0	94.2	4.8	18.7	79.5	1.8	37.5	59.5	3.1
性別	男性	737	0.7	93.4	6.0	15.6	81.8	2.6	35.7	60.7	3.7
	女性	914	1.3	95.0	3.7	21.1	77.8	1.1	38.6	59.0	2.4
年齢別	65～69歳	479	0.2	97.5	2.3	13.2	86.0	0.8	31.9	64.9	3.1
	70～74歳	503	1.0	95.8	3.2	15.3	83.7	1.0	34.8	63.2	2.0
	75～79歳	372	1.6	92.5	5.9	23.7	74.5	1.9	38.7	58.6	2.7
	80～84歳	201	1.5	89.6	9.0	28.4	67.7	4.0	46.8	49.8	3.5
	85歳以上	93	2.2	87.1	10.8	24.7	71.0	4.3	53.8	38.7	7.5

		回答者数(人)	認知機能障害							無回答	『低下者』
			障害なし	境界的である	軽度の障害がある	中等度の障害がある	やや重度の障害がある	重度の障害がある			
全体		1,666	74.4	15.3	4.0	2.2	0.1	0.2	3.8	21.8	
性別	男性	737	71.9	16.8	4.1	2.4	0.1	0.3	4.3	23.7	
	女性	914	76.5	14.2	3.7	2.0	0.1	0.1	3.4	20.1	
年齢別	65～69歳	479	81.6	11.9	1.5	1.0	0.0	0.0	4.0	14.4	
	70～74歳	503	79.7	13.3	2.2	1.8	0.2	0.0	2.8	17.5	
	75～79歳	372	66.7	21.2	6.2	2.2	0.0	0.3	3.5	29.9	
	80～84歳	201	66.7	16.9	6.5	4.0	0.0	1.0	5.0	28.4	
	85歳以上	93	59.1	18.3	8.6	6.5	1.1	0.0	6.5	34.5	

※『低下者』＝「境界的である」＋「軽度の障害がある」＋「中等度の障害がある」
 ＋「やや重度の障害がある」＋「重度の障害がある」

		回答者数(人)	虚弱			うつ			二次予防事業対象者		
			該当	非該当	無回答	該当	非該当	無回答	該当	非該当	無回答
全体		1,666	5.6	82.5	11.9	22.0	71.3	6.7	23.9	64.2	11.9
性別	男性	737	4.3	82.0	13.7	21.7	70.7	7.6	17.4	68.9	13.7
	女性	914	6.5	83.4	10.2	22.0	72.1	5.9	28.9	60.9	10.2
年齢別	65～69歳	479	2.9	90.0	7.1	14.6	79.7	5.6	16.5	76.4	7.1
	70～74歳	503	3.4	88.3	8.3	18.1	77.5	4.4	20.3	71.4	8.3
	75～79歳	372	5.9	79.6	14.5	25.0	67.5	7.5	28.5	57.0	14.5
	80～84歳	201	9.5	69.7	20.9	33.3	56.2	10.4	33.8	45.3	20.9
	85歳以上	93	21.5	54.8	23.7	41.9	46.2	11.8	40.9	35.5	23.7

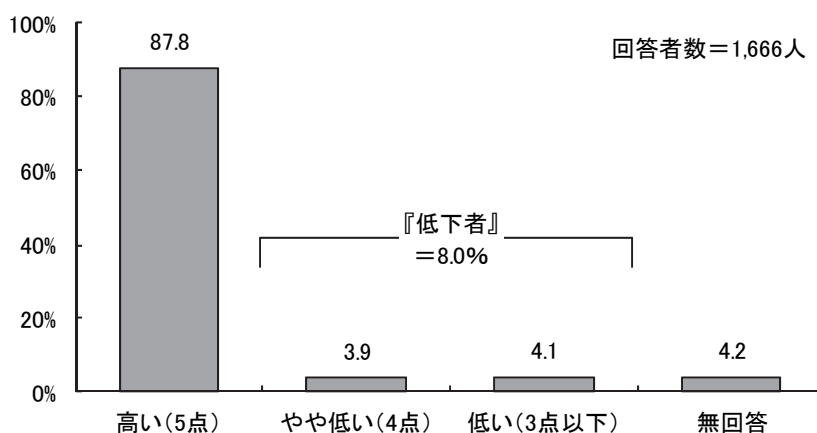
(2) 日常生活の自立度の評価【比較調査 241 参照】

「4. 日常生活機能の状況について」の(1)及び(2)の回答結果を、それぞれ参考資料の「1. 日常生活機能評価判定基準 (2) 日常生活の自立度」(358 ページ参照)に基づき点数化し、日常生活の自立度の評価を行った。

手段的日常生活動作(IADL)の自立度は「高い(5点)」が87.8%を占め、『低下者』の割合は8.0%となっている。

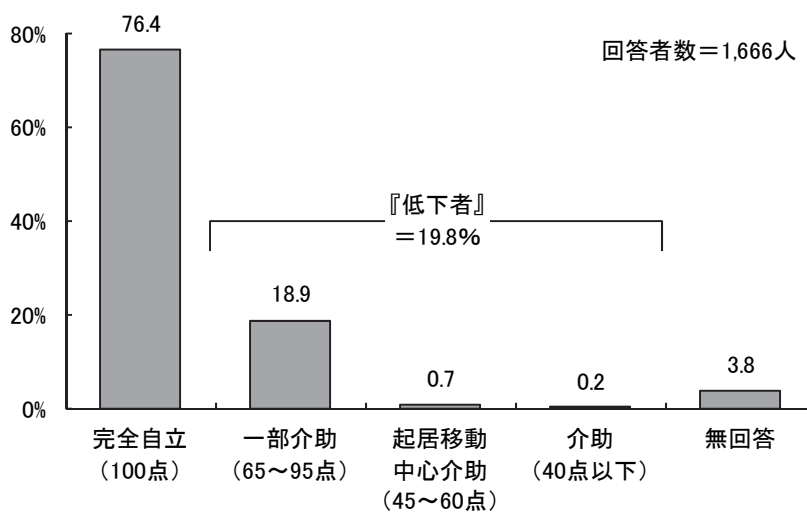
日常生活動作(ADL)の自立度は「完全自立(100点)」が76.4%を占め、『低下者』の割合は19.8%となっている。

図表1-57 手段的日常生活動作(IADL)の自立度の評価



※『低下者』 = 「やや低い(4点)」 + 「低い(3点以下)」

図表1-58 日常生活動作(ADL)の自立度の評価



※『低下者』 = 「一部介助(65~95点)」 + 「起居移動中心介助(45~60点)」 + 「介助(40点以下)」

性別ごとにみると、手段的日常生活動作（IADL）の自立度の『低下者』は男性、日常生活動作（ADL）の自立度の『低下者』は女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、手段的日常生活動作（IADL）、日常生活動作（ADL）ともに、年齢が高くなるほど『低下者』の割合も高くなっており、85歳以上における『低下者』の割合は、手段的日常生活動作（IADL）の自立度が23.7%、日常生活動作（ADL）の自立度が35.5%となっている。

図表1-59 日常生活の自立度の評価

		回答者数(人)	手段的日常生活動作(IADL)				日常生活動作(ADL)						
			高い(5点)	やや低い(4点)	低い(3点以下)	無回答	『低下者』	完全自立(100点)	一部介助(65~95点)	起居移動中心介助(45~60点)	介助(40点以下)	無回答	『低下者』
全体		1,666	87.8	3.9	4.1	4.2	8.0	76.4	18.9	0.7	0.2	3.8	19.8
性別	男性	737	82.8	6.1	5.0	6.1	11.1	80.2	14.1	0.4	0.3	5.0	14.8
	女性	914	91.8	2.2	3.4	2.6	5.6	73.5	22.8	0.9	0.0	2.8	23.7
年齢別	65~69歳	479	93.1	3.1	2.5	1.3	5.6	84.8	13.6	0.0	0.0	1.7	13.6
	70~74歳	503	89.9	3.4	2.8	4.0	6.2	82.1	15.1	0.0	0.0	2.8	15.1
	75~79歳	372	86.8	4.3	3.0	5.9	7.3	71.8	22.3	0.5	0.5	4.8	23.3
	80~84歳	201	78.6	5.5	8.0	8.0	13.5	60.7	30.8	2.0	0.0	6.5	32.8
	85歳以上	93	72.0	6.5	17.2	4.3	23.7	54.8	29.0	5.4	1.1	9.7	35.5

※手段的日常生活動作（IADL）『低下者』＝「やや低い（4点）」＋「低い（3点以下）」

※日常生活動作（ADL）『低下者』＝「一部介助（65～95点）」＋「起居移動中心介助（45～60点）」＋「介助（40点以下）」

(3) 社会参加の評価【比較調査 242 参照】

「4. 日常生活機能の状況について」の(9)の回答結果を、参考資料の「1. 日常生活機能評価判定基準 (3) 社会参加」(360 ページ参照)に基づき点数化し、社会参加に関する評価を行った。

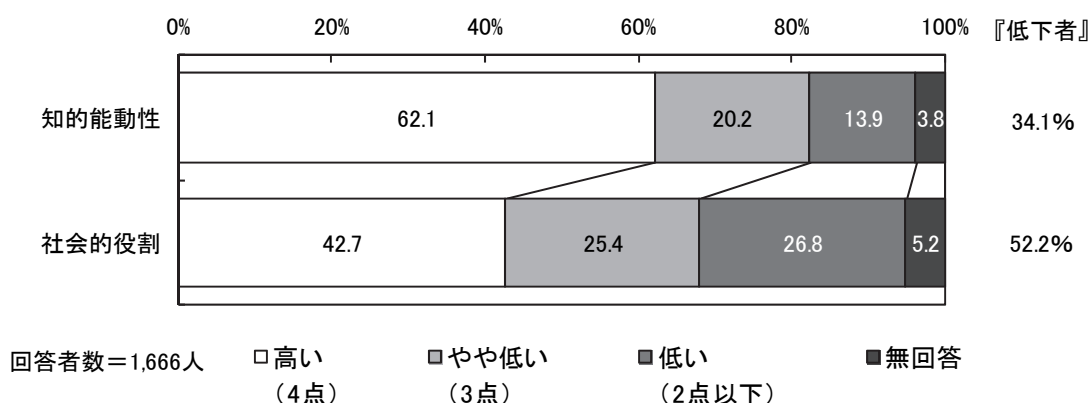
知的能動性は「高い(4点)」は62.1%であり、『低下者』の割合は34.1%となっている。

社会的役割は「高い(4点)」は42.7%と知的能動性に比べて低く、『低下者』の割合は52.2%と半数を超えている。

性別ごとにみると、知的能動性『低下者』の割合は、性別による顕著な差はみられない。社会的役割『低下者』の割合は、男性の60.3%、女性の45.5%と、男性のほうが高い。

年齢別にみると、知的能動性『低下者』の割合は、年齢が高くなるほど高くなっている。社会的役割『低下者』の割合は、年齢による顕著な差はみられない。

図表1-60 社会参加の評価



図表1-61 社会参加の評価

	回答者数(人)	知的能動性				社会的役割						
		高い(4点)	やや低い(3点)	低い(2点以下)	無回答	『低下者』	高い(4点)	やや低い(3点)	低い(2点以下)	無回答	『低下者』	
全体	1,666	62.1	20.2	13.9	3.8	34.1	42.7	25.4	26.8	5.2	52.2	
性別	男性	737	62.0	20.9	12.6	4.5	33.5	34.5	25.8	34.5	5.3	60.3
	女性	914	62.6	19.5	14.9	3.1	34.4	49.6	24.9	20.6	4.9	45.5
年齢別	65~69歳	479	67.0	19.0	11.5	2.5	30.5	44.3	27.6	24.6	3.5	52.2
	70~74歳	503	65.2	20.3	11.5	3.0	31.8	44.3	28.8	23.5	3.4	52.3
	75~79歳	372	61.3	18.8	14.5	5.4	33.3	41.4	26.6	26.1	5.9	52.7
	80~84歳	201	54.2	18.9	22.4	4.5	41.3	42.8	15.9	32.8	8.5	48.7
	85歳以上	93	41.9	32.3	19.4	6.5	51.7	29.0	12.9	45.2	12.9	58.1

※『低下者』=「やや低い(3点)」+「低い(2点以下)」

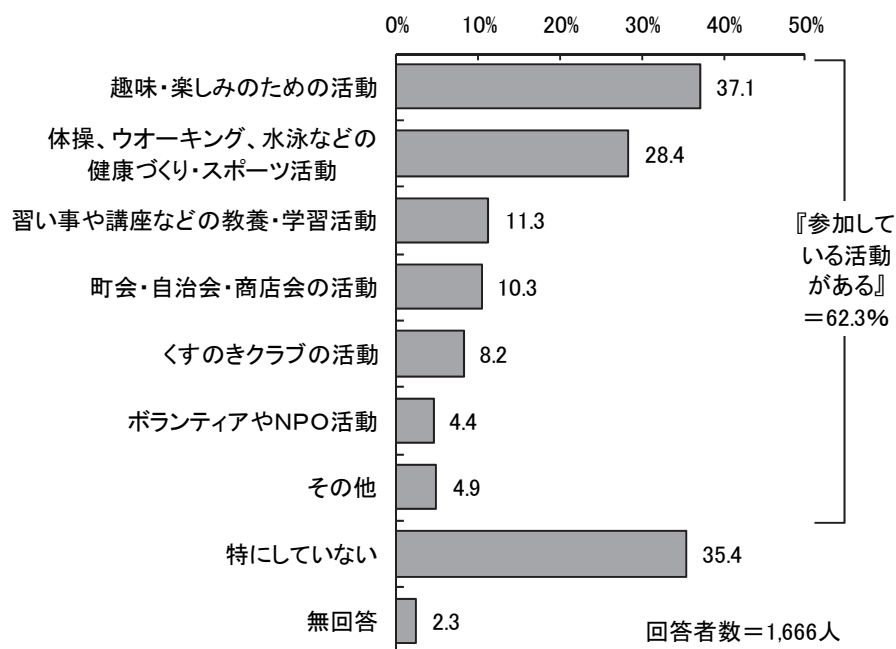
6. 社会参加、生きがいづくり、就労について

(1) 現在参加している余暇活動・社会参加活動【比較調査 244 頁参照】

問29 あなた(あて名のご本人)は、現在、どのような余暇活動や社会参加をしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

余暇活動・社会参加活動について、現在『参加している活動がある』人の割合は62.3%となっている。具体的には、「趣味・楽しみのための活動」37.1%、「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」28.4%、「習い事や講座などの教養・学習活動」11.3%の順となっている。

図表1-62 現在参加している余暇活動・社会参加活動(複数回答)



※『参加している活動がある』 = 100% - 「特にしていない」 - 「無回答」

性別ごとにみると、「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」「習い事や講座などの教養・学習活動」「くすのきクラブの活動」は女性、「町会・自治会・商店会の活動」は男性の参加率が、それぞれに比べて高くなっている。

年齢別にみると、『参加している活動がある』割合は概ね年齢層が低いほど高く、65～79歳の年齢層の6割台、85歳以上では4割台となっている。

図表1-63 現在参加している余暇活動・社会参加活動

		回答者数(人)	趣味・楽しみのための活動	体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動	習い事や講座などの教養・学習活動	町会・自治会・商店会の活動	くすのきクラブの活動	ボランティアやNPO活動	その他	特にしていない	無回答	『参加している活動がある』
全体		1,666	37.1	28.4	11.3	10.3	8.2	4.4	4.9	35.4	2.3	62.3
性別	男性	737	35.8	26.2	5.2	11.9	4.6	4.2	5.2	36.2	2.6	61.2
	女性	914	38.3	30.2	16.4	9.2	11.2	4.7	4.7	34.7	2.0	63.3
年齢別	65～69歳	479	39.5	31.1	12.5	8.4	5.0	5.6	5.2	37.2	2.1	60.7
	70～74歳	503	39.0	32.0	11.5	11.5	8.5	4.6	4.6	30.8	2.0	67.2
	75～79歳	372	37.9	28.2	9.7	10.8	9.1	5.1	4.0	34.7	1.9	63.4
	80～84歳	201	29.4	19.9	13.4	10.9	11.9	2.0	7.0	39.8	3.0	57.2
	85歳以上	93	26.9	15.1	6.5	9.7	9.7	1.1	4.3	48.4	4.3	47.3

※『参加している活動がある』=100%－「特にしていない」－「無回答」

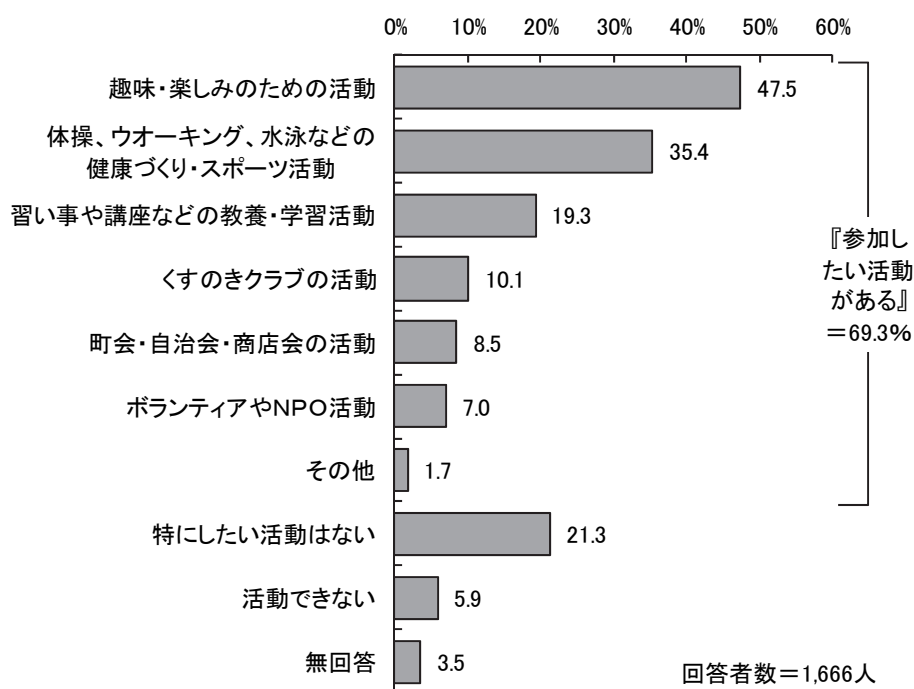
(2) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動

問30 あなた(あて名のご本人)は、今後、どのような余暇活動や社会参加活動をしていきたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

余暇活動・社会参加活動について、『参加したい活動がある』人の割合は 69.3%と約 7割であり、現在の活動状況に比べて 7.0 ポイント高くなっている。

具体的には、「趣味・楽しみのための活動」が 47.5%、「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」が 35.4%、「習い事や講座などの教養・学習活動」が 19.3%などとなっている。

図表1-64 今後参加したい余暇活動・社会参加活動(複数回答)



※『参加したい活動がある』 = 100% - 「特にしたい活動はない」 - 「活動できない」 - 「無回答」

性別ごとにみると、『参加したい活動がある』割合に差はみられないが、男性は「町会・自治会・商店会の活動」、女性は「習い事や講座などの教養・学習活動」「くすのきクラブの活動」の参加意向が、それぞれに比べて高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が低いほど参加意向も高く、65～74歳の7割台、75～79歳の6割台が、『参加したい活動がある』と回答している。

図表1-65 今後参加したい余暇活動・社会参加活動

		回答者数(人)	趣味・楽しみのための活動	体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動	習い事や講座などの教養・学習活動	くすのきクラブの活動	町会・自治会・商店会の活動	ボランティアやNPO活動	その他	特にしたい活動はない	活動できない	無回答	『参加したい活動がある』
全体		1,666	47.5	35.4	19.3	10.1	8.5	7.0	1.7	21.3	5.9	3.5	69.3
性別	男性	737	46.9	33.9	11.5	6.6	10.9	6.5	2.0	22.9	4.5	3.1	69.5
	女性	914	48.0	36.5	25.6	13.1	6.8	7.5	1.5	20.0	6.9	3.8	69.3
年齢別	65～69歳	479	55.1	42.6	24.6	7.3	7.3	11.3	1.3	19.0	3.1	2.1	75.8
	70～74歳	503	50.1	38.0	21.7	11.5	8.5	6.2	2.0	20.3	2.6	4.6	72.5
	75～79歳	372	44.1	35.5	12.9	9.9	9.1	7.3	1.1	23.1	5.6	2.4	68.9
	80～84歳	201	35.8	20.9	15.9	13.9	10.4	2.5	3.5	22.9	13.9	5.5	57.7
	85歳以上	93	31.2	15.1	10.8	9.7	5.4	0.0	2.2	29.0	22.6	4.3	44.1

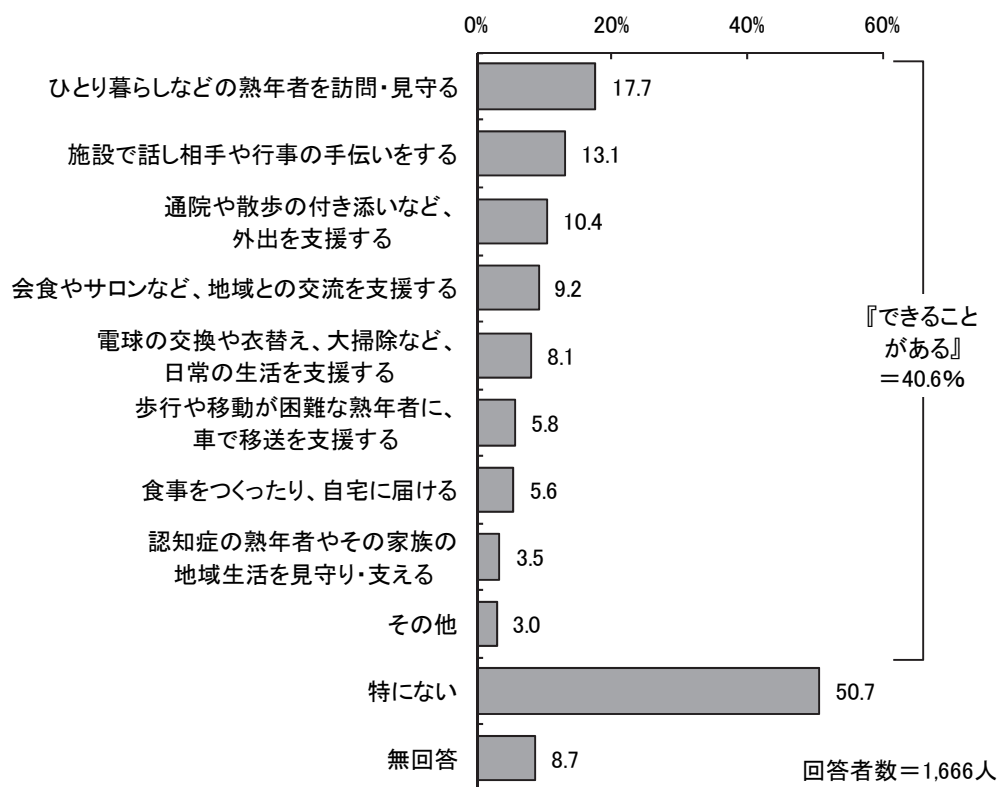
※『参加したい活動がある』=100%－「特にしたい活動はない」－「活動できない」－「無回答」

(3)地域の支え手としてできること

問31 支援が必要な熟年者のために、地域の支え手として、あなた(あて名のご本人)自身にできることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

地域の支え手としてできることをみると、40.6%が『できることがある』と回答している。具体的には、「ひとり暮らしなどの熟年者を訪問・見守る」が17.7%、「施設で話し相手や行事の手伝いをする」が13.1%、「通院や散歩の付き添いなど、外出を支援する」が10.4%などとなっている。

図表1-66 地域の支え手としてできること(複数回答)



※『できることがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

性別ごとにみると、男性の 39.8%、女性の 41.2%が『できることがある』と回答している。男性は「電球の交換や衣替え、大掃除など、日常の生活を支援する」「歩行や移動が困難な熟年者に、車で移送を支援する」、女性は「施設で話し相手や行事の手伝いをする」などの参加意向が、それぞれに比べて高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が低いほど参加意向も高く、65～69 歳の人では 51.6%と過半数が『できることがある』と回答している。

図表1-67 地域の支え手としてできること

		回答者数(人)	ひとり暮らしなどの熟年者を訪問・見守る	施設で話し相手や行事の手伝いをする	通院や散歩の付き添いなど、外出を支援する	会食やサロンなど、地域との交流を支援する	電球の交換や衣替え、大掃除など、日常の生活を支援する	歩行や移動が困難な熟年者に、車で移送を支援する	食事をつくったり、自宅に届ける	認知症の熟年者やその家族の地域生活を見守り・支える	その他	特にない	無回答	『できることがある』
全体		1,666	17.7	13.1	10.4	9.2	8.1	5.8	5.6	3.5	3.0	50.7	8.7	40.6
性別	男性	737	16.3	8.3	9.9	9.2	15.7	11.7	2.8	3.4	1.6	53.3	6.9	39.8
	女性	914	19.1	17.2	10.9	9.1	2.1	1.0	7.8	3.6	4.2	48.7	10.1	41.2
年齢別	65～69 歳	479	23.2	19.8	12.1	13.2	9.4	7.5	8.4	5.6	4.6	42.8	5.6	51.6
	70～74 歳	503	17.9	13.9	11.3	9.1	9.1	7.2	5.6	4.0	2.6	48.7	8.9	42.4
	75～79 歳	372	16.7	9.9	12.1	8.3	8.6	5.4	4.8	2.7	2.4	51.6	8.9	39.5
	80～84 歳	201	11.9	6.0	6.5	4.0	4.5	1.5	2.0	1.0	3.0	62.2	12.9	24.9
	85 歳以上	93	6.5	3.2	1.1	4.3	2.2	1.1	1.1	0.0	0.0	75.3	10.8	13.9

※『できることがある』=100%－「特にない」－「無回答」

(4)現在の就労状況

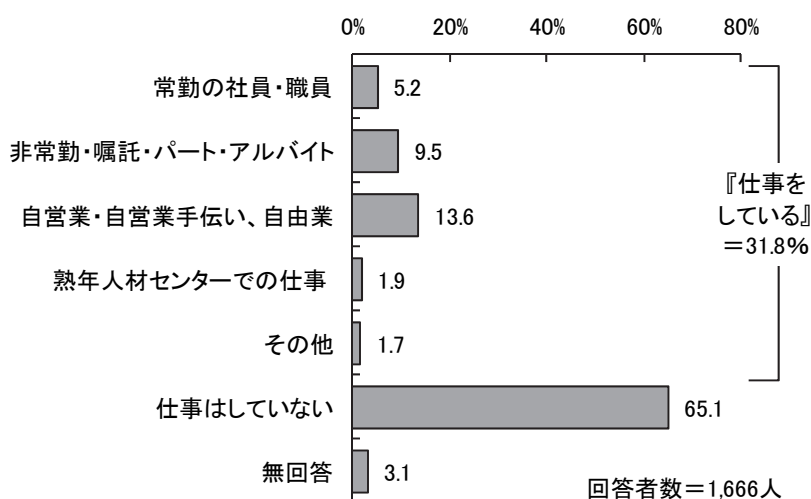
問32 あなた(あて名のご本人)は、現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

現在の就労状況を見ると、『仕事をしている』人の割合は31.8%となっている。就労形態は「自営業・自営業手伝い、自由業」がもっとも高い13.6%、次いで「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」が9.5%、「常勤の社員・職員」が5.2%となっている。

性別ごとにみると、『仕事をしている』割合は、男性が42.7%、女性が23.0%となっている。

年齢別にみると、年齢層が低いほど『仕事をしている』割合は高く、65～69歳は4割台、70～74歳は3割台となっている。

図表1-68 現在の就労状況(単数回答)



図表1-69 現在の就労状況

		回答者数(人)	常勤の社員・職員	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	自営業・自営業手伝い、自由業	熟年人材センターでの仕事	その他	仕事はしていない	無回答	『仕事をしている』
全体		1,666	5.2	9.5	13.6	1.9	1.7	65.1	3.1	31.8
性別	男性	737	8.8	11.3	17.9	3.3	1.5	55.0	2.3	42.7
	女性	914	2.1	8.1	10.1	0.8	2.0	73.3	3.7	23.0
年齢別	65～69歳	479	10.4	16.9	15.7	1.3	1.5	52.4	1.9	45.7
	70～74歳	503	4.8	9.5	17.1	1.8	2.6	61.0	3.2	35.8
	75～79歳	372	2.4	5.6	10.2	3.0	1.9	73.7	3.2	23.1
	80～84歳	201	0.5	3.0	7.0	2.0	1.0	81.1	5.5	13.4
	85歳以上	93	0.0	1.1	10.8	1.1	0.0	83.9	3.2	12.9

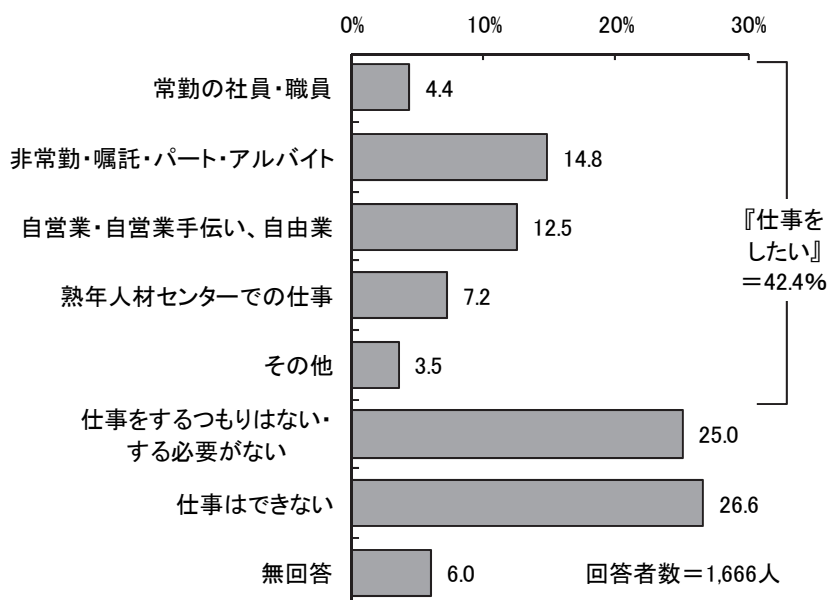
※『仕事をしている』=100%－「仕事はしていない」－「無回答」

(5) 今後の就労意向

問33 あなた(あて名のご本人)は、今後、収入のある仕事をしたい・続けたいと考えていますか。(1つに○)

今後の就労意向をみると、42.4%が『仕事をしたい』と回答しており、現在の就労状況に比べて10.6ポイント高くなっている。希望する就労形態は「非常勤・嘱託・パート・アルバイト」14.8%がもっとも高く、「自営業・自営業手伝い、自由業」12.5%、「熟年人材センターでの仕事」7.2%の順となっている。

図表1-70 今後の就労意向(単数回答)



※『仕事をしたい』 = 100% - 「仕事をするつもりはない・する必要がない」
- 「仕事はできない」 - 「無回答」

性別ごとにみると、男性の54.7%、女性の32.5%が『仕事をしたい』と回答している。

年齢別にみると、就労意向は年齢層が低いほど高く、65～69歳の約6割、70～74歳の4割台が『仕事をしたい』と回答している。

現在の就労状況別にみると、常勤の社員・職員の人7割台、非常勤・嘱託・パート・アルバイトの人、自営業・自営業手伝い、自由業の人及び熟年人材センターでの仕事をしている人の8割台が引き続き同じ就労形態での仕事を希望している。また、現在仕事をしていない人の21.1%が『仕事をしたい』と回答している。

図表1-71 今後の就労意向

		回答者数(人)	常勤の社員・職員	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	自営業・自営業手伝い、自由業	熟年人材センターでの仕事	その他	仕事をするつもりはない・する必要がない	仕事はできない	無回答	『仕事をしたい』
全体		1,666	4.4	14.8	12.5	7.2	3.5	25.0	26.6	6.0	42.4
性別	男性	737	8.0	19.1	16.3	8.8	2.4	22.9	18.5	3.9	54.7
	女性	914	1.3	11.2	9.4	6.0	4.5	27.0	33.0	7.5	32.5
年齢別	65～69歳	479	8.4	24.8	15.7	7.7	4.2	20.7	15.0	3.5	60.8
	70～74歳	503	4.0	15.5	16.7	7.8	4.6	25.4	20.3	5.8	48.5
	75～79歳	372	2.4	11.0	7.5	9.4	2.4	28.5	32.0	6.7	32.8
	80～84歳	201	0.5	3.5	6.5	3.5	2.0	28.9	46.8	8.5	15.8
	85歳以上	93	1.1	0.0	5.4	1.1	3.2	25.8	54.8	8.6	10.8
現在の就労状況別	常勤の社員・職員	86	75.6	9.3	3.5	1.2	3.5	2.3	1.2	3.5	93.0
	非常勤・嘱託・パート・アルバイト	158	1.9	82.9	0.6	4.4	0.6	4.4	1.3	3.8	90.5
	自営業・自営業手伝い、自由業	226	0.9	2.7	84.1	0.9	1.8	5.3	0.9	3.5	90.3
	熟年人材センターでの仕事	31	0.0	6.5	3.2	80.6	0.0	0.0	3.2	6.5	90.3
	その他	29	0.0	6.9	3.4	10.3	37.9	20.7	10.3	10.3	58.7
	仕事はしていない	1,084	0.3	8.9	0.9	7.6	3.4	35.4	38.9	4.6	21.1

※『仕事をしたい』=100%－「仕事をするつもりはない・する必要がない」－「仕事はできない」－「無回答」

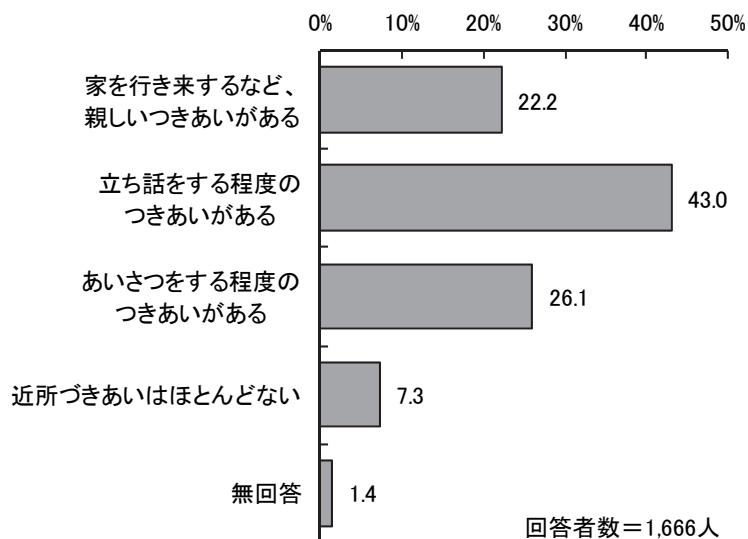
(6) 近所の人とのつきあいの程度

問28 あなた(あて名のご本人)は、ご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。
(1つに○)

【比較調査245頁参照】

近所の人とのつきあいの程度は、「立ち話をする程度のつきあいがある」43.0%がもっとも高く、次いで「あいさつをする程度のつきあいがある」26.1%、「家を行き来するなど、親しいつきあいがある」22.2%の順となっている。「近所づきあいはほとんどない」は7.3%であった。

図表1-72 近所の人とのつきあいの程度(単数回答)



性別ごとにみると、「立ち話をする程度のつきあいがある」に次いで、男性は「あいさつをする程度のつきあいがある」、女性は「家を行き来するなど、親しいつきあいがある」となっており、女性の方が近所づきあいをよくしている人の割合が高いことがわかる。

「近所づきあいはほとんどない」に注目すると、年齢別では85歳以上、日常生活圏域別では葛西北及び葛西南、世帯構成別ではひとり暮らしの人において1割台となっており、それぞれ他に比べて高い割合となっている。

図表1-73 近所の人とのつきあいの程度

		回答者数(人)	家を行き来するなど、親しいつきあいがある	立ち話をする程度のつきあいがある	あいさつをする程度のつきあいがある	近所づきあいはほとんどない	無回答
全体		1,666	22.2	43.0	26.1	7.3	1.4
性別	男性	737	12.2	39.9	36.9	9.0	2.0
	女性	914	30.2	45.6	17.3	6.0	0.9
年齢別	65～69歳	479	19.2	38.8	31.1	9.0	1.9
	70～74歳	503	22.1	46.9	23.1	7.0	1.0
	75～79歳	372	23.4	47.0	24.2	4.0	1.3
	80～84歳	201	27.4	37.8	25.9	7.0	2.0
	85歳以上	93	20.4	38.7	24.7	15.1	1.1
日常生活圏域別	区民課	376	20.2	41.8	28.7	7.2	2.1
	小松川	142	20.4	40.8	31.0	6.3	1.4
	葛西北	190	23.7	38.4	22.6	13.7	1.6
	葛西南	277	18.8	43.0	25.6	11.9	0.7
	小岩	260	20.8	46.9	25.4	5.8	1.2
	東部	244	25.8	47.1	23.4	2.0	1.6
	鹿骨	146	27.4	43.2	24.7	3.4	1.4
世帯構成別	ひとり暮らし	282	24.8	33.7	28.4	11.7	1.4
	夫婦のみ	594	21.5	46.0	25.9	5.2	1.3
	子どもと同居	462	22.5	44.8	23.4	7.4	1.9
	子どもと孫と同居	187	21.4	47.6	23.0	7.5	0.5
	その他	100	18.0	37.0	36.0	8.0	1.0

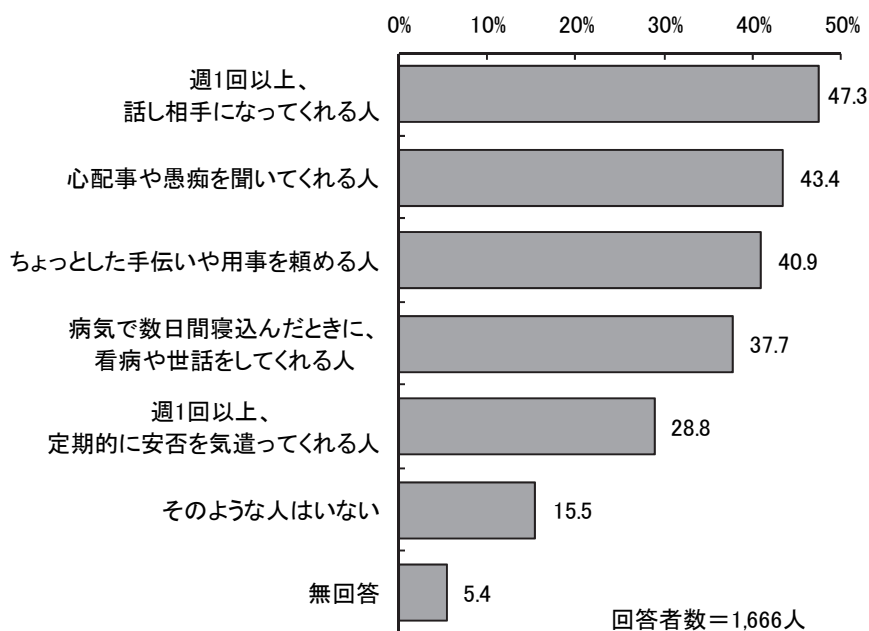
※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(7) 身近に頼れる人の有無

問34 あなた(あて名のご本人)の身近に、次のような人(家族や親族、近所の人、友人、知人など)はいますか。(あてはまるものすべてに○)

身近に頼れる人の有無をみると、「週1回以上、話し相手になってくれる人」「心配事や愚痴を聞いてくれる人」「ちょっとした手伝いや用事を頼める人」がいる人の割合は各4割台、「病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人」がいる人の割合は3割台、「週1回以上、定期的に安否を気遣ってくれる人」がいる人の割合は2割台となっている。

図表1-74 身近に頼れる人の有無(複数回答)



性別ごとにみると、男性は「心配事や愚痴を聞いてくれる人」「ちょっとした手伝いや用事を頼める人」「週1回以上、定期的に安否を気遣ってくれる人」がいる人の割合が女性に比べて低い。

世帯構成別にみると、ひとり暮らしの人は他に比べて身近な支え手がいる割合が低く、いる割合は、「週1回以上、定期的に安否を気遣ってくれる人」「病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人」が各2割台、「週1回以上、話し相手になってくれる人」「心配事や愚痴を聞いてくれる人」「ちょっとした手伝いや用事を頼める人」が各3割台となっている。

図表1-75 身近に頼れる人の有無

		回答者数(人)	週1回以上、話し相手になってくれる人	心配事や愚痴を聞いてくれる人	ちょっとした手伝いや用事を頼める人	病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人	週1回以上、定期的に安否を気遣ってくれる人	そのような人はいない	無回答
全体		1,666	47.3	43.4	40.9	37.7	28.8	15.5	5.4
性別	男性	737	47.5	31.9	37.2	37.0	25.9	20.6	6.0
	女性	914	47.4	52.8	44.2	38.4	31.3	11.1	4.9
世帯構成別	ひとり暮らし	282	39.4	36.5	35.5	26.2	27.7	22.7	1.8
	夫婦のみ	594	47.3	44.3	40.2	38.2	30.8	16.7	4.5
	子どもと同居	462	51.3	44.6	43.3	40.0	27.3	13.2	6.7
	子どもと孫と同居	187	46.5	47.6	48.1	52.4	30.5	8.0	7.5
	その他	100	51.0	45.0	39.0	32.0	23.0	15.0	8.0

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

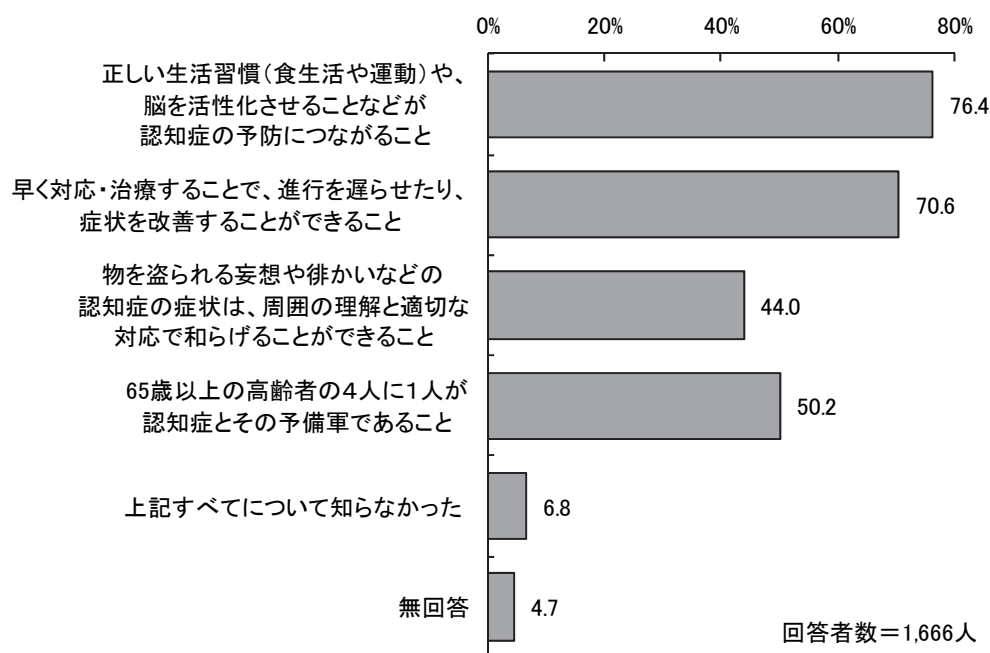
7. 認知症や権利擁護について

(1) 認知症に関する知識

問35 認知症に関する次の知識のうち、あなた(あて名のご本人)が知っていることすべてに○をしてください。

認知症に関する知識をみると、「正しい生活習慣（食生活や運動）や、脳を活性化させることなどが認知症の予防につながる事」「早く対応・治療することで、進行を遅らせたり、症状を改善することができる事」については7割以上が知っているもの、**「65歳以上の高齢者の4人に1人が認知症とその予備軍である事」**の認知度は約5割、「物を盗られる妄想や徘徊などの認知症の症状は、周囲の理解と適切な対応で和らげることができる事」の知識は4割台にとどまっている。

図表1-76 認知症に関する知識(複数回答)

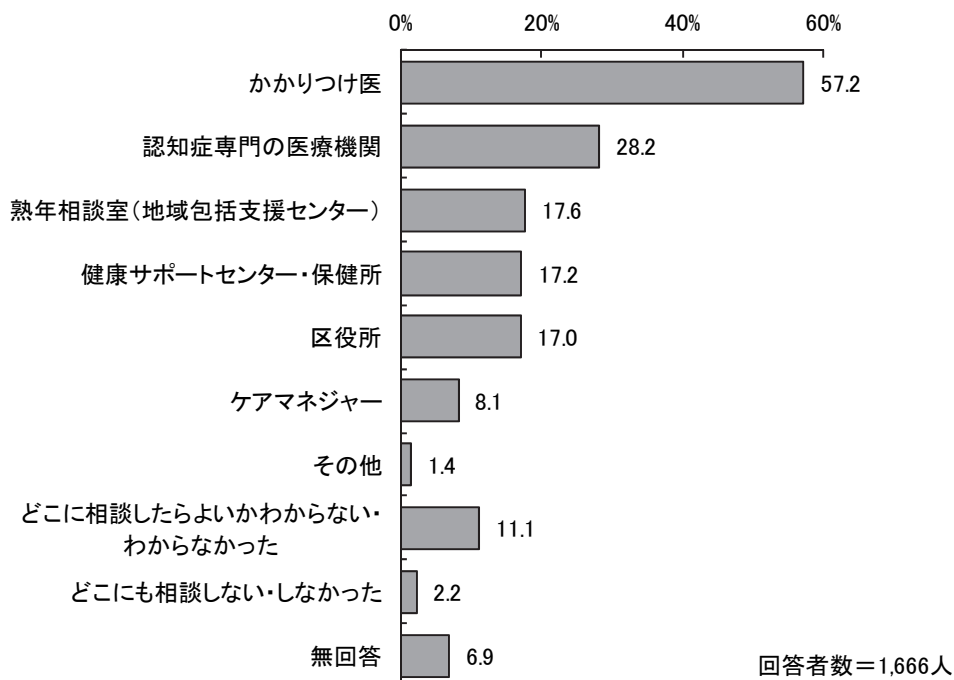


(2) 認知症に関する相談先

問36 あなた(あて名のご本人)やご家族に認知症の不安が生じた場合、どこに相談しますか・しましたか。(あてはまるものすべてに○) 【比較調査246頁参照】

認知症に関する相談先は、「かかりつけ医」が57.2%ともっとも高く、次いで「認知症専門の医療機関」28.2%、「熟年相談室(地域包括支援センター)」17.6%の順となっている。一方で、「どこに相談したらよいかわからない・わからなかった」と回答した人も11.1%と1割を超えている。

図表1-77 認知症に関する相談先(複数回答)



世帯構成別にみると、ひとり暮らしの人は他に比べて「どこに相談したらよいかわからない・わからなかった」「どこにも相談しない・しなかった」と回答した人の割合が高くなっている。

図表1-78 認知症に関する相談先

		回答者数(人)	かかりつけ医	認知症専門の医療機関	熟年相談室 (地域包括支援センター)	健康サポートセンター・保健所	区役所	ケアマネジャー	その他	どこに相談したらよいかわからない・わからなかった	どこにも相談しない・しなかった	無回答
全体		1,666	57.2	28.2	17.6	17.2	17.0	8.1	1.4	11.1	2.2	6.9
世帯構成別	ひとり暮らし	282	49.3	23.4	16.3	12.8	15.6	6.7	1.8	12.8	5.0	9.6
	夫婦のみ	594	56.6	30.6	17.7	19.7	16.8	6.6	1.0	11.1	1.7	4.9
	子どもと同居	462	60.8	28.1	18.2	17.3	19.3	9.5	1.3	10.4	1.9	7.6
	子どもと孫と同居	187	62.6	28.3	17.6	18.7	15.5	8.0	3.2	10.2	1.1	5.9
	その他	100	53.0	26.0	15.0	13.0	15.0	15.0	1.0	12.0	2.0	9.0

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

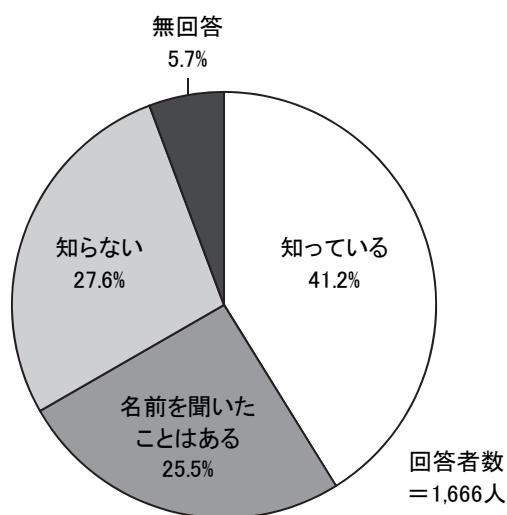
(3) 成年後見制度の認知度

問37 あなた(あて名のご本人)は、認知症などにより判断能力が十分でない人に、本人の権利を守るための援助者を選び、法律面や生活面を支援する「成年後見制度」を知っていますか。(1つに○) 【比較調査247参照】

成年後見制度の認知度は、「知っている」41.2%、「名前を聞いたことはある」25.5%であり、「知らない」は27.6%となっている。

年齢別にみると、年齢層が低いほど認知度が高く、「知っている」は65～74歳の年齢層が4割台、75歳以上では3割台となっている。

図表1-79 成年後見制度の認知度(単数回答)



図表1-80 成年後見制度の認知度

		回答者数(人)	知っている	名前を聞いたことはある	知らない	無回答
全体		1,666	41.2	25.5	27.6	5.7
年齢別	65～69歳	479	46.6	23.2	26.1	4.2
	70～74歳	503	42.3	27.0	24.3	6.4
	75～79歳	372	38.7	28.2	28.2	4.8
	80～84歳	201	35.8	24.4	33.8	6.0
	85歳以上	93	31.2	19.4	39.8	9.7

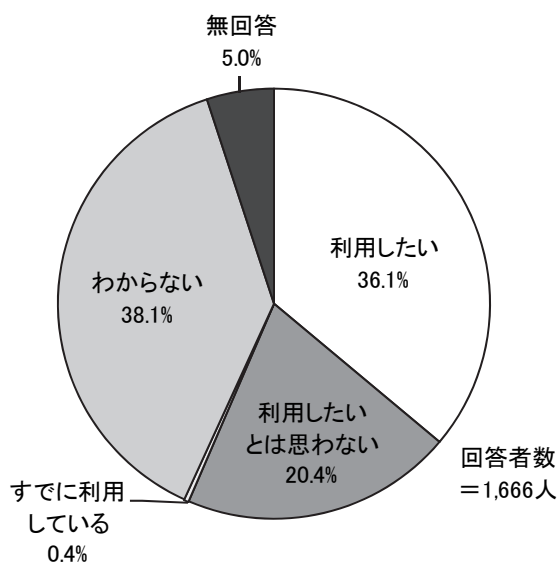
(4) 成年後見制度の利用意向

問38 あなた(あて名のご本人)やご家族が、認知症などにより判断能力が十分でなくなってきた場合に、「成年後見制度」を利用したいと思いますか。(1つに○)
【比較調査247頁参照】

成年後見制度の利用意向は、「利用したい」は 36.1%であり、「利用したいとは思わない」 20.4%を 15.7 ポイント上回っている。

年齢別にみると、「利用したい」との意向を示した人の割合は、65～84 歳の年齢層が 3 割台、85 歳以上は 2 割台となっている。

図表1-81 成年後見制度の利用意向(単数回答)



図表1-82 成年後見制度の利用意向

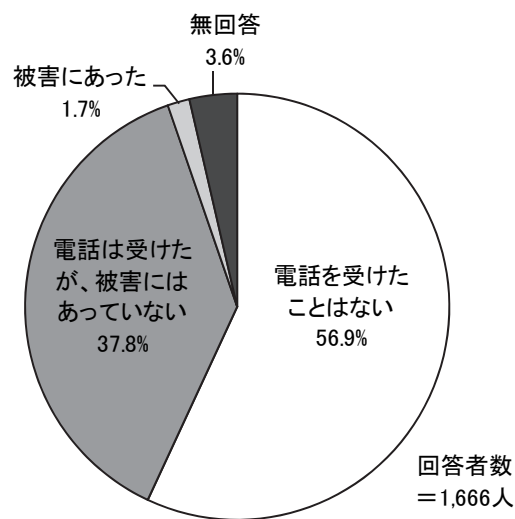
		回答者数(人)	利用したい	利用したいとは思わない	すでに利用している	わからない	無回答
全体		1,666	36.1	20.4	0.4	38.1	5.0
年齢別	65～69 歳	479	34.7	16.7	0.2	44.3	4.2
	70～74 歳	503	38.4	21.5	0.6	35.0	4.6
	75～79 歳	372	37.1	23.1	0.5	35.2	4.0
	80～84 歳	201	35.8	21.9	0.0	36.3	6.0
	85 歳以上	93	29.0	21.5	0.0	38.7	10.8

(5) サギ・悪徳商法の電話を受けた経験

問39 あなた(あて名のご本人)は、これまでにサギ・悪質商法の電話を受けたことがありますか。(1つに○) 【比較調査248頁参照】

サギ・悪徳商法の電話を受けた経験は、「電話を受けたことはない」が56.9%と過半数を占める一方、37.8%が「電話は受けたが、被害にはあっていない」、1.7%が「被害にあった」と回答している。

図表1-83 サギ・悪徳商法の電話を受けた経験(単数回答)



8. 今後の暮らしや介護について

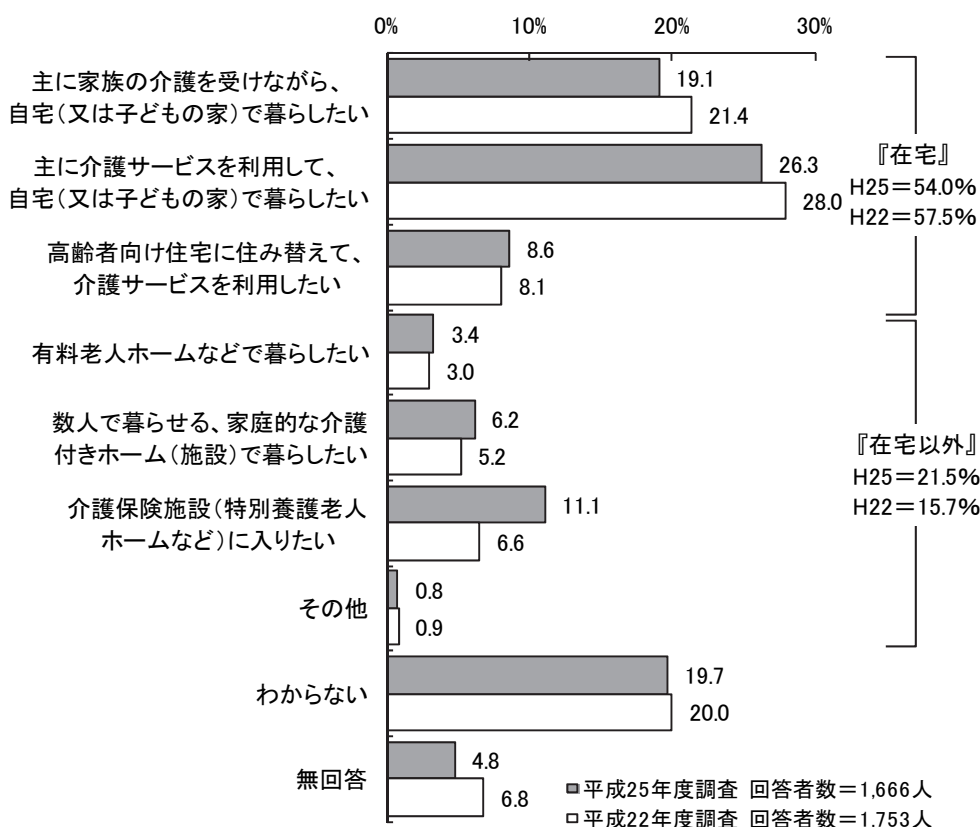
(1) 今後介護を受けたい場所

問40 あなた(あて名のご本人)は、将来介護が必要になった場合、どのように暮らしたいですか。(もっとも近い考え1つに○) 【比較調査249頁参照】

今後介護を受けたい場所は、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」26.3%、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」19.1%、「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」8.6%の順であり、これらをあわせた54.0%が『在宅』での暮らしを希望している。『在宅以外』を希望する人の割合は21.5%となっている。

平成22年度調査結果と比較すると、『在宅』を希望する人の割合は3.5ポイント減少し、『在宅以外』を希望する人の割合が5.8ポイント増加している。具体的には、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」が4.5ポイント増加している。

図表1-84 今後介護を受けたい場所(単数回答)＜平成22年度調査との比較＞



※『在宅』＝「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 ＋「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 ＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」
 ＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
 ＋「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」＋「その他」

性別ごとにみると、男性は「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」、女性は「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」との意向がそれぞれもっとも高い。

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」の割合が高くなり、80歳以上の人では「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」を上回っている。

世帯構成別にみると、ひとり暮らしの人は他に比べて自宅以外での介護を希望する人の割合が高く、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」16.7%に次いで、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」16.3%、「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」14.9%の順となっている。

図表1-85 今後介護を受けたい場所

		回答者数(人)	主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい	主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい	高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい	有料老人ホームなどで暮らしたい	数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい	介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい	その他	わからない	無回答	『在宅』	『在宅以外』
全体		1,666	19.1	26.3	8.6	3.4	6.2	11.1	0.8	19.7	4.8	54.0	21.5
性別	男性	737	27.3	23.1	7.3	3.1	4.2	9.9	0.7	19.0	5.4	57.7	17.9
	女性	914	12.5	29.1	9.5	3.6	7.8	12.1	1.0	20.2	4.2	51.1	24.5
年齢別	65～69歳	479	14.8	25.9	10.2	3.1	7.9	13.6	1.0	18.4	5.0	50.9	25.6
	70～74歳	503	16.1	29.4	7.0	4.0	6.8	11.1	0.8	19.7	5.2	52.5	22.7
	75～79歳	372	19.4	23.1	11.0	4.0	4.6	9.4	1.3	23.7	3.5	53.5	19.3
	80～84歳	201	26.9	25.4	7.0	1.5	5.0	9.5	0.0	19.9	5.0	59.3	16.0
	85歳以上	93	39.8	25.8	3.2	2.2	3.2	9.7	0.0	11.8	4.3	68.8	15.1
世帯構成別	ひとり暮らし	282	7.4	16.7	14.9	2.8	9.6	16.3	1.4	25.2	5.7	39.0	30.1
	夫婦のみ	594	21.0	27.9	8.6	4.4	6.6	10.4	0.7	17.0	3.4	57.5	22.1
	子どもと同居	462	22.7	27.3	5.2	2.8	5.2	11.3	1.1	19.5	5.0	55.2	20.4
	子どもと孫と同居	187	22.5	33.2	6.4	3.2	2.7	7.5	0.0	19.8	4.8	62.1	13.4
	その他	100	18.0	23.0	12.0	2.0	7.0	10.0	0.0	23.0	5.0	53.0	19.0

※『在宅』＝「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 ＋「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 ＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」
 ＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
 ＋「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」
 ＋「その他」

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

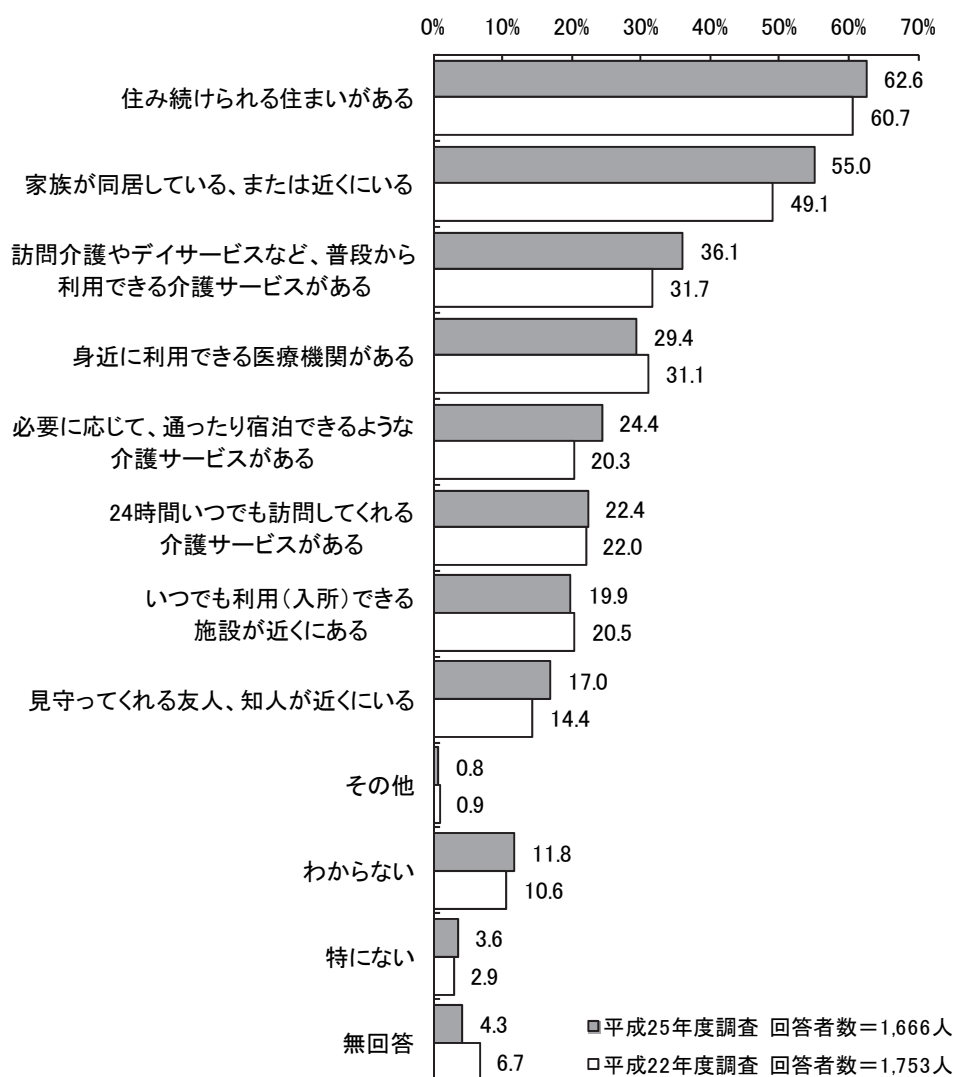
問41 あなた(あて名のご本人)は、介護が必要になっても在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【比較調査250頁参照】

在宅で暮らし続けるために必要と思うことは、「住み続けられる住まいがある」62.6%がもっとも高く、次いで「家族が同居している、または近くにいる」55.0%、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」36.1%、「身近に利用できる医療機関がある」29.4%、「必要に応じて、通ったり宿泊できるような介護サービスがある」24.4%の順となっている。

平成22年度調査結果と比較すると、上位4位までの項目は同様の結果となっている。前回第7位だった「必要に応じて、通ったり宿泊できるような介護サービスがある」が4.1ポイント増加し、今回は第5位となっている。

図表1-86 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと(複数回答)＜平成22年度調査との比較＞

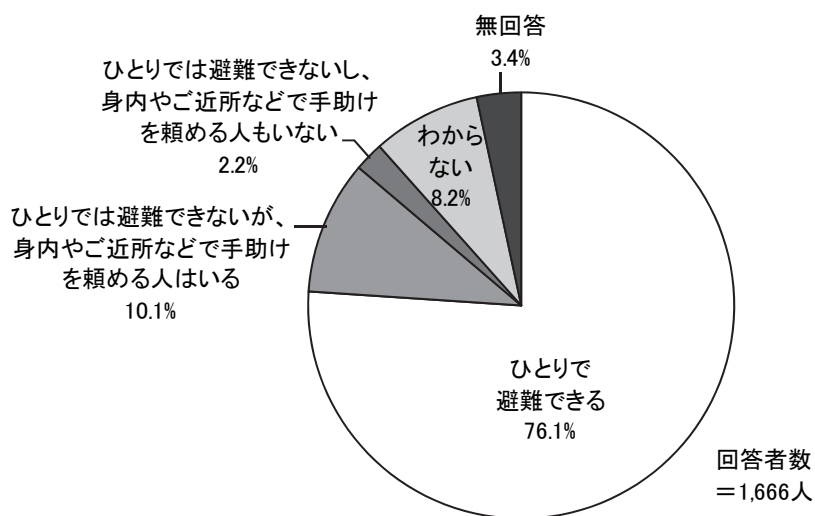


(3)災害時の避難の可否

問42 あなた(あて名のご本人)は、地震や火災などの災害時に、ひとりで避難することができますか。(1つに○)

災害時の避難の可否は、「ひとりで避難できる」が 76.1%を占める。一方、「ひとりで避難できないし、身内やご近所などで手助けを頼める人もいない」は 2.2%となっている。

図表1-87 災害時の避難の可否(単数回答)



年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「ひとりで避難できる」割合は低くなり、「ひとりでは避難できないが、身内やご近所などで手助けを頼める人はいる」割合が高くなっている。

世帯構成別にみると、ひとり暮らしの人は「ひとりで避難できる」は約7割と他に比べて低く、3.9%が「ひとりでは避難できないし、身内やご近所などで手助けを頼める人もいない」と回答している。

図表1-88 災害時の避難の可否

		回答者数(人)	ひとりで避難できる	ひとりでは避難できないが、身内やご近所などで手助けを頼める人はいる	ひとりでは避難できないし、身内やご近所などで手助けを頼める人もいない	わからない	無回答
全体		1,666	76.1	10.1	2.2	8.2	3.4
年齢別	65～69歳	479	82.9	4.4	2.7	6.7	3.3
	70～74歳	503	82.7	6.4	1.4	7.0	2.6
	75～79歳	372	73.9	10.8	2.4	10.2	2.7
	80～84歳	201	65.2	18.4	3.0	9.0	4.5
	85歳以上	93	43.0	37.6	2.2	10.8	6.5
世帯構成別	ひとり暮らし	282	70.9	8.5	3.9	12.4	4.3
	夫婦のみ	594	79.3	7.7	2.7	7.7	2.5
	子どもと同居	462	74.5	13.2	1.7	6.9	3.7
	子どもと孫と同居	187	75.9	15.0	0.5	5.9	2.7
	その他	100	79.0	6.0	0.0	11.0	4.0

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(4) 介護保険サービス利用に対する考え、介護保険料の家計への影響

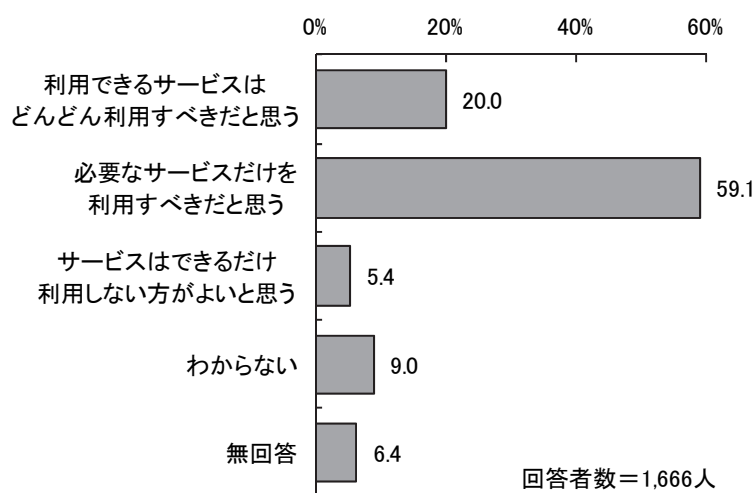
問43 あなた(あて名のご本人)は、介護保険サービスの利用のあり方について、どのようなお考えをお持ちですか。(1つに○) 【比較調査251参照】

問44 介護保険の保険料について、家計への影響は次のうちどれに近いですか。(1つに○) 【比較調査252参照】

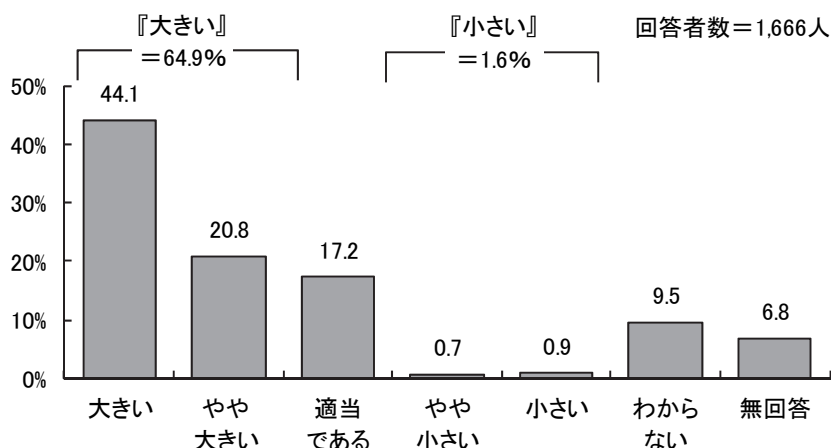
介護保険サービス利用に対する考えは、「必要なサービスだけを利用すべきだと思う」が59.1%と約6割を占める。次いで「利用できるサービスはどんどん利用すべきだと思う」20.0%、「サービスはできるだけ利用しない方がよいと思う」5.4%の順となっている。

介護保険料の家計への影響は、「大きい」が44.1%を占め、「やや大きい」20.8%をあわせて64.9%が『大きい』と回答している。

図表1-89 介護保険サービス利用に対する考え(単数回答)



図表1-90 介護保険料の家計への影響(単数回答)



※『大きい』 = 「大きい」 + 「やや大きい」

※『小さい』 = 「やや小さい」 + 「小さい」

(5)健康サポートセンターの認知度、利用経験

問45 あなた(あて名のご本人)は、健康サポートセンターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

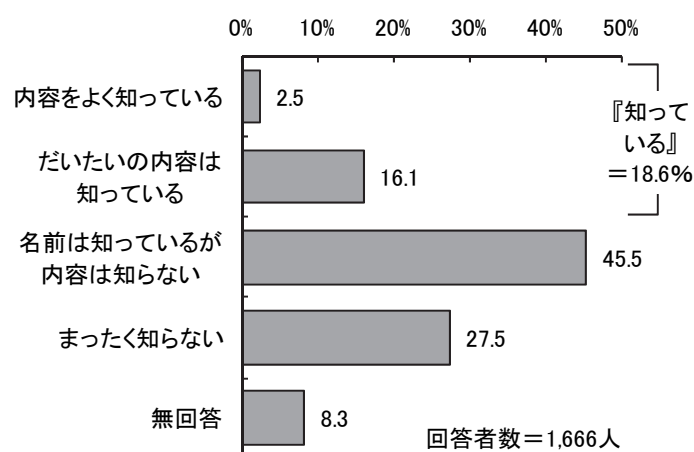
内容や名前を知っている方(問45で1～3に○)にうかがいます。

問45-1 健康サポートセンターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

健康サポートセンターについて、「内容をよく知っている」2.5%、「だいたいの内容は知っている」16.1%をあわせた『知っている』は18.6%であり、「名前は知っているが内容は知らない」が45.5%、「まったく知らない」が27.5%を占める。

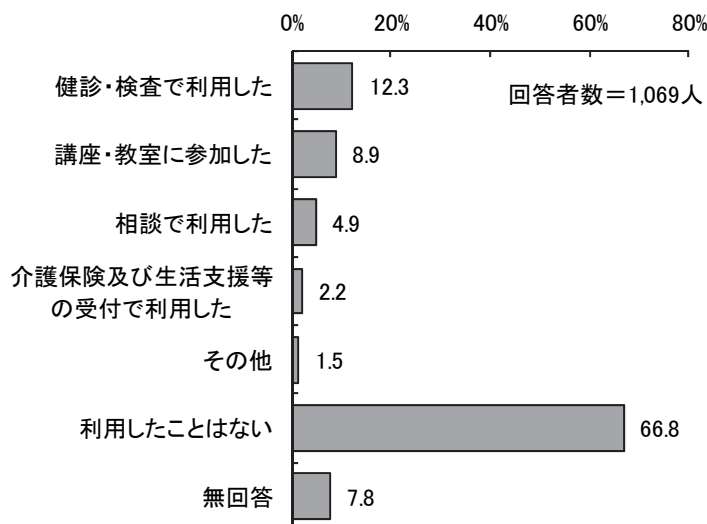
内容や名前を知っている人の利用経験は、「利用したことはない」が66.8%を占め、利用した場合としては、「健診・検査で利用した」12.3%、「講座・教室に参加した」8.9%などとなっている。

図表1-91 健康サポートセンターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

図表1-92 健康サポートセンターの利用経験(複数回答)



(6) 熟年相談室(地域包括支援センター)の認知度、利用経験

問46 あなた(あて名のご本人)は、熟年相談室(地域包括支援センター)について、どのくらい知っていますか。(1つに○)

内容や名前を知っている方(問45で1~3に○)にうかがいます。

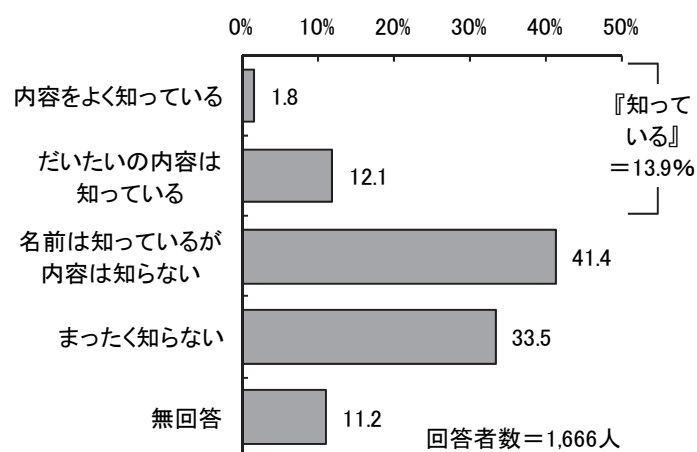
問46-1 熟年相談室(地域包括支援センター)を利用したことはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

熟年相談室(地域包括支援センター)について、「内容をよく知っている」1.8%、「だいたいの内容は知っている」12.1%をあわせた『知っている』は13.9%と1割台であり、「名前は知っているが内容は知らない」が41.4%、「まったく知らない」が33.5%となっている。

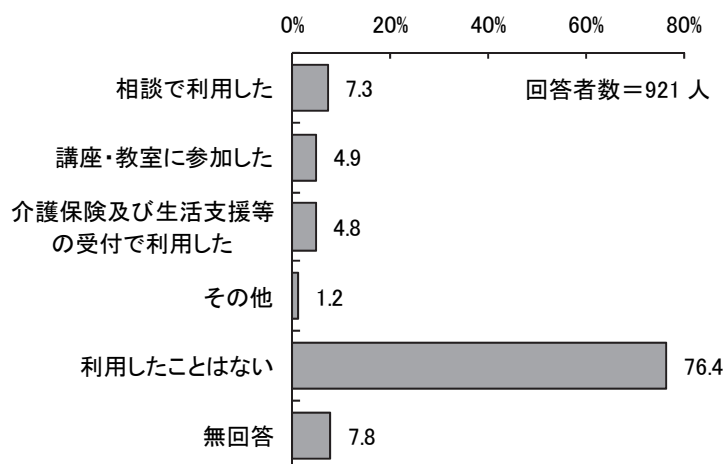
内容や名前を知っている人の利用経験は、「利用したことはない」が76.4%を占め、利用した場合としては、「相談で利用した」7.3%、「講座・教室に参加した」4.9%などとなっている。

図表1-93 熟年相談室(地域包括支援センター)の認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

図表1-94 熟年相談室(地域包括支援センター)の利用経験(複数回答)



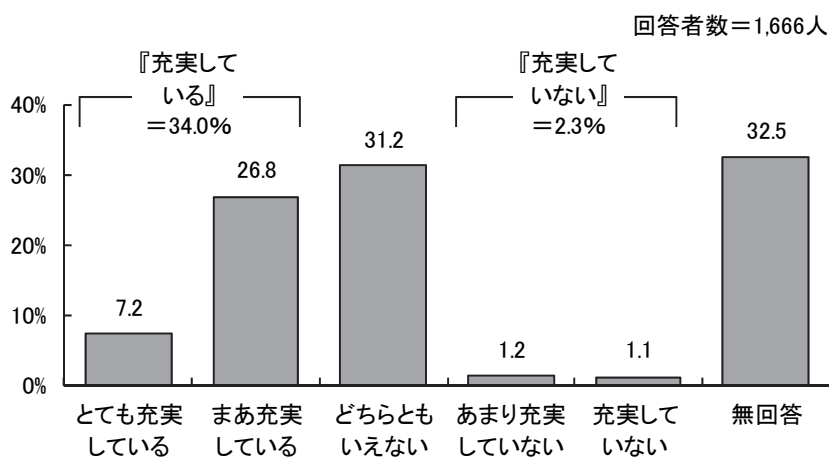
9. 江戸川区の熟年者施策について

(1) 区の熟年者施策の充実度

問47 江戸川区の熟年者施策について、あなた(あて名のご本人)はどのように感じますか。
(1つに○) 【比較調査253頁参照】

区の熟年者施策の充実度は、「とても充実している」7.2%、「まあ充実している」26.8%をあわせた34.0%が『充実している』と回答している。「あまり充実していない」1.2%、「充実していない」1.1%をあわせた『充実していない』は2.3%であった。

図表1-95 区の熟年者施策の充実度(単数回答)



※『充実している』 = 「とても充実している」 + 「まあ充実している」

※『充実していない』 = 「あまり充実していない」 + 「充実していない」

(『充実していない』理由：22件より抜粋して記載)

- ・ 80歳以上の熟年者家族だが、どこからも、安否の確認や問い合わせなどが、一度もない。
- ・ 一人住まいの熟年者が多く、外出しないで閉じこもりになっていると思う。
- ・ 相談窓口のサービスの充実を図って欲しい。
- ・ 広報などの記事を読むだけでは、内容がよくわからない。もっと宣伝してほしい。
- ・ 特養などの施設に入りたくても入れない状態を、どう解決していくのか。
- ・ 利用した事がないので分からない。

(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと

問48 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。

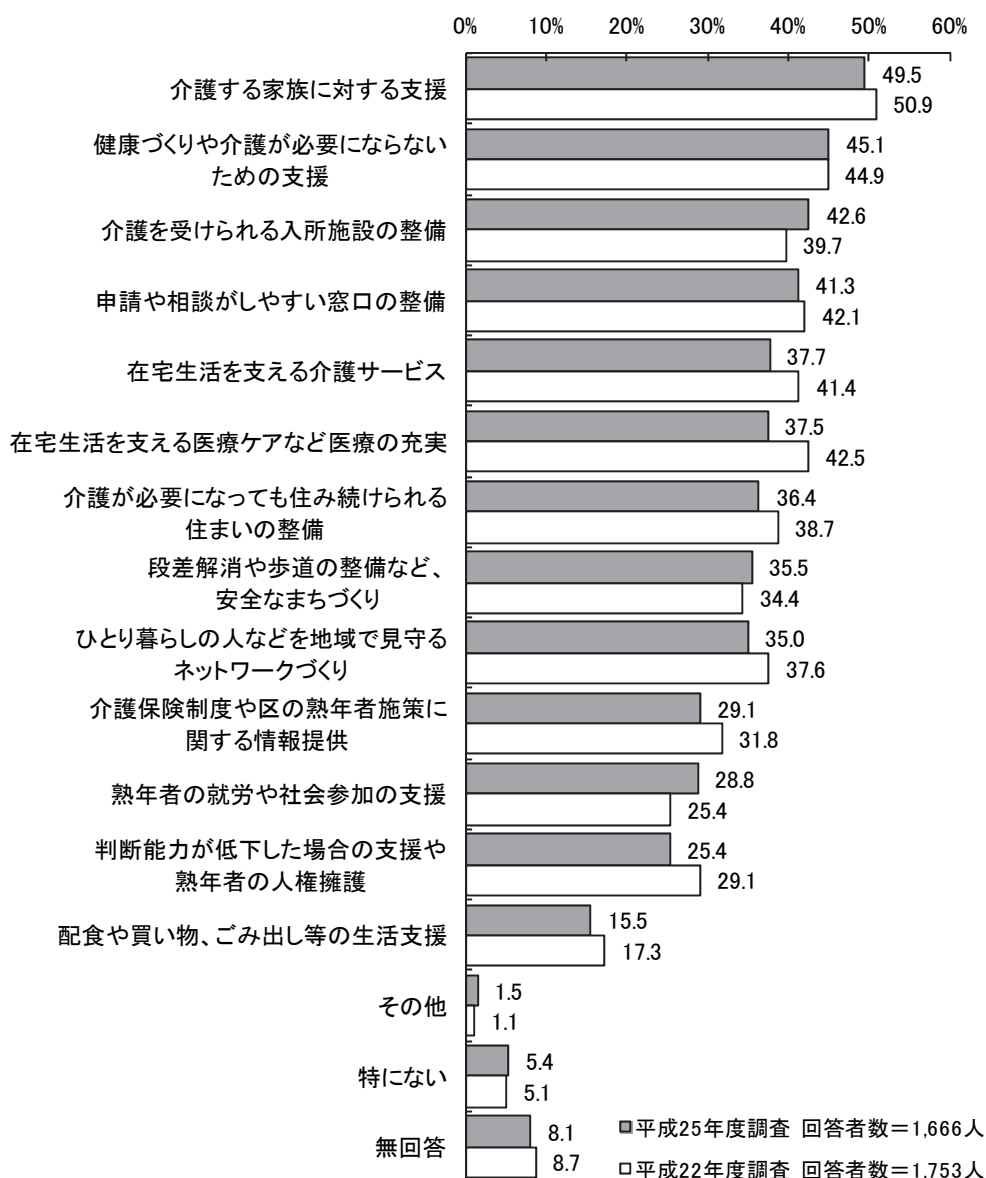
(あてはまるものすべてに○)

【比較調査254頁参照】

区の熟年者施策で充実してほしいことは、「介護する家族に対する支援」49.5%、「健康づくりや介護が必要にならないための支援」45.1%、「介護を受けられる入所施設の整備」42.6%が上位3位となっている。次いで、「申請や相談がしやすい窓口の整備」41.3%、「在宅生活を支える介護サービス」37.7%が続いている。

平成22年度調査結果と比較すると、上位1、2位は同様であるが、前回第3、5位だった「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」「在宅を支える介護サービス」の割合が減少し、第6位だった「介護を受けられる入所施設の整備」の割合が増加している。

図表1-96 区の熟年者施策で充実してほしいこと(複数回答)＜平成22年度調査との比較＞



(3)区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

(383 件について分類・要約して記載)

【1】介護保険・区の介護支援等に対する意見・要望(107 件より抜粋)

- ・介護タクシーがあまりにも高すぎる。ぜいたくで利用するのではなくタクシーを利用しなければ移動できないので利用するのだから、せめて通常の方と同じ料金で利用できるようにしてほしい。江戸川区で指導や補助していただけたらと思う。
- ・熟年者に対するクーポン券の廃止や、身体障害者に対するタクシー券の半額等、区の財政が厳しい状況は分かるが、なるべく復活することを望む。
- ・区内に特養やデイサービス等が沢山あり、更に増えているが、中身はかなり差がある。もっときちんと調べて、施設の質を高めてほしい。
- ・共稼ぎの夫婦でも一人稼ぐ分は親の入所費用という人を、何人も知っている。せめて、10万円位の施設をつくってほしい。
- ・今現在、実母が96歳で有料老人ホームに入れているが、毎月20万円以上かかるので、年金ぐらしの私共にはとても厳しい。費用が安い老人ホームがほしい。
- ・子どもがいても自分達の生活や体力面から期待するのは難しい。老々介護は共倒れする。立派な建物でなくてもいいので特別養護老人ホームをもっとつくってほしい。
- ・年金だけの人は介護施設を利用できるかが、一番の不安です。
- ・有料老人ホームは高額で入所できない。区の施設を早急につくってほしい。
- ・将来介護が必要になったときに、書類などの申請や手続きの方法を知っておきたい。また、手続きなどは、なるべく簡単にしてもらいたい。
- ・健康サポートセンター、熟年相談室等の職員は待受体制業務がほとんどであるように感じる。職員が外に出て熟年者に調査したりすることにより、色々な制度が周知され有効に活用されていくのだと思う。
- ・熟年者施策、介護保険の事等、知らない事が多く、今後は他人事ではなく自身で積極的に勉強してみようと思う。充実した老後生活を送れる様に江戸川区の施策に期待している。
- ・介護保険料が高過ぎるのでもう少し考えてほしい。
- ・津波等の各種災害時の第1次、第2次避難方法は決まっているのか。特に3F、4Fに逃げる必要がある場合は、どうなっているのか知りたい。
- ・災害の時に避難するわかりやすいマップがほしい(何年かごとに新しくする)。
- ・物やお金を配る制度より、いざという時に必要なサービスをしぼらないでほしい。
- ・熟年者を家族で支えている家庭は、人的な負担が大きいので、何らかの支援をしてほしい。
- ・子どもがいる家庭への支援も大事だが、今まで社会のために頑張ってきた熟年者への支援や税の軽減など、もう少し優遇してほしい。

【2】保健医療福祉施策に対する意見・要望(40 件より抜粋)

- ・最期の時まで自宅で過ごしたいので、支援してほしい。
- ・在宅生活を支える24時間体制の介護・医療サービスの充実を望む。
- ・親が有料老人ホームに入居しているが、高額な支払いや思っていたサービスとは違うので、自分自身は自宅で暮らしたいと思っている。自宅で暮らせるように行政が支えてほしい。
- ・在宅医療のシステムを整備し、医療従事者を確保してほしい。自宅で過ごすことを望んでいる熟年者は多いと思う。

- ・妻がくも膜下出血に倒れた経験から、突然の病気の恐ろしさが身に沁みだ。医療の充実を望む。
- ・医療保険の制度上の問題であるらしいが、3か月で転院というのは悲しい状況である。本当にリハビリが必要な時などは、本人の希望を聞いてほしい。
- ・無料で受けられる健診項目をもっと拡大して下さい。
- ・ひとり暮らしだが、持ち家があるため何の支援もないのはおかしい。先の事が心配である。
- ・現在 90 歳でひとり暮らしである。いつ倒れるかわからないので、区役所の方に知らせる、呼べるスイッチをつけてほしいと思う。
- ・65 歳になって入浴券が送られてきたが、経費を考えると無駄だと思う。熟年者を支えるのは若い人なのだから、少しでも負担を軽くする必要があると思う。
- ・他区の方から江戸川区は熟年者にやさしいという話を聞く。大変うれしくありがたいことと感謝している。

【3】就労・生きがい・社会参加に対する意見・要望(33 件より抜粋)

- ・昨年まで長寿のお祝い品があったが、今年からなくなった。何らかの形で復活してほしい。
- ・町会の長寿会では、誕生月に赤飯をいただき、熟年者達は喜々と楽しんでいる。
- ・リズム運動など皆さん大変喜んでいる。私も仕事をやめたら行きたいと思っているので、いつまでも続けてほしい。
- ・ひとり暮らしの方は、会話の相手がいれば、生活が一段充実したものになる。熟年者でも健康で、他人の役に立ちたいと思っている方はたくさんいるのでボランティアを募集して活躍頂いたら良いと思う。
- ・消極的で内に閉じこもりがちの人への情報活動を充分にしてほしい。
- ・現在、私は何かできるボランティアがあればと思って、手話を勉強している。
- ・地域のボランティア活動に参加しているが、若い人の参加が少なく、活動が難しくなってきたと感じている。
- ・保育園の保育さんの助手に熟年者を雇うと、熟年者と園児の双方に良いと思う。
- ・60 歳で退職してからも、元気に働き続けられる熟年者はいる。その方々の力を活用できる環境を整えることは、介護予防にもつながるものと考えます。熟年者を活用できるシステムをつくり、情報提供してほしい。

【4】健康づくり・介護予防に対する意見・要望(19 件より抜粋)

- ・江戸川区は、他区に比べて福祉が充実していると思う。現状を感謝して、何でも利用するのではなく、そうならない為の努力をしなければならないと思う。
- ・健康の事を考えてウォーキングをしているが、認知症が一番こわい。いつも主人と頭のトレーニングをしている。
- ・出来るだけ介護が必要にならないように、江戸川区から講座等で呼びかけてほしい。
- ・あまりにも社会や人に頼りすぎは良くない。個人がある程度責任を持って元気な内は自分自身で何でもやっていけるような社会をつくってもらいたい。
- ・熟年者向けのやさしいヨガ・太極拳など、ひとりでできる体操を指導してほしい。
- ・スタジオやプール等が安く利用できて、病気にならない身体づくりができるとよい。

【5】道路・公園等のまちづくり、住宅に対する意見・要望(43 件より抜粋)

- ・せっかく色々な施設や活動場所があっても、1 時間も前にバスが来たりするなど交通の便が悪いため、参加しづらい。
- ・区内の移動は都バスのみで乗り換えが多い。リムジンバスのような区内循環の交通手段があると、もっと外出が出来るようになると思う。

- ・何年も都営住宅に応募しているが落選している。子どもはいないので、この先大変不安である。家賃の安い住宅へ早く転居できればと思っている。
- ・自転車が車道を走る様になり、危険が増加している。自転車事故のない町づくりをお願いしたい。特に高校生、小さなお子さんを持つお母さんに厳しい教育を行う必要があると思う。
- ・視力や感覚の衰えから歩道を歩くと、わずかなでこぼこや段差に足がもつれる事があるので、歩道の整備をお願いしたい。
- ・車イスで外出する事が多いが、歩道の段差や電柱、ごみ収集日のごみ袋などで通行が困難である。
- ・健康を害し、他人に迷惑を掛け、何のメリットもないので、江戸川区も是非、外での禁煙をお願いしたい。
- ・外出時、必要に応じて公衆トイレを使用するが、汚いところが多いと感じる。
- ・公園や通りなどを歩くとごみが多く、マナーの悪さを感じる。教育機関でぜひ“ごみをすてない”教育に力を入れてほしい。
- ・町をきれいにするボランティアや緑を増やし、街並をグレードアップしてほしい。
- ・文化の違う外国人と互いに気持良く住めるような対策を充実してほしい。

【6】その他(141件より抜粋)

- ・区からのお知らせの放送を、もう少しゆっくりとはっきりと話してほしい。
- ・このアンケートをもとに、よりよい支援、及び施設の充実を期待している。
- ・このようなアンケートは熟年者が安全に暮らすために、大いに役立つと思う。
- ・介護施設で働く人達が長く働けるように給料等を増やすことも必要だと感じる。
- ・国民年金二人で年150万円位から固定、介護、健保を引かれている。これでは生活できないので、区役所が中に入って土地を担保にお金を借りられる制度をつくってほしい。
- ・ひとり暮らしを始めて27年になるが、体調不良を考えるととても不安で、特に夜は大変心細い。
- ・年収100万円以下の低所得者への支援をお願いしたい。

第 2 章

介護予防に関する調査

< 調 査 概 要 >

調 査 方 法	郵送配付、郵送回収
調 査 対 象 者	65 歳以上の二次予防事業の候補者・決定者 となっている区民(平成 25 年 11 月 1 日現在)
抽 出 方 法	健康診査等の結果より無作為抽出
調 査 期 間	平成 25 年 11 月 15 日～12 月 11 日
対 象 者 数 及 び 回 収 率	対 象 者 数 : 1,000 有 効 回 収 数 : 723 有 効 回 収 率 : 72.3%

1. 基本的属性

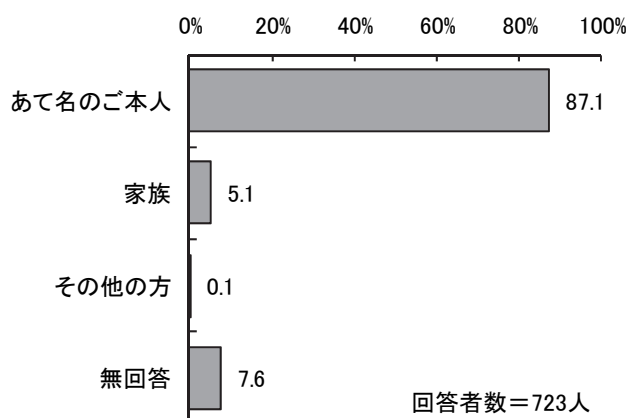
(1) 調査回答者、性別、現在の満年齢

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)

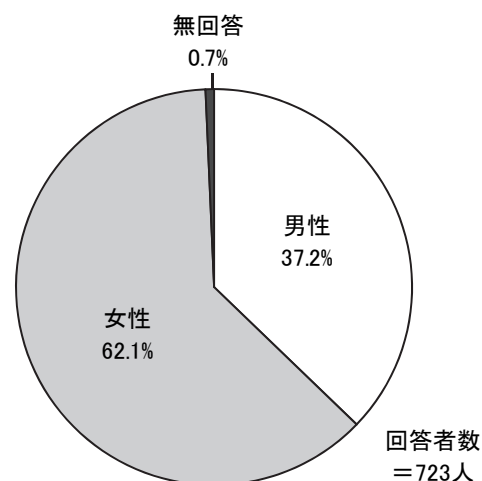
問2 あなた(あて名のご本人)の性別、平成25年11月1日現在の満年齢をお答えください。

調査回答者は、「あて名のご本人」87.1%、「家族」5.1%などとなっている。
性別は、「男性」37.2%に対して「女性」62.1%と、女性のほうが24.9ポイント高い。
年齢は、「75～79歳」28.4%、「70～74歳」24.9%、「80～84歳」21.3%の順であり、
平均年齢は77.0歳となっている。

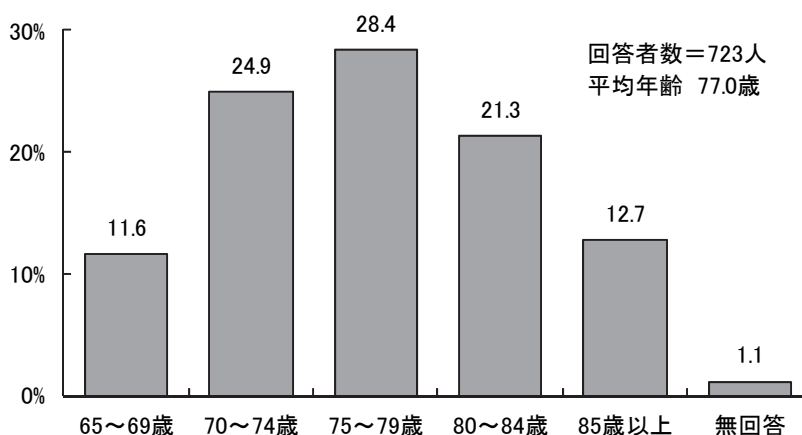
図表2-1 調査回答者(単数回答)



図表2-2 性別(単数回答)



図表2-3 年齢(単数回答)

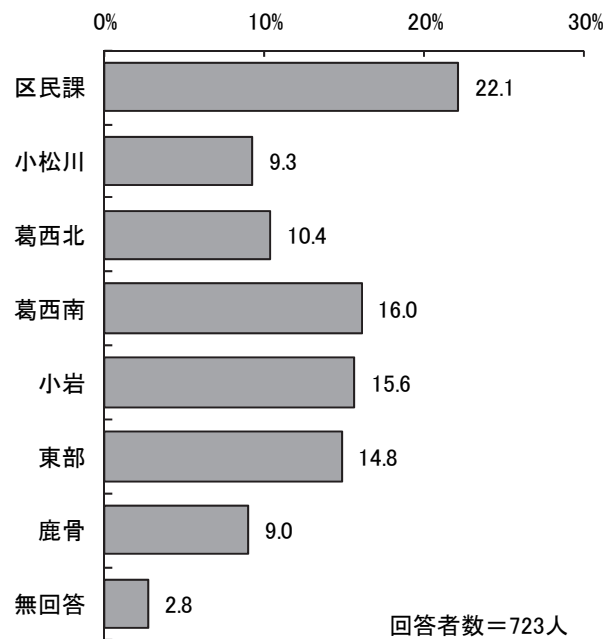


(2)居住地(日常生活圏域)

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。丁目がない場合は、町名だけ記入してください。 【比較調査235頁参照】

居住地(日常生活圏域)は、「区民課」が22.1%、「葛西南」が16.0%、「小岩」が15.6%、「東部」が14.8%などとなっている。

図表2-4 居住地(日常生活圏域)(単数回答)

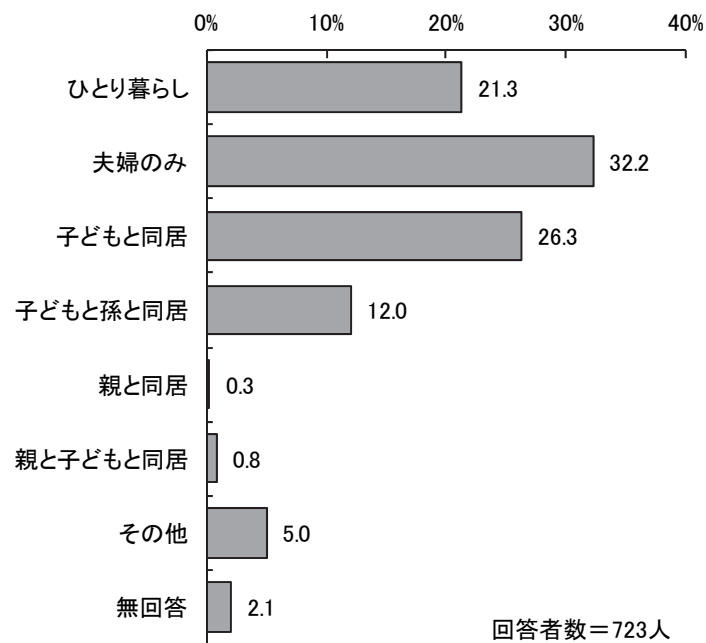


(3)世帯構成

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)
【比較調査236頁参照】

世帯構成は、「夫婦のみ」32.2%、「子どもと同居」26.3%に次いで、「ひとり暮らし」が21.3%となっている。

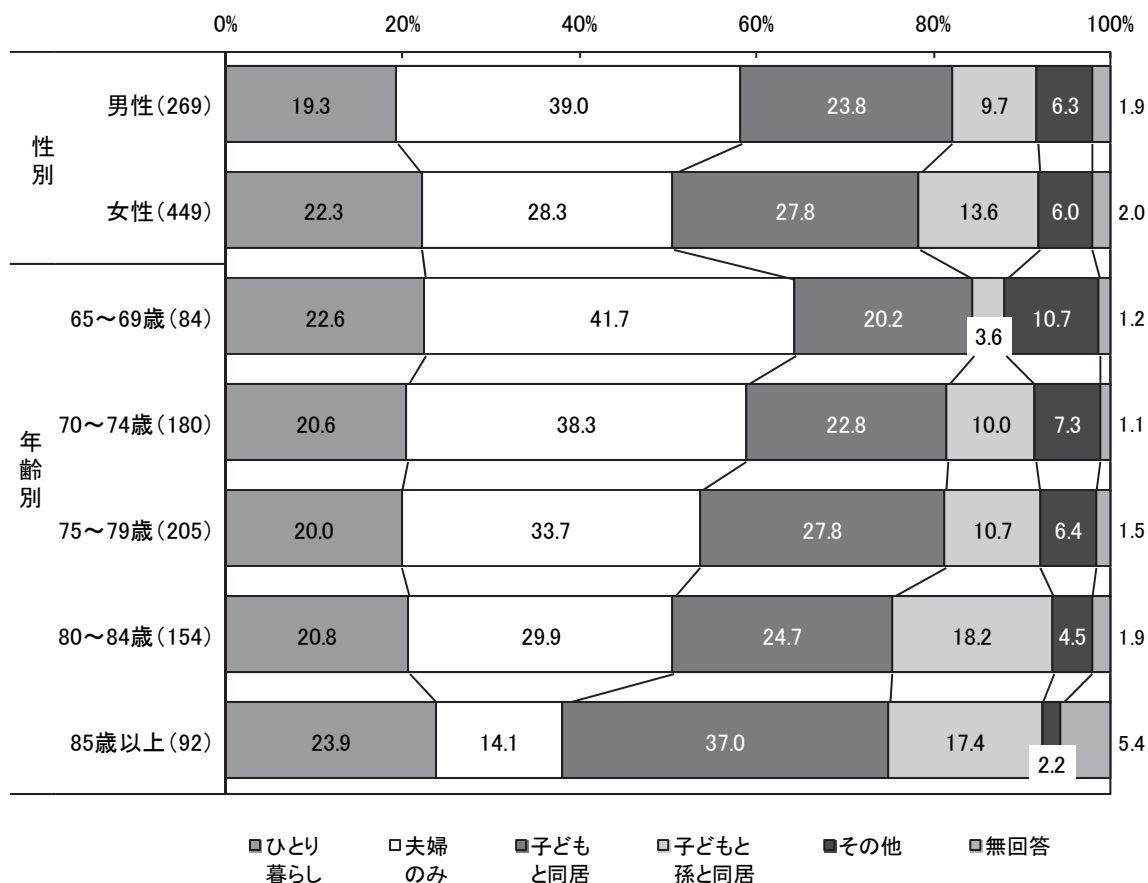
図表2-5 世帯構成(単数回答)



性別ごとにみると、男性は「夫婦のみ」が約4割を占めるのに対し、女性では2割台であり、「子どもと同居」「ひとり暮らし」「子どもと孫と同居」の割合が男性に比べて高い。

年齢別にみると、「夫婦のみ」は年齢層が高くなるほど低下するが、84歳までの年齢層においてはもっとも高い割合を占める。85歳以上は「子どもと同居」37.0%に次いで、「ひとり暮らし」23.9%、「子どもと孫と同居」17.4%の順となっている。

図表2-6 世帯構成



※ () は回答者数

※ 「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(4) 日中独居の状況

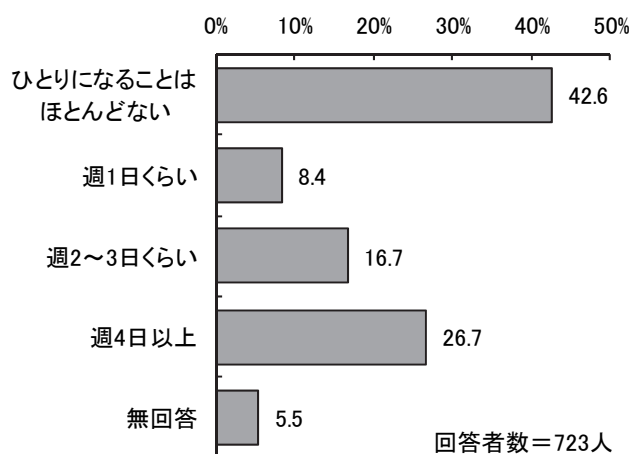
問5 あなた(あて名のご本人)は、日中、家にひとりでいることがどのくらいありますか。

(1つに○)

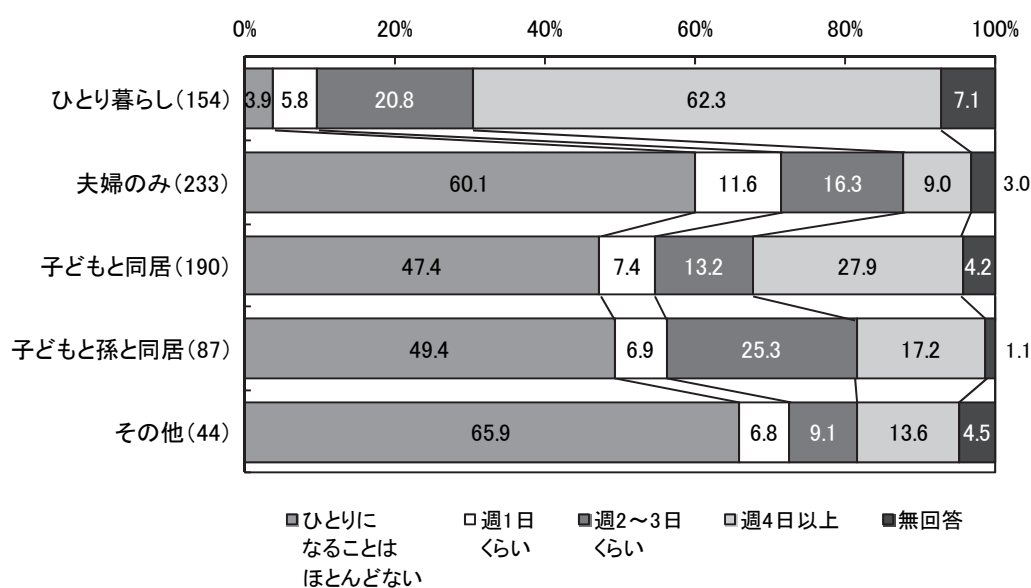
日中独居の状況をみると、「ひとりになることはほとんどない」は42.6%と半数を下回り、26.7%と約4人に1人が「週4日以上」ひとりでいると回答している。

世帯構成別にみると、「週4日以上」ひとりでいる人の割合は、ひとり暮らしの人が62.3%、子どもと同居の人が27.9%、子どもと孫と同居の人が17.2%、夫婦のみ世帯の人は9.0%となっている。

図表2-7 日中独居の状況(単数回答)



図表2-8 日中独居の状況



※ () は回答者数

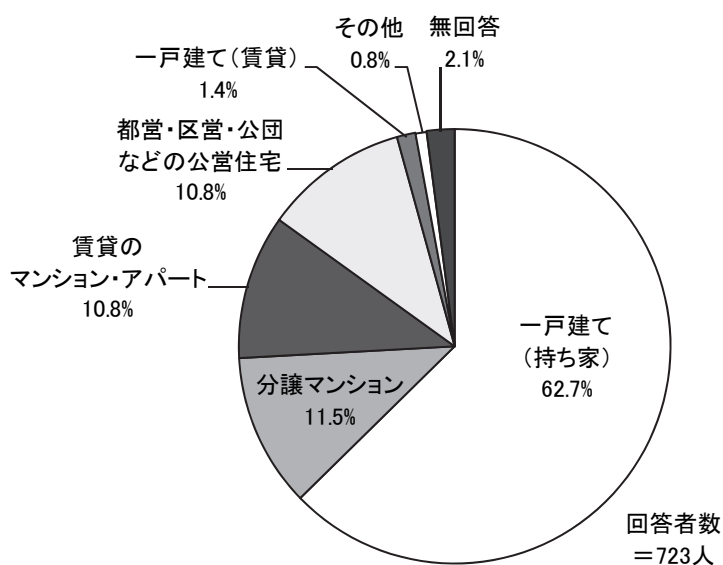
※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

(5)住居の形態

問6 あなた(あて名のご本人)の現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

住居の形態は、「一戸建て(持ち家)」62.7%に次いで、「分譲マンション」11.5%、「賃貸のマンション・アパート」「都営・区営・公団などの公営住宅」各10.8%などとなっている。

図表2-9 住居の形態(単数回答)



(6) 居住階数、エレベーターの有無

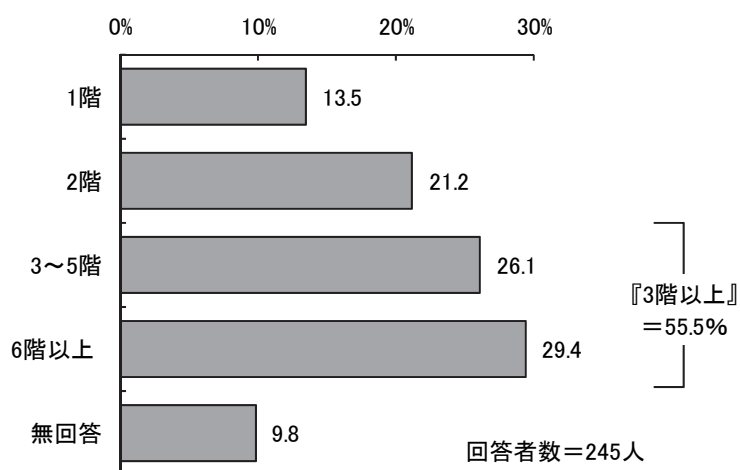
マンションやアパート等にお住まいの方(問6で3～6に○)におうかがいします。

問6-1 現在、何階で生活していますか。また、2階以上で生活している場合、エレベーターはありますか。(それぞれ1つに○)

マンションやアパートに居住している人の居住階数は、「6階以上」29.4%、「3～5階」26.1%の順であり、『3階以上』が55.5%と半数強を占める。

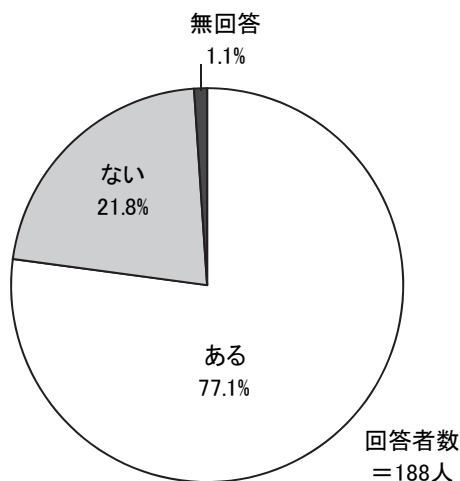
2階以上に居住している場合のエレベーターの有無は、「ある」が77.1%、「ない」は21.8%となっている。

図表2-10 居住階数(単数回答)



※『3階以上』 = 「3～5階」 + 「6階以上」

図表2-11 エレベーターの有無(単数回答)



2. 健康について

(1) かかりつけ医の有無

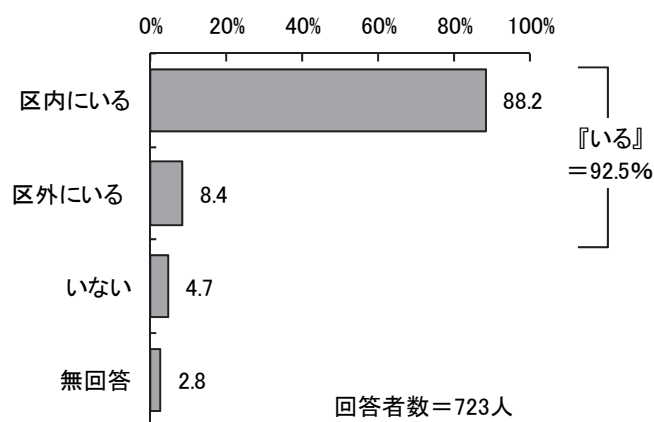
問7 あなた(あて名のご本人)には、かかりつけの医師がいますか。

(あてはまるものすべてに○)

【比較調査238参照】

かかりつけ医の有無は、「区内にいる」88.2%、「区外にいる」8.4%であり、92.5%が『いる』と回答している。

図表2-12 かかりつけ医の有無(複数回答)



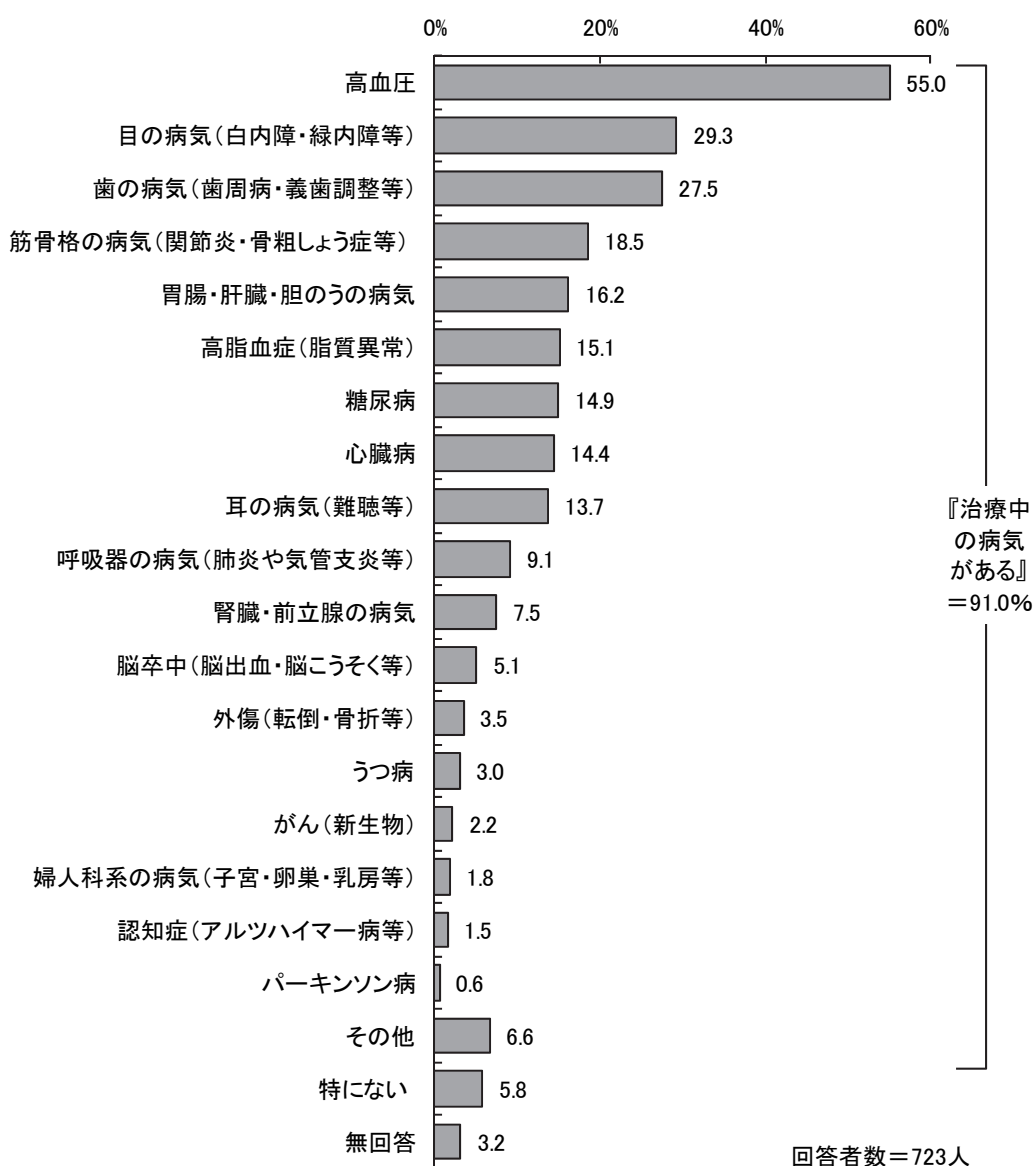
※『いる』 = 100% - 「いない」 - 「無回答」

(2) 現在治療中の病気

問8 あなた(あて名のご本人)は、現在かかっている、または治療中の病気がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

現在治療中の病気は、「高血圧」55.0%がもっとも高く、「目の病気(白内障・緑内障等)」29.3%、「歯の病気(歯周病・義歯調整等)」27.5%、「筋骨格の病気(関節炎・骨粗しょう症等)」18.5%が続いている。

図表2-13 現在治療中の病気(複数回答)



※ 『治療中の病気がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

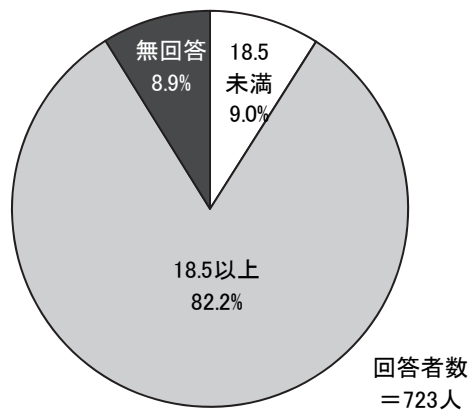
(3) 身長と体重(BMI)

問9 あなた(あて名のご本人)の身長と体重を記入してください。

(枠の中に数字をご記入ください)

身長と体重から算出したBMI（身長からみた体重の割合を示す体格指数）について、低栄養が疑われる「18.5未満」の人は9.0%となっている。

図表2-14 BMI(単数回答)



3. 日常生活機能の状況と評価について

(1) 生活機能の状況

問10 あなた(あて名のご本人)の日常の生活について、それぞれあてはまるもの1つに○をしてください。

生活機能の状況を基本チェックリスト(厚生労働省の通知による高齢者の生活機能状態を評価するための質問)項目への回答結果からみると、生活機能全般に関する①～⑤に「はい」と回答した人の割合は、①～③は8割台であるものの、“④友人の家を訪ねていますか”は5割台、“⑤家族や友人の相談にのっていますか”は6割台となっている。

運動器の機能に関する⑥～⑩に「はい」と回答した人の割合をみると、“⑥階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか”は39.3%と半数以下であり、“⑩転倒に対する不安は大きいですか”は約7割にのぼっている。

栄養に関する“⑪6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか”に「はい」と回答した人の割合は、19.4%と約2割を占める。

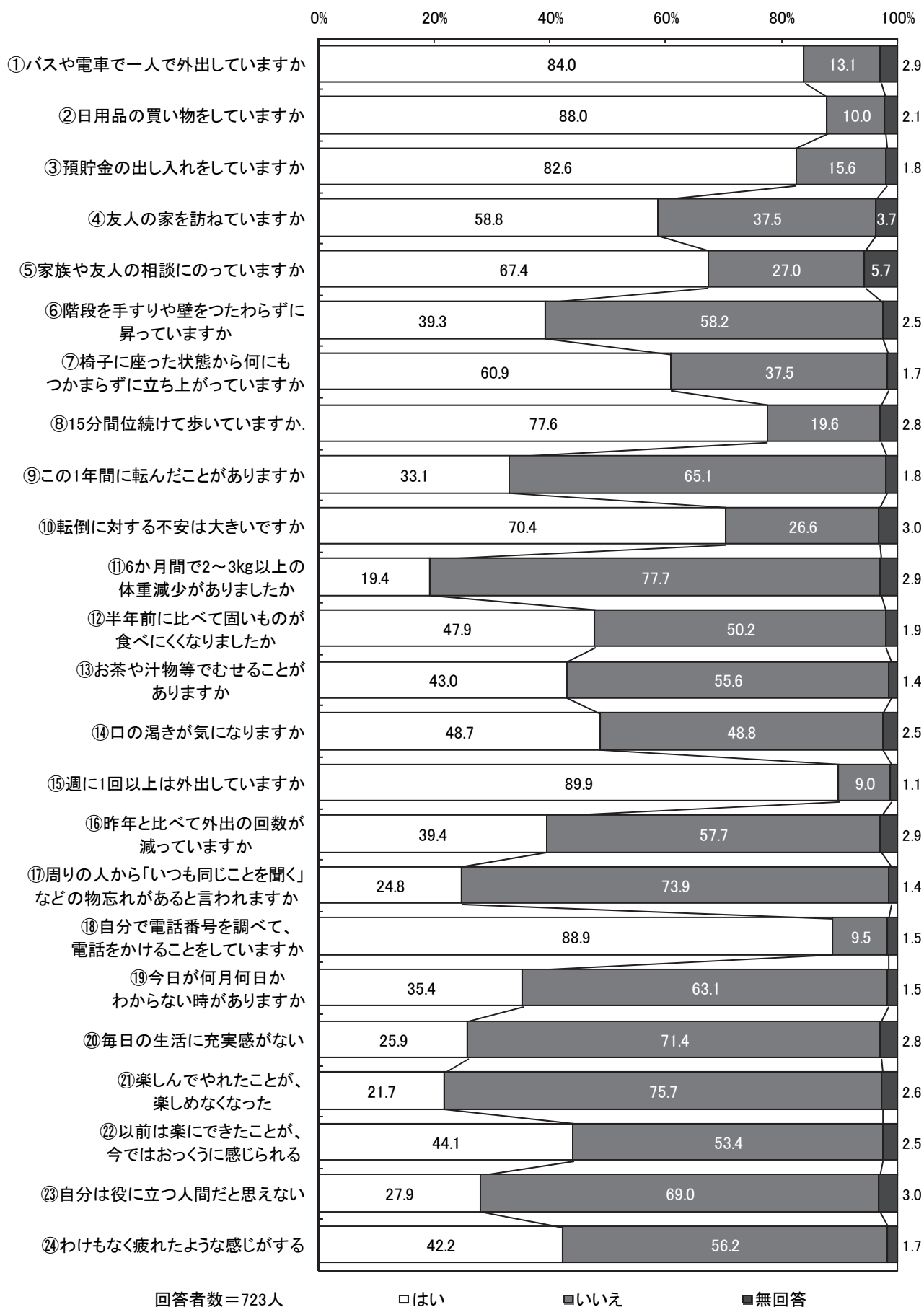
口腔機能に関する⑫～⑭に「はい」と回答した人の割合は、いずれも4割台となっている。

閉じこもりに関する⑮～⑯に「はい」と回答した人の割合をみると、“⑮週に1回以上は外出していますか”は89.9%と約9割を占める。

物忘れに関する⑰～⑱に「はい」と回答した人の割合をみると、“⑱今日が何月何日かわからない時がありますか”は35.4%と3割台を占める。

気分に関する⑳～㉔に「はい」と回答した人の割合をみると、“㉔以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる”“㉔わけもなく疲れたような感じがする”は4割台と、他の2項目に比べて高くなっている。

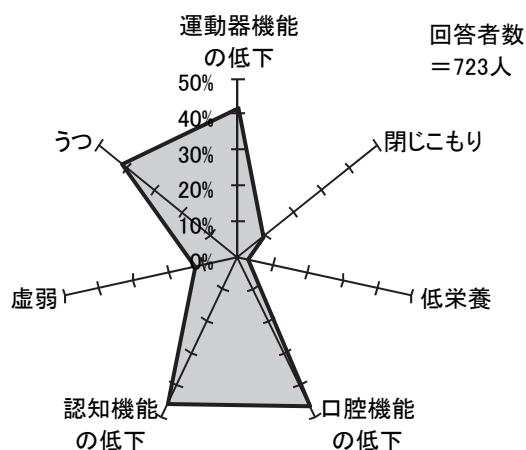
図表2-15 生活機能の状況(各単数回答)



(2)生活機能の評価【比較調査 240 参照】

(1) 生活機能の状況の回答結果をもとに、参考資料の「1. 日常生活機能評価判定基準 (4) 生活機能 (基本チェックリスト)」(361 ページ参照)に基づき生活機能の評価を行った結果をみると、生活機能が低下している(該当する)人の割合は、運動器機能の低下、口腔機能の低下、認知機能の低下、うつが4割台となっている。また、閉じこもり及び虚弱(全般的な機能低下)は1割前後、低栄養は2.8%となっている。

図表2-16 生活機能の評価(各単数回答)



※各項目の「該当」の割合を掲載している

図表2-17 生活機能の評価

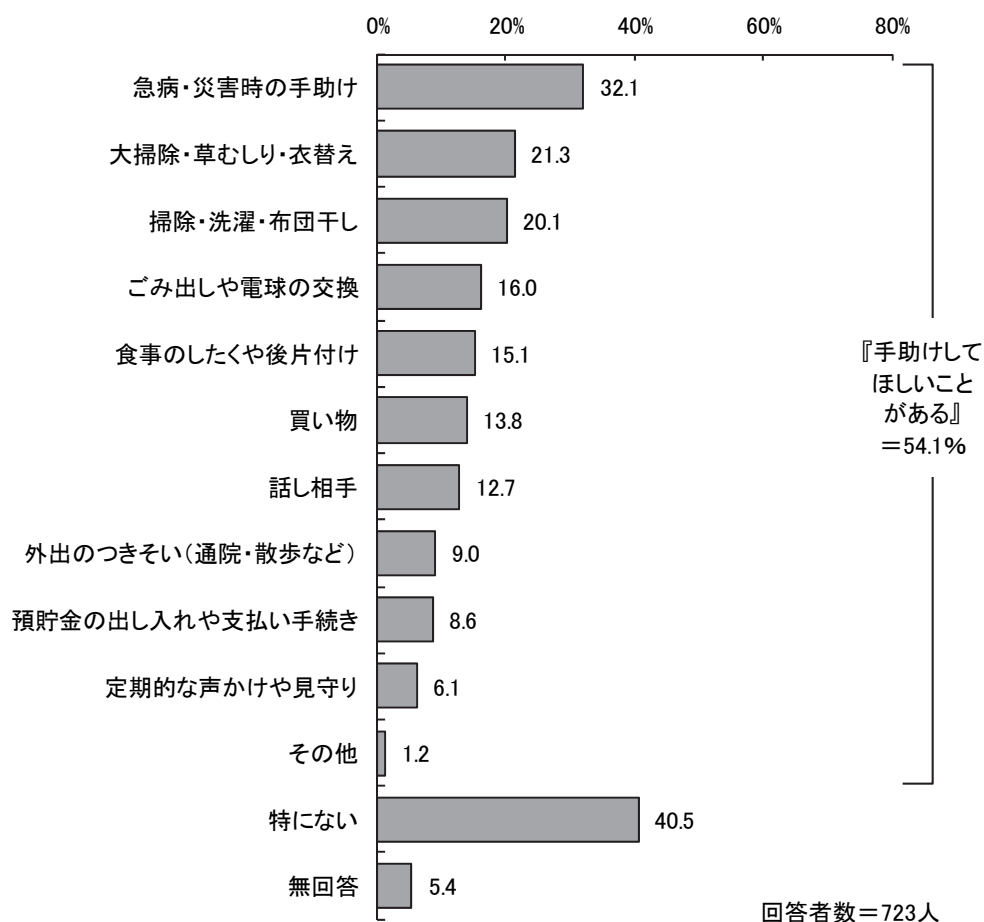
	回答者数(人)	該当	非該当	無回答
運動器機能の低下	723	41.8	51.5	6.8
閉じこもり	723	9.0	89.9	1.1
低栄養	723	2.8	86.9	10.4
口腔機能の低下	723	46.3	50.1	3.6
認知機能の低下	723	45.6	51.9	2.5
虚弱(全般的な機能低下)	723	12.4	66.5	21.0
うつ	723	41.8	51.5	6.8

(3) 日常生活の中で手助けしてほしいこと

問11 あなた(あて名のご本人)は、日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことがありますか。(あてはまるものすべてに○) 【比較調査243頁参照】

日常生活の中で手助けしてほしいことをみると、54.1%が『手助けしてほしいことがある』と回答している。具体的には、「急病・災害時の手助け」32.1%に次いで、「大掃除・草むしり・衣替え」が21.3%、「掃除・洗濯・布団干し」が20.1%などとなっている。

図表2-18 日常生活の中で手助けしてほしいこと(複数回答)



※『手助けしてほしいことがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

4. 社会参加、生きがいづくりについて

(1) 近所の人とのつきあいの程度

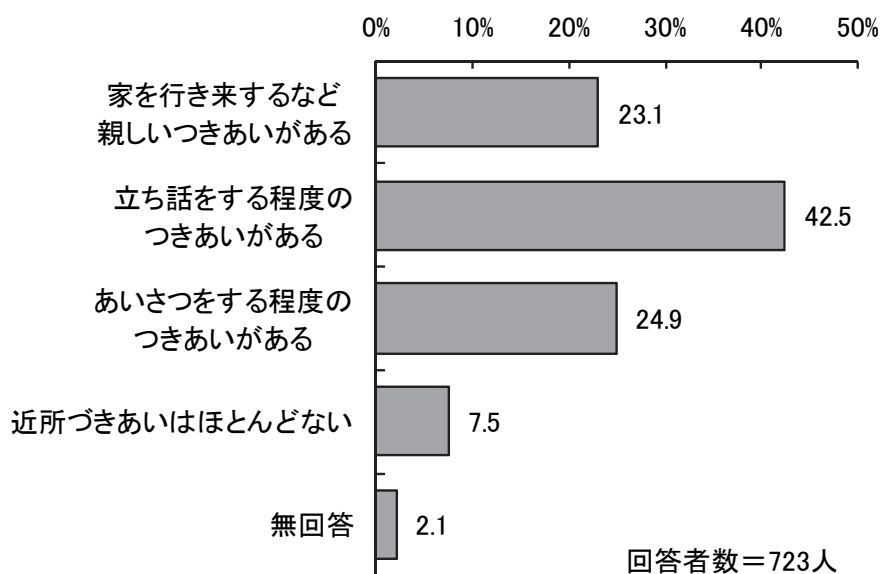
問12 あなた(あて名のご本人)は、ご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。

(1つに○)

【比較調査245参照】

近所の人とのつきあいの程度は、「立ち話をする程度のつきあいがある」42.5%がもっとも高く、次いで「あいさつをする程度のつきあいがある」24.9%、「家を行き来するなど、親しいつきあいがある」23.1%となっている。

図表2-19 近所の人とのつきあいの程度(単数回答)

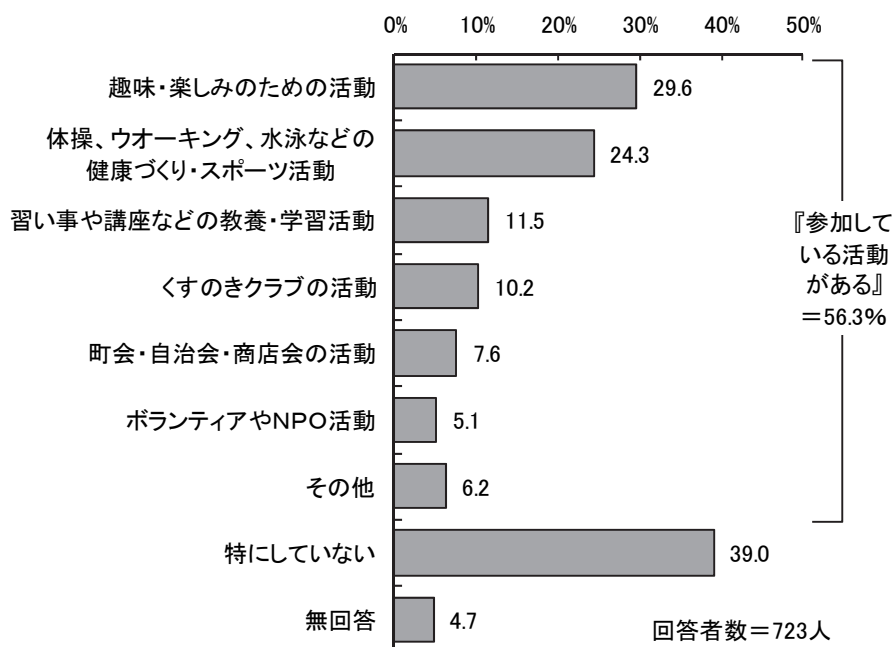


(2) 現在参加している余暇活動・社会参加活動

問13 あなた(あて名のご本人)は、現在、どのような余暇活動や社会参加活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○) 【比較調査244頁参照】

余暇活動・社会参加活動について、現在『参加している活動がある』人の割合は56.3%となっている。具体的には、「趣味・楽しみのための活動」29.6%、「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」24.3%、「習い事や講座などの教養・学習活動」11.5%の順となっている。

図表2-20 現在参加している余暇活動・社会参加活動(複数回答)



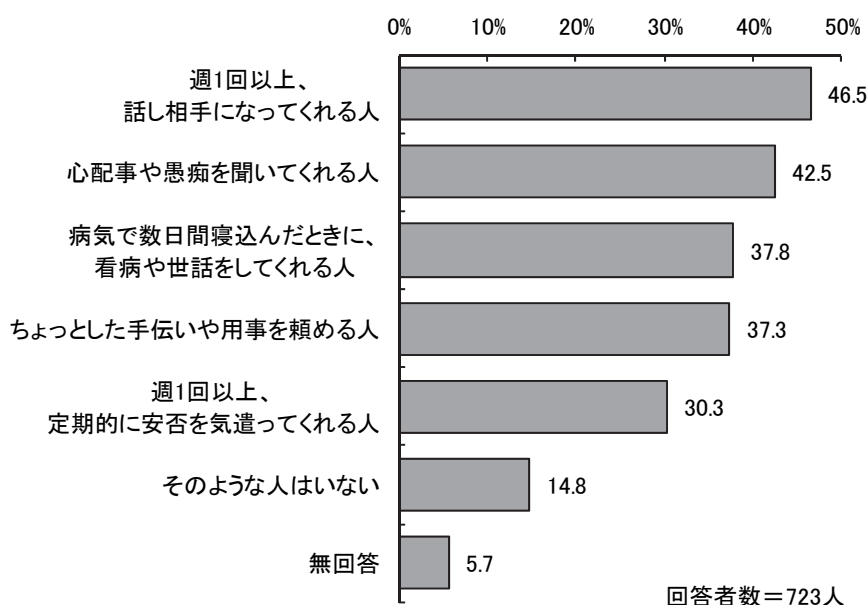
※『参加している活動がある』 = 100% - 「特にしていない」 - 「無回答」

(3) 身近に頼れる人の有無

問14 あなた(あて名のご本人)の身近に、次のような人(家族や親族、近所の人、友人、知人など)はいますか。(あてはまるものすべてに○)

身近に頼れる人の有無をみると、「週1回以上、話し相手になってくれる人」「心配事や愚痴を聞いてくれる人」がいる人の割合は4割台、「病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人」「ちょっとした手伝いや用事を頼める人」「週1回以上、定期的に安否を気遣ってくれる人」がいる人の割合は3割台となっている。

図表2-21 身近に頼れる人の有無(複数回答)



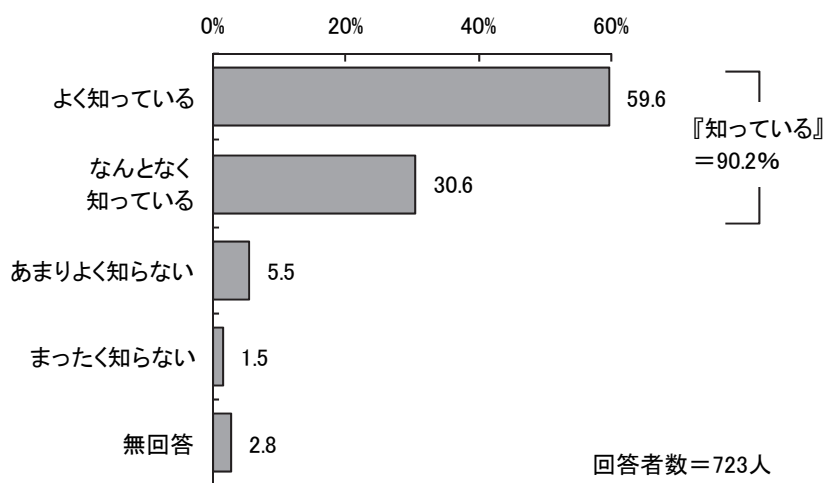
5. 介護予防について

(1) 介護予防の重要性の認知度

問15 あなた(あて名のご本人)は、介護が必要にならないようにするためには、からだの機能が低下しないよう、元気なうちから取り組むことが重要であることを知っていますか。(1つに○)

介護予防の重要性の認知度は、「よく知っている」59.6%がもっとも高く、次いで「なんとなく知っている」30.6%の順であり、これらをあわせた90.2%が『知っている』と回答している。「あまりよく知らない」は5.5%、「まったく知らない」は1.5%であった。

図表2-22 介護予防の重要性の認知度(単数回答)



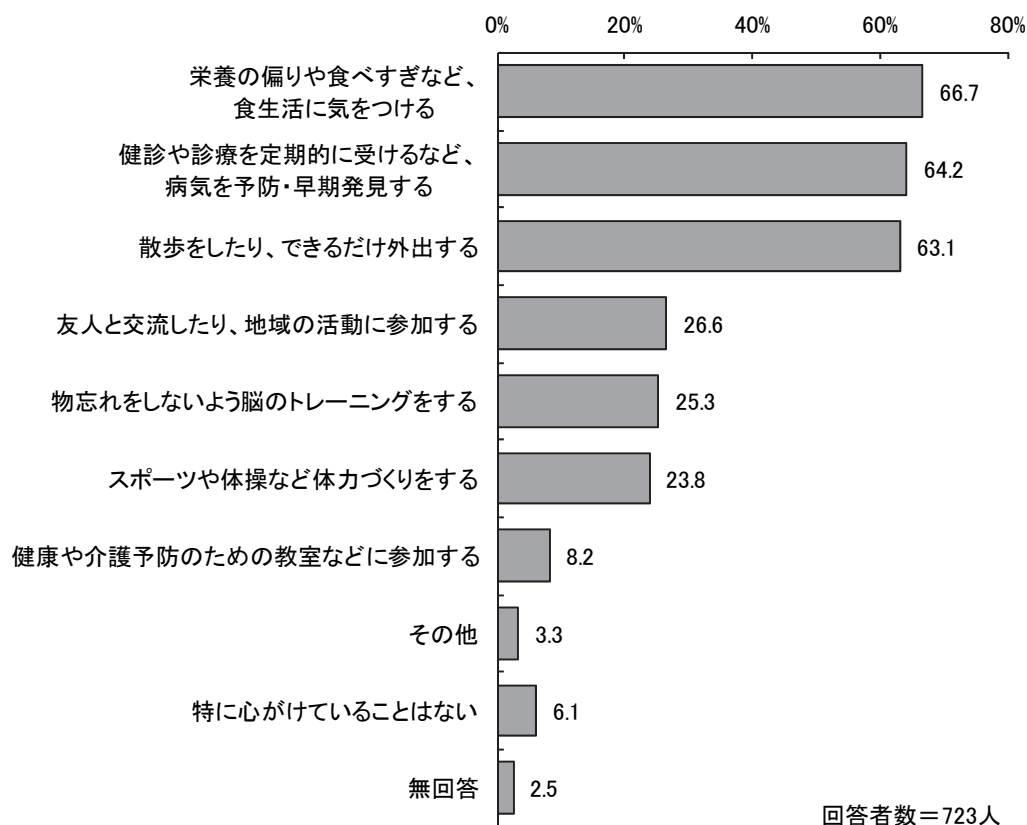
※『知っている』 = 「よく知っている」 + 「なんとなく知っている」

(2)介護予防のために日ごろから心がけていること

問16 介護が必要にならないようにするために、あなた(あて名のご本人)が日ごろから心がけていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

介護予防のために日ごろから心がけていることをみると、「栄養の偏りや食べすぎなど、食生活に気をつける」「健診や診療を定期的に受けるなど、病気を予防・早期発見する」「散歩をしたり、できるだけ外出する」が6割台を占めている。続いて、「友人と交流したり、地域の活動に参加する」「物忘れをしないよう脳のトレーニングをする」「スポーツや体操など体力づくりをする」が2割台となっている。「健康や介護予防のための教室などに参加する」は8.2%と1割を下回った。

図表2-23 介護予防のために日ごろから心がけていること(複数回答)



(3) 介護予防相談会の参加状況、行かなかった理由

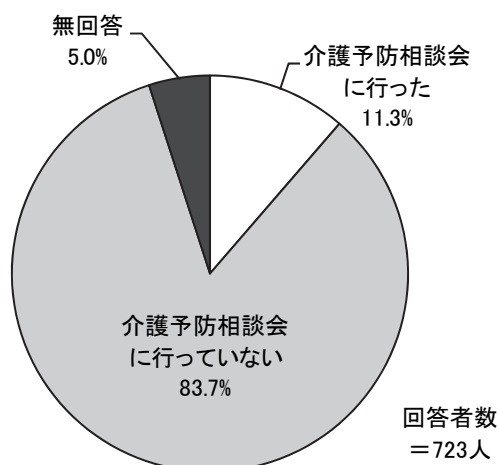
問17 あなた(あて名のご本人)は、健康診査等の結果、介護予防相談会に参加をするように勧められたと思いますが、介護予防相談会に行きましたか。(1つに○)

問17-1 「2.介護予防相談会に行っていない」に○をした方にうかがいます。あなた(あて名のご本人)が、介護予防相談会に行かなかった、または行くつもりがないのは、なぜですか。(1つに○)

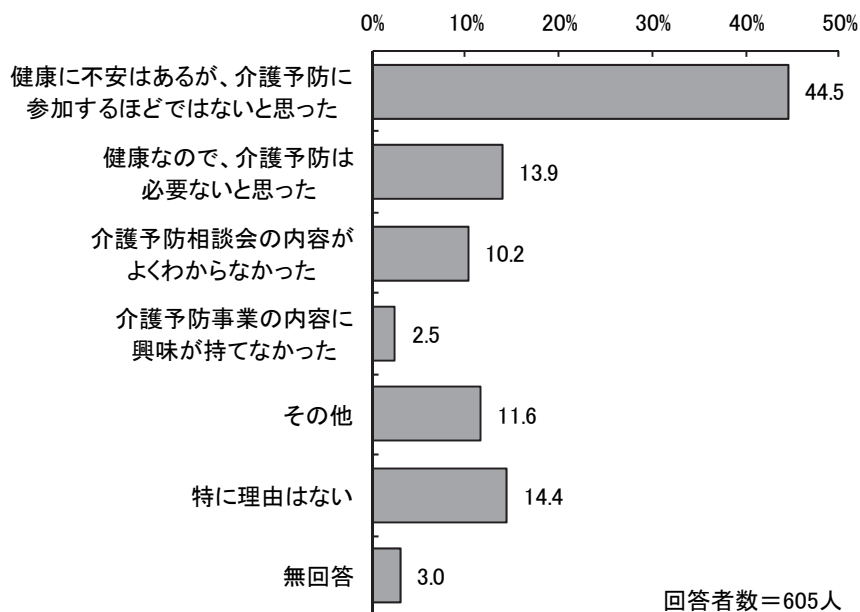
介護予防相談会の参加状況を見ると、「介護予防相談会に行った」は11.3%であり、「介護予防相談会に行っていない」が83.7%を占める。

介護予防相談会に行かなかった理由は、「健康に不安はあるが、介護予防に参加するほどではないと思った」44.5%がもっとも高く、「健康なので、介護予防は必要ないと思った」13.9%、「介護予防相談会の内容がよくわからなかった」10.2%の順となっている。

図表2-24 介護予防相談会の参加状況(単数回答)



図表2-25 介護予防相談会に行かなかった理由(単数回答)



「介護予防相談会に行っていない」割合は、性別では男性、年齢別では65～69歳及び85歳以上、日常生活圏域別では葛西北、葛西南、小岩及び東部、世帯構成別では子どもと同居及び子どもと孫と同居の人において、それぞれ他に比べて高くなっている。

図表2-26 介護予防相談会の参加状況

		回答者数(人)	介護予防相談会に行った	介護予防相談会に行っていない	無回答
全体		723	11.3	83.7	5.0
性別	男性	269	7.8	87.0	5.2
	女性	449	13.4	81.7	4.9
年齢別	65～69歳	84	13.1	84.5	2.4
	70～74歳	180	10.6	83.9	5.6
	75～79歳	205	13.7	82.4	3.9
	80～84歳	154	9.7	82.5	7.8
	85歳以上	92	9.8	87.0	3.3
日常生活圏域別	区民課	160	12.5	82.5	5.0
	小松川	67	13.4	80.6	6.0
	葛西北	75	9.3	89.3	1.3
	葛西南	116	11.2	86.2	2.6
	小岩	113	8.8	85.8	5.3
	東部	107	8.4	84.1	7.5
	鹿骨	65	18.5	73.8	7.7
世帯構成別	ひとり暮らし	154	13.6	81.2	5.2
	夫婦のみ	233	12.9	81.1	6.0
	子どもと同居	190	10.5	84.7	4.7
	子どもと孫と同居	87	5.7	90.8	3.4
	その他	44	9.1	90.9	0.0

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

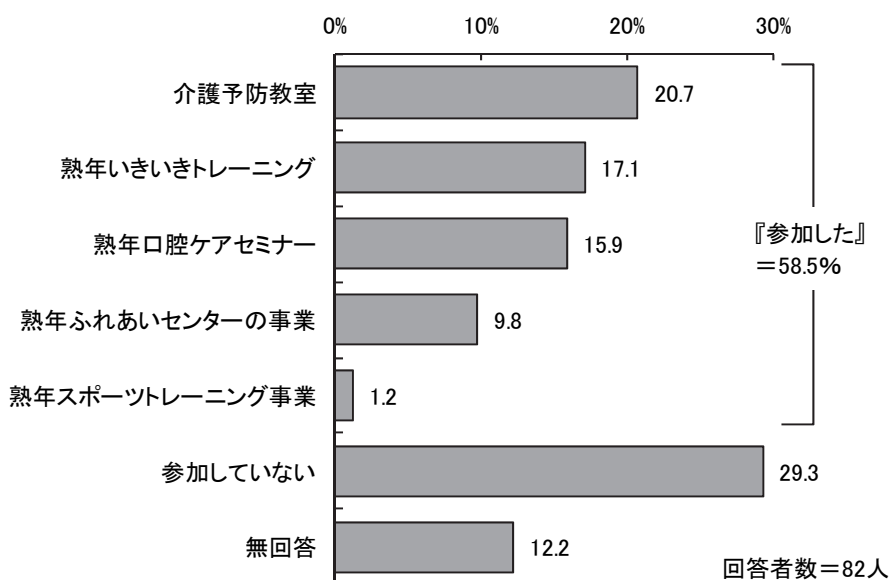
(4) 参加した介護予防事業

介護予防相談会に行った方(問17で1に○)にうかがいます。

問18 江戸川区では、介護予防のために以下の事業を行っています。どの事業に参加しましたか。(あてはまるものすべてに○)

参加した介護予防事業をみると、『参加した』人の割合は58.5%となっている。参加した事業は、「介護予防教室」が20.7%、「熟年いきいきトレーニング」が17.1%、「熟年口腔ケアセミナー」が15.9%、「熟年ふれあいセンターの事業」が9.8%、「熟年スポーツトレーニング事業」が1.2%となっている。

図表2-27 参加した介護予防事業(複数回答)



※『参加した』 = 100% - 「参加していない」 - 「無回答」

(5) 介護予防事業に参加してよかったこと

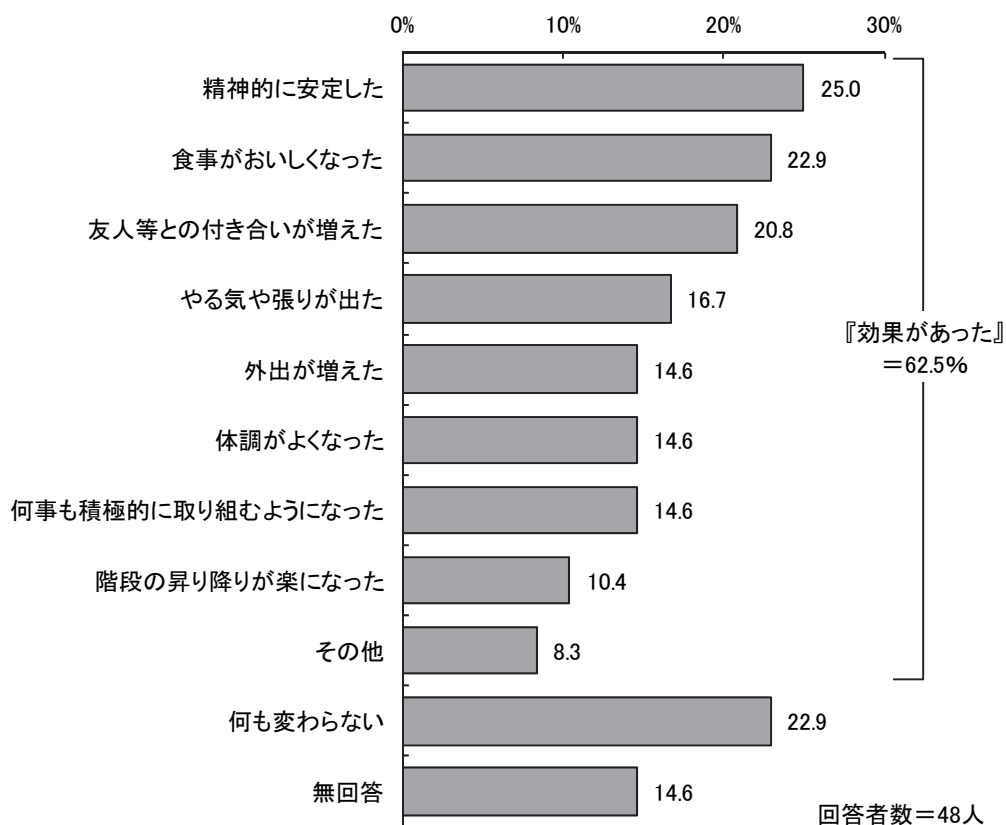
介護予防事業に参加した方(問18で1～5に○)にうかがいます。

問18-1 参加した結果、心身の状態でよかったと感じることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

介護予防事業に参加した人に、参加してよかったことをたずねたところ、62.5%が『効果があった』と回答している。具体的には、「精神的に安定した」25.0%、「食事がおいしくなった」22.9%、「友人等との付き合いが増えた」20.8%などとなっている。

図表2-28 介護予防事業に参加してよかったこと(複数回答)



※『効果があった』 = 100% - 「何も変わらない」 - 「無回答」

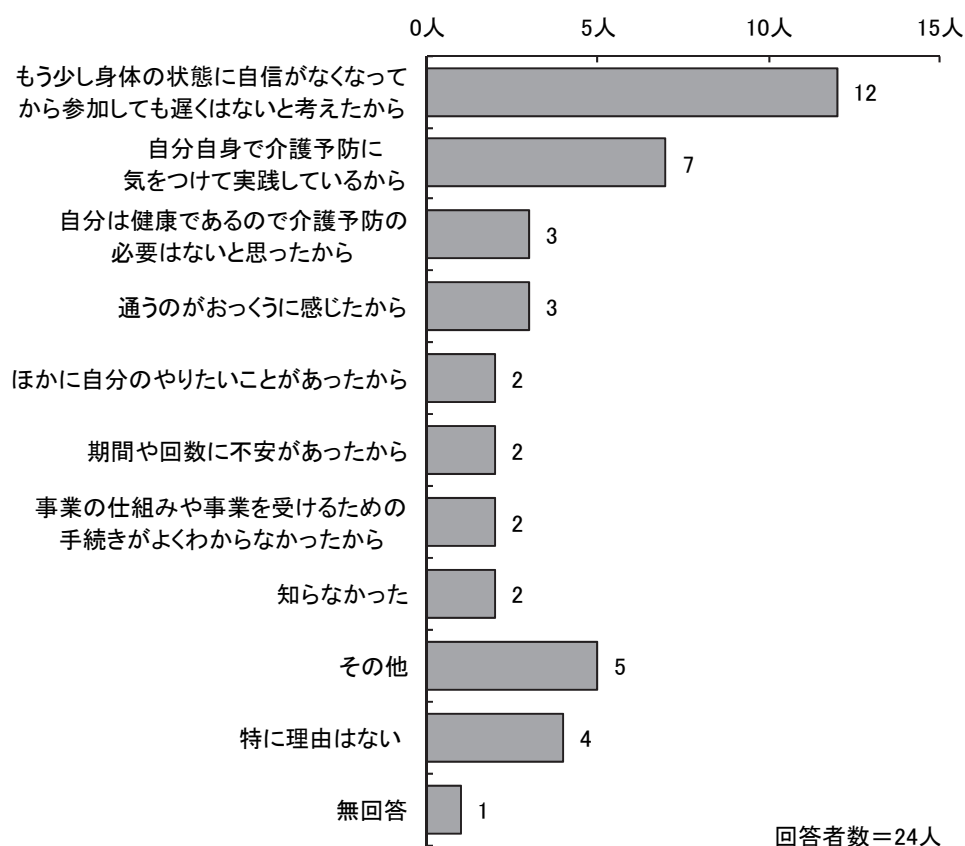
(6) 介護予防事業に参加しなかった理由

介護予防事業に参加していない方(問18で6に○)にうかがいます。

問18-2 介護予防事業に参加しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

介護予防相談会に行ったが、介護予防事業には参加していない人の参加しなかった理由としては、「もう少し身体の状態に自信がなくなってから参加しても遅くはないと考えたから」が12人、「自分自身で介護予防に気をつけて実践しているから」が7人などとなっている。

図表2-29 介護予防事業に参加しなかった理由(複数回答)



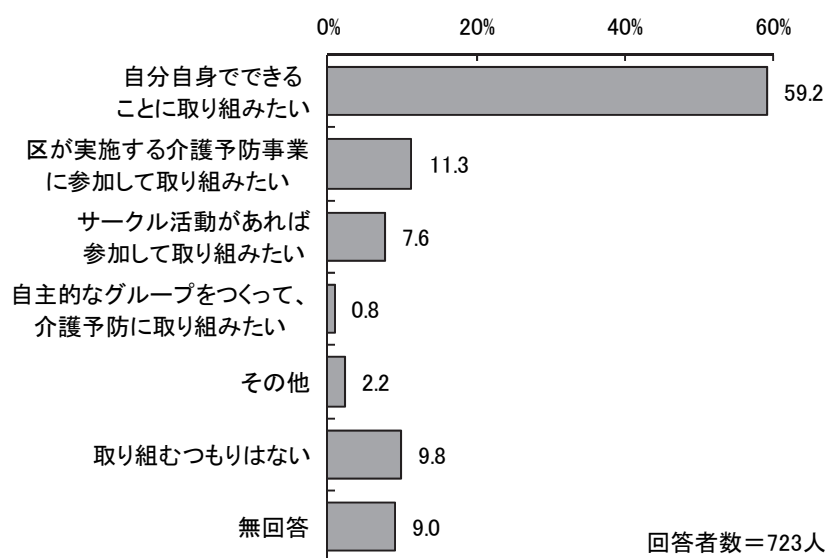
(7) 今後の介護予防の取り組み方の希望

問19 あなた(あて名のご本人)は今後、介護予防にどのように取り組みたいと思いますか。
(1つに○)

今後の介護予防の取り組み方の希望は、「自分自身でできることに取り組みたい」が59.2%と約6割を占め、「区が実施する介護予防事業に参加して取り組みたい」は11.3%、「サークル活動があれば参加して取り組みたい」は7.6%、「自主的なグループをつくって、介護予防に取り組みたい」は0.8%となっている。

年齢別にみると、「区が実施する介護予防事業に参加して取り組みたい」と回答した人の割合は年齢層が低い層に高く、65～69歳では14.3%となっている。

図表2-30 今後の介護予防の取り組み方の希望(単数回答)



図表2-31 今後の介護予防の取り組み方の希望

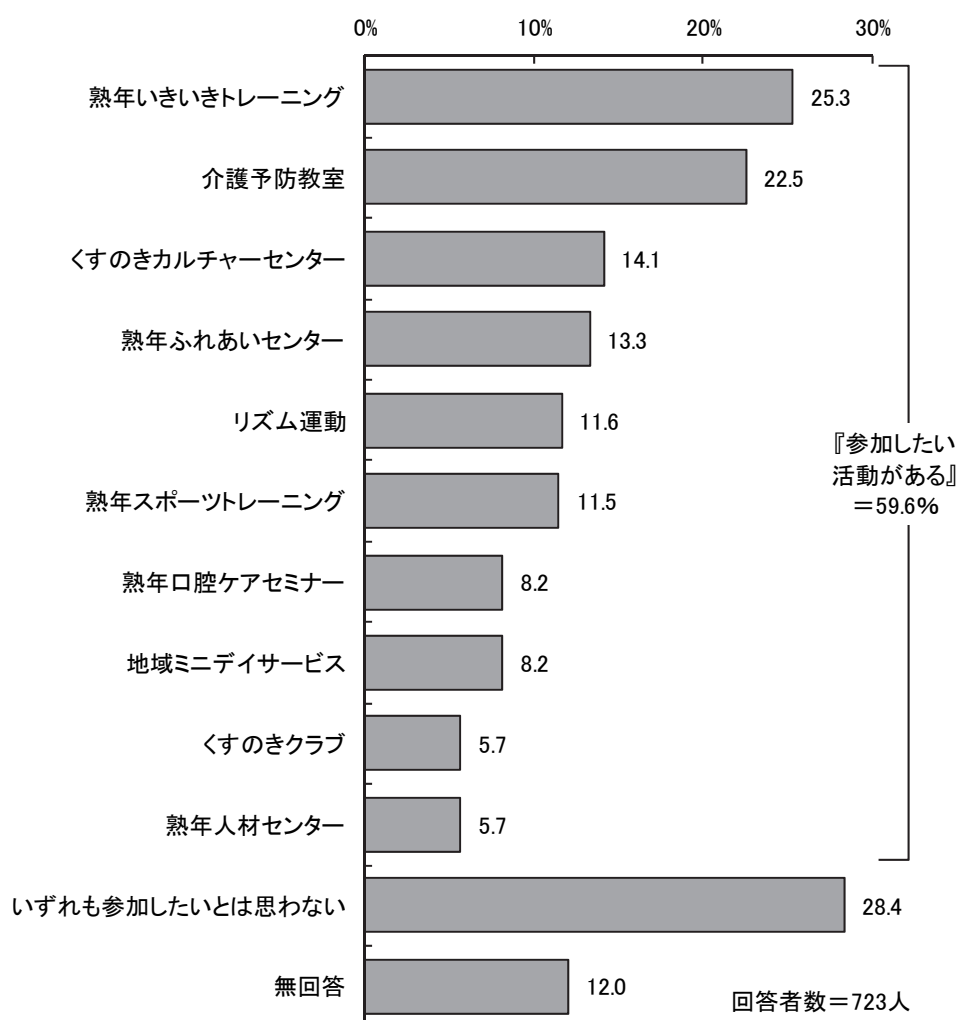
	回答者数(人)	自分自身でできることに取	区が実施する介護予防事業	サークル活動があれば参加	自主的なグループをつくつ	その他	取り組むつもりはない	無回答	
		り組みたい	に参加して取り組みたい	して取り組みたい	て、介護予防に取り組みたい				
全体	723	59.2	11.3	7.6	0.8	2.2	9.8	9.0	
年齢別	65～69歳	84	58.3	14.3	11.9	0.0	0.0	7.1	8.3
	70～74歳	180	63.3	13.9	7.8	1.1	1.1	7.2	5.6
	75～79歳	205	60.0	11.7	8.3	1.5	3.9	7.3	7.3
	80～84歳	154	57.8	7.1	6.5	0.6	2.6	10.4	14.9
	85歳以上	92	52.2	8.7	4.3	0.0	2.2	21.7	10.9

(8) 今後取り組みたい活動

問20 あなた(あて名のご本人)が、今後、続けたい・新たに参加したいと思う活動が、以下の中にありますか。(あてはまるものすべてに○)

今後取り組みたい活動をみると、『参加したい活動がある』は59.6%となっている。参加したい活動は、「熟年いきいきトレーニング」25.3%、「介護予防教室」22.5%、「くすのきカルチャーセンター」14.1%、「熟年ふれあいセンター」13.3%、「リズム運動」11.6%の順となっている。

図表2-32 今後取り組みたい活動(複数回答)



※『参加したい活動がある』 = 100% - 「いずれも参加したいとは思わない」 - 「無回答」

性別ごとにみると、『参加したい活動がある』割合は、男性の52.0%、女性の64.6%となっている。

年齢別にみると、『参加したい活動がある』割合は、70～74歳の70.5%がもっとも高い。65～79歳の年齢層では6割を超えるが、80～84歳では5割台、85歳以上では4割台に低下する。

図表2-33 今後取り組みたい活動

		回答者数(人)	熟年いきいきトレーニング	介護予防教室	くすのきカルチャーセンター	熟年ふれあいセンター	リズム運動	熟年スポーツトレーニング	熟年口腔ケアセミナー	地域ミニデイサービス	くすのきクラブ	熟年人材センター	いずれも参加したいとは思わない	無回答	『参加したい活動がある』
全体		723	25.3	22.5	14.1	13.3	11.6	11.5	8.2	8.2	5.7	5.7	28.4	12.0	59.6
性別	男性	269	27.5	20.1	10.0	14.5	4.5	10.8	8.6	6.7	5.6	9.7	36.1	11.9	52.0
	女性	449	24.1	24.3	16.5	12.7	16.0	12.0	8.0	9.1	5.8	3.3	23.6	11.8	64.6
年齢別	65～69歳	84	38.1	20.2	11.9	10.7	13.1	21.4	7.1	11.9	8.3	15.5	23.8	9.5	66.7
	70～74歳	180	31.7	23.9	18.3	13.3	11.1	15.0	7.2	9.4	3.9	6.1	23.9	5.6	70.5
	75～79歳	205	24.9	26.3	15.6	11.7	12.7	7.8	8.8	5.9	6.3	4.9	27.3	12.2	60.5
	80～84歳	154	19.5	21.4	11.7	17.5	13.0	12.3	11.7	6.5	6.5	2.6	27.3	19.5	53.2
	85歳以上	92	13.0	17.4	8.7	12.0	7.6	3.3	4.3	10.9	4.3	3.3	42.4	14.1	43.5

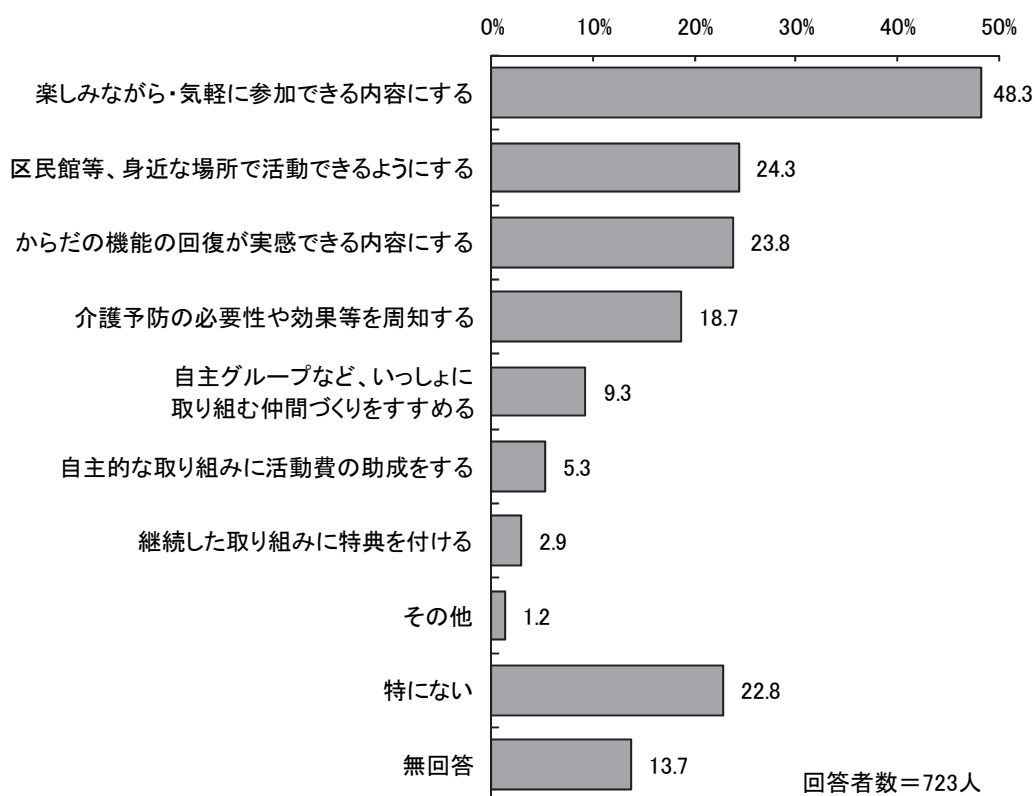
※『参加したい活動がある』=100% - 「いずれも参加したいとは思わない」 - 「無回答」

(9)介護予防に継続して取り組むために必要な環境・条件

問21 介護予防に継続して取り組むためには、どのような環境・条件が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

介護予防に継続して取り組むために必要な環境・条件は、「楽しみながら・気軽に参加できる内容にする」48.3%がもっとも高く、次いで「区民館等、身近な場所で活動できるようにする」24.3%、「からだの機能の回復が実感できる内容にする」23.8%の順となっている。

図表2-34 介護予防に継続して取り組むために必要な環境・条件(複数回答)



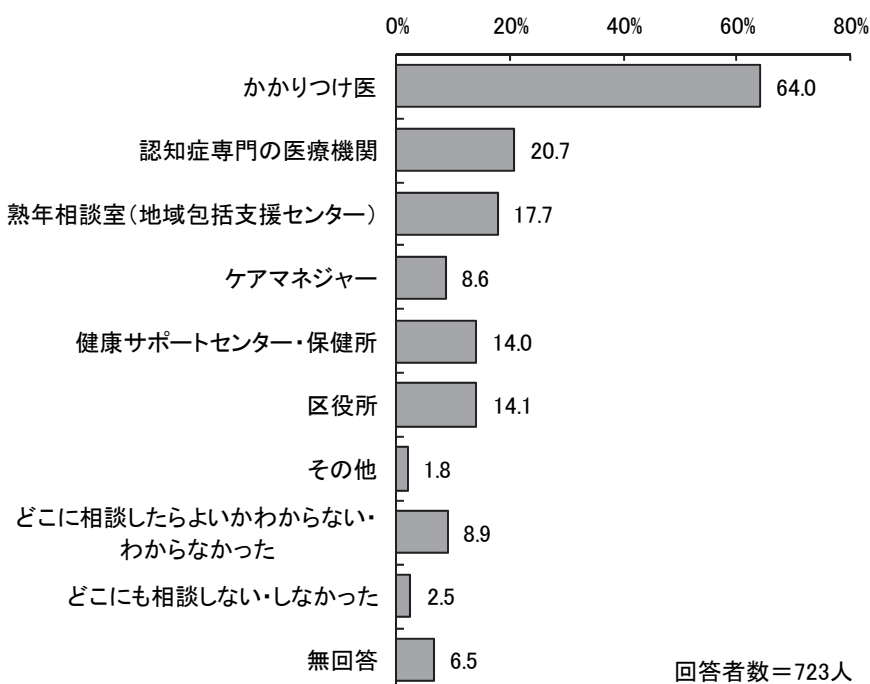
6. 認知症や権利擁護について

(1) 認知症に関する相談先

問22 あなた(あて名のご本人)やご家族に認知症の不安が生じた場合、どこに相談しますか・しましたか。(あてはまるものすべてに○) 【比較調査246頁参照】

認知症に関する相談先は、「かかりつけ医」が64.0%ともっとも高く、次いで「認知症専門の医療機関」20.7%、「熟年相談室(地域包括支援センター)」17.7%の順となっている。「どこに相談したらよいかわからない・わからなかった」と回答した人は8.9%であった。

図表2-35 認知症に関する相談先(複数回答)

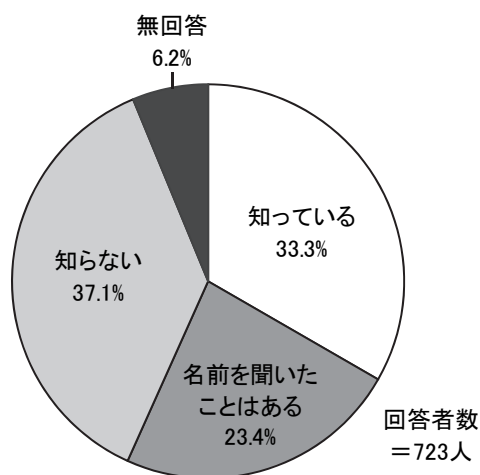


(2) 成年後見制度の認知度

問23 あなた(あて名のご本人)は、認知症などにより判断能力が十分でない人に、本人の権利を守るための援助者を選び、法律面や生活面を支援する「成年後見制度」を知っていますか。(1つに○) 【比較調査247参照】

成年後見制度の認知度は、「知っている」33.3%、「名前を聞いたことはある」23.4%であり、「知らない」は37.1%となっている。

図表2-36 成年後見制度の認知度(単数回答)

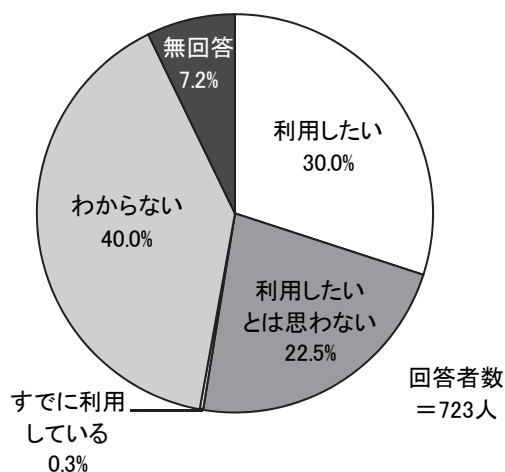


(3) 成年後見制度の利用意向

問24 あなた(あて名のご本人)やご家族が、認知症などにより判断能力が十分でなくなってきた場合に、「成年後見制度」を利用したいと思いますか。(1つに○) 【比較調査247参照】

成年後見制度の利用意向は、「利用したい」は30.0%であり、「利用したいとは思わない」22.5%を7.5ポイント上回っている。

図表2-37 成年後見制度の利用意向(単数回答)

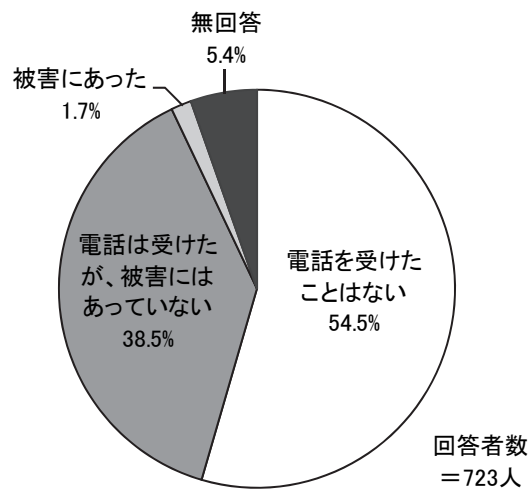


(4) サギ・悪徳商法の電話を受けた経験

問25 あなた(あて名のご本人)は、これまでにサギ・悪質商法の電話を受けたことがありますか。(1つに○) 【比較調査248頁参照】

サギ・悪徳商法の電話を受けた経験は、「電話を受けたことはない」が54.5%と過半数を占める一方、「電話は受けたが、被害にはあっていない」は38.5%、「被害にあった」は1.7%と回答している。

図表2-38 サギ・悪徳商法の電話を受けた経験(単数回答)



7. 今後の暮らしや介護について

(1) 今後介護を受けたい場所

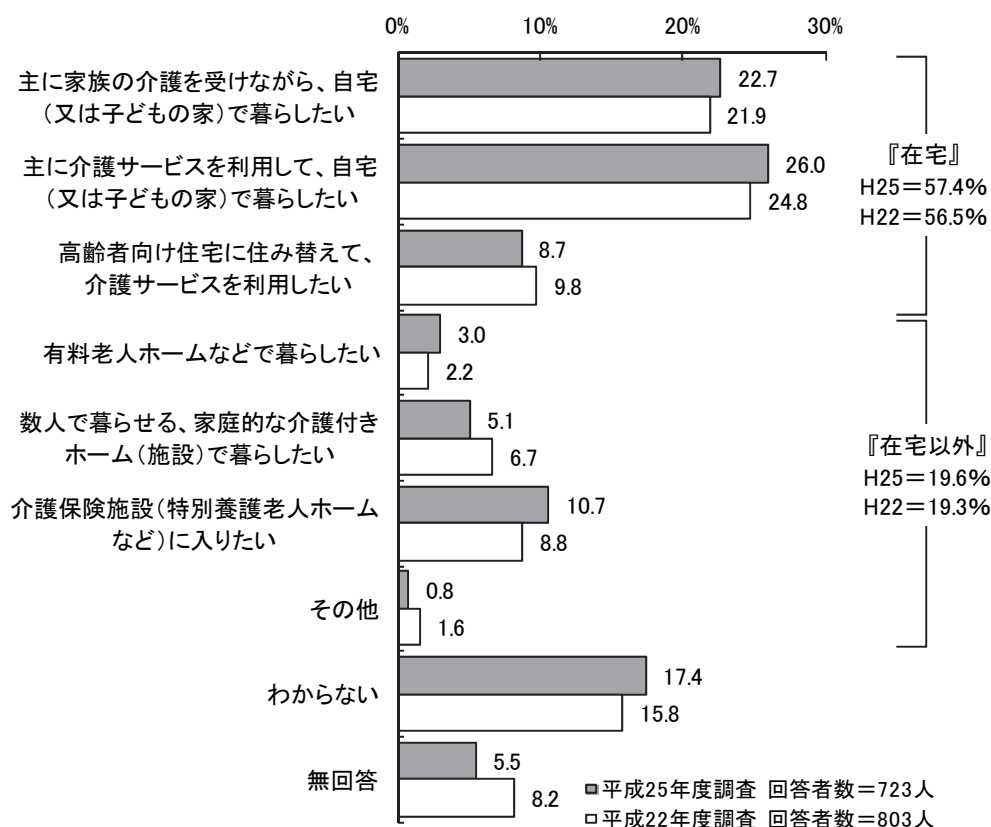
問26 あなた(あて名のご本人)は、今後、介護が必要になった場合どのように暮らしたいですか。(もっとも近い考え1つに○) 【比較調査249頁参照】

今後介護を受けたい場所は、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」26.0%、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」22.7%に次いで、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」10.7%となっている。

『在宅』での暮らしを希望している人の割合は57.4%、『在宅以外』を希望する人の割合は19.6%となっている。

平成22年度調査結果と比較すると、『在宅』を希望する人の割合は0.9ポイント、『在宅以外』を希望する人の割合0.3ポイント増加している。

図表2-39 今後介護を受けたい場所(単数回答)＜平成22年度調査との比較＞



※『在宅』＝「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 ＋「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」
 ＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」
 ＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」
 ＋「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」
 ＋「その他」

(2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

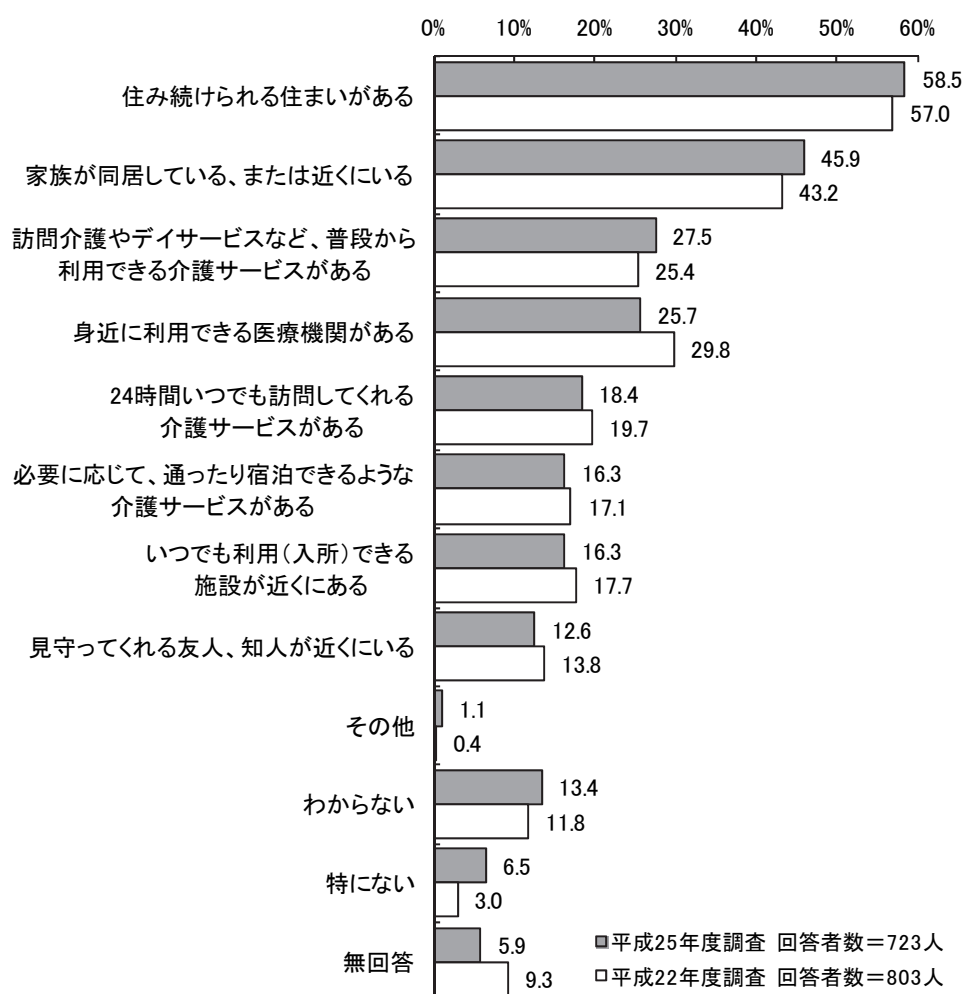
問27 あなた(あて名のご本人)は、介護が必要になっても在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【比較調査250頁参照】

在宅で暮らし続けるために必要と思うことは、「住み続けられる住まいがある」58.5%がもっとも高く、次いで「家族が同居している、または近くにいる」45.9%、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」27.5%、「身近に利用できる医療機関がある」25.7%、「24時間いつでも訪問してくれる介護サービスがある」18.4%の順となっている。

平成22年度調査結果と比較すると、上位5項目は同様であるが、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」が2.1ポイント増加し、「身近に利用できる医療機関がある」と順位が逆転している。

図表2-40 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと(複数回答)＜平成22年度調査との比較＞

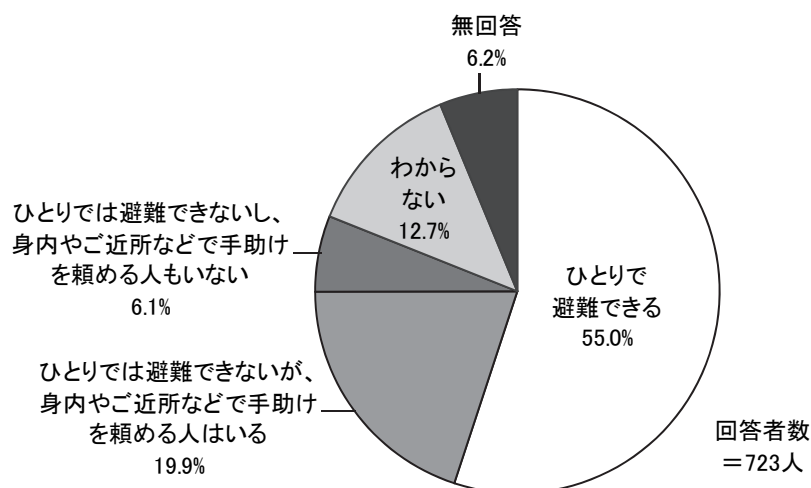


(3)災害時の避難の可否

問28 あなた(あて名のご本人)は、地震や火災などの災害時に、ひとりで避難することができますか。(1つに○)

災害時の避難の可否は、「ひとりで避難できる」は 55.0%と半数強である。「ひとりで避難できないが、身内やご近所などで手助けを頼める人はいる」は 19.9%であり、6.1%が「ひとりでは避難できないし、身内やご近所などで手助けを頼める人もいない」と回答している。

図表2-41 災害時の避難の可否(単数回答)



(4)健康サポートセンターの認知度、利用経験

問30 あなた(あて名のご本人)は、健康サポートセンターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

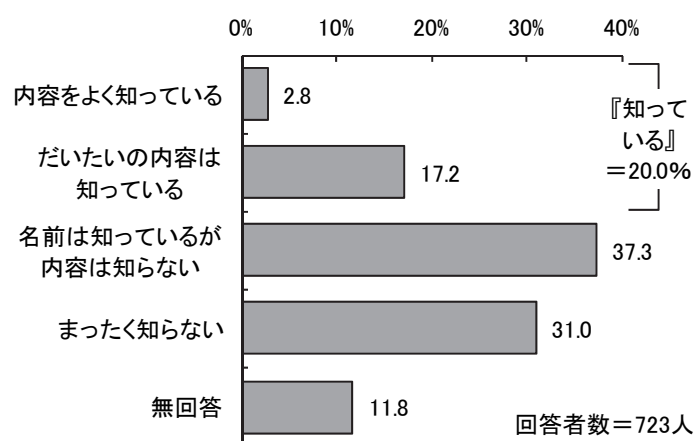
内容や名前を知っている方(問30で1～3に○)にうかがいます。

問30-1 健康サポートセンターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

健康サポートセンターについて、「内容をよく知っている」2.8%、「だいたいの内容は知っている」17.2%をあわせた『知っている』は20.0%であり、「名前は知っているが内容は知らない」が37.3%、「まったく知らない」が31.0%を占める。

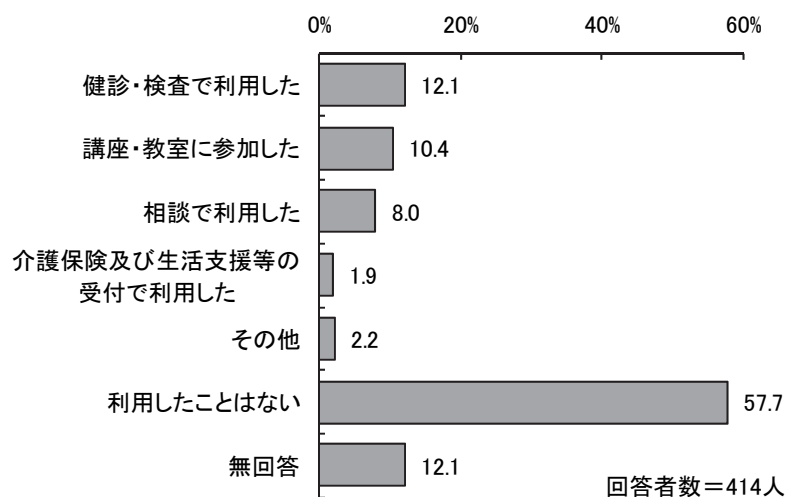
内容や名前を知っている人の利用経験は、「利用したことはない」が57.7%を占め、利用した場合としては、「健診・検査で利用した」12.1%、「講座・教室に参加した」10.4%などとなっている。

図表2-42 健康サポートセンターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

図表2-43 健康サポートセンターの利用経験(複数回答)



(5) 熟年相談室(地域包括支援センター)の認知度、利用経験

問29 あなた(あて名のご本人)は、熟年相談室(地域包括支援センター)について、どのくらい知っていますか。(1つに○)

内容や名前を知っている方(問29で1～3に○)にうかがいます。

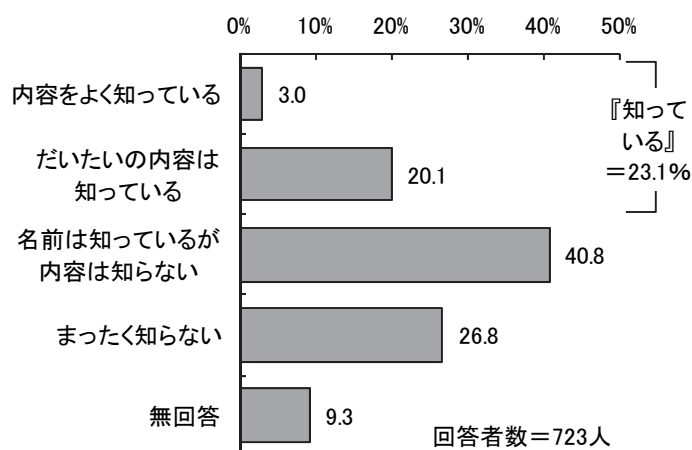
問29-1 熟年相談室(地域包括支援センター)を利用したことはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

熟年相談室(地域包括支援センター)について、「内容をよく知っている」3.0%、「だいたいの内容は知っている」20.1%をあわせた『知っている』は23.1%と2割台であり、「名前は知っているが内容は知らない」は40.8%、「まったく知らない」は26.8%となっている。

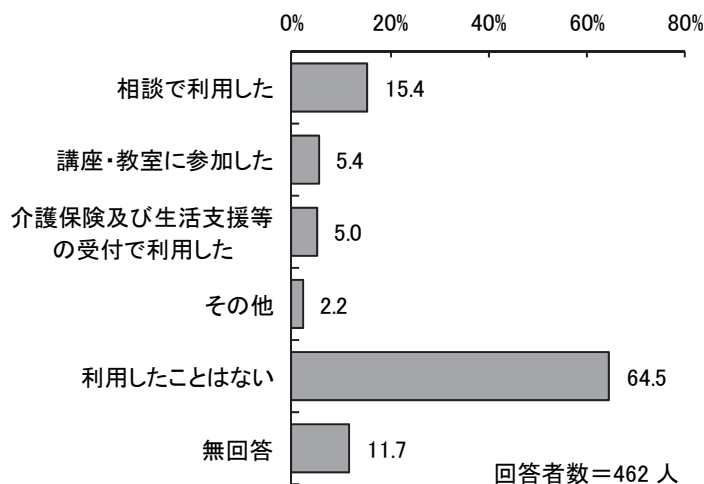
内容や名前を知っている人の利用経験は、「利用したことはない」が64.5%を占め、利用した場合としては、「相談で利用した」15.4%、「講座・教室に参加した」5.4%などとなっている。

図表2-44 熟年相談室(地域包括支援センター)の認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

図表2-45 熟年相談室(地域包括支援センター)の利用経験(複数回答)



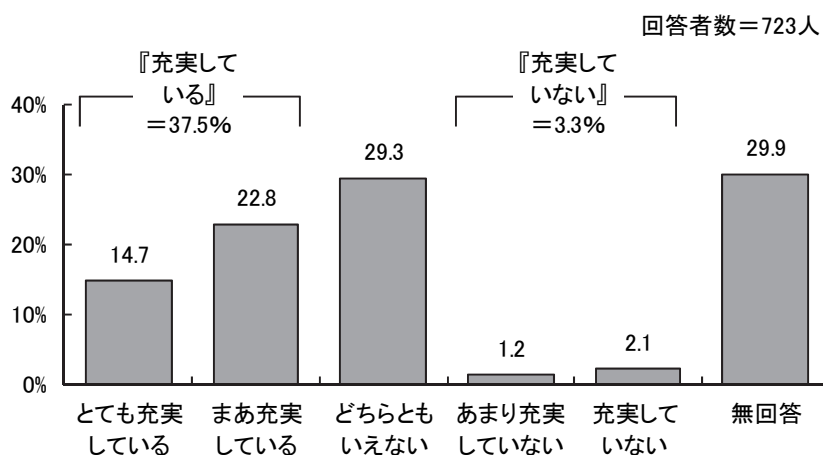
8. 江戸川区の熟年者施策について

(1) 区の熟年者施策の充実度

問31 江戸川区の熟年者施策について、あなた(あて名のご本人)はどのように感じますか。
(1つに○) 【比較調査253参照】

区の熟年者施策の充実度は、「とても充実している」14.7%、「まあ充実している」22.8%をあわせた37.5%が『充実している』と回答している。「あまり充実していない」1.2%、「充実していない」2.1%をあわせた『充実していない』は3.3%であった。

図表2-46 区の熟年者施策の充実度(単数回答)



※『充実している』 = 「とても充実している」 + 「まあ充実している」

※『充実していない』 = 「あまり充実していない」 + 「充実していない」

(『充実していない』理由：15件より抜粋して記載)

- ・江戸川区内は熟年者が多く、施設が足りない。
- ・健康で動ける人のことだけを考えているのではないかと思う。
- ・施策自体を知らない。
- ・当方の勉強不足で分からない。
- ・名前ばかりという感じ。民生委員とか施設とのコミュニケーションが全くなくて親しみがない。

(2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと

問32 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。

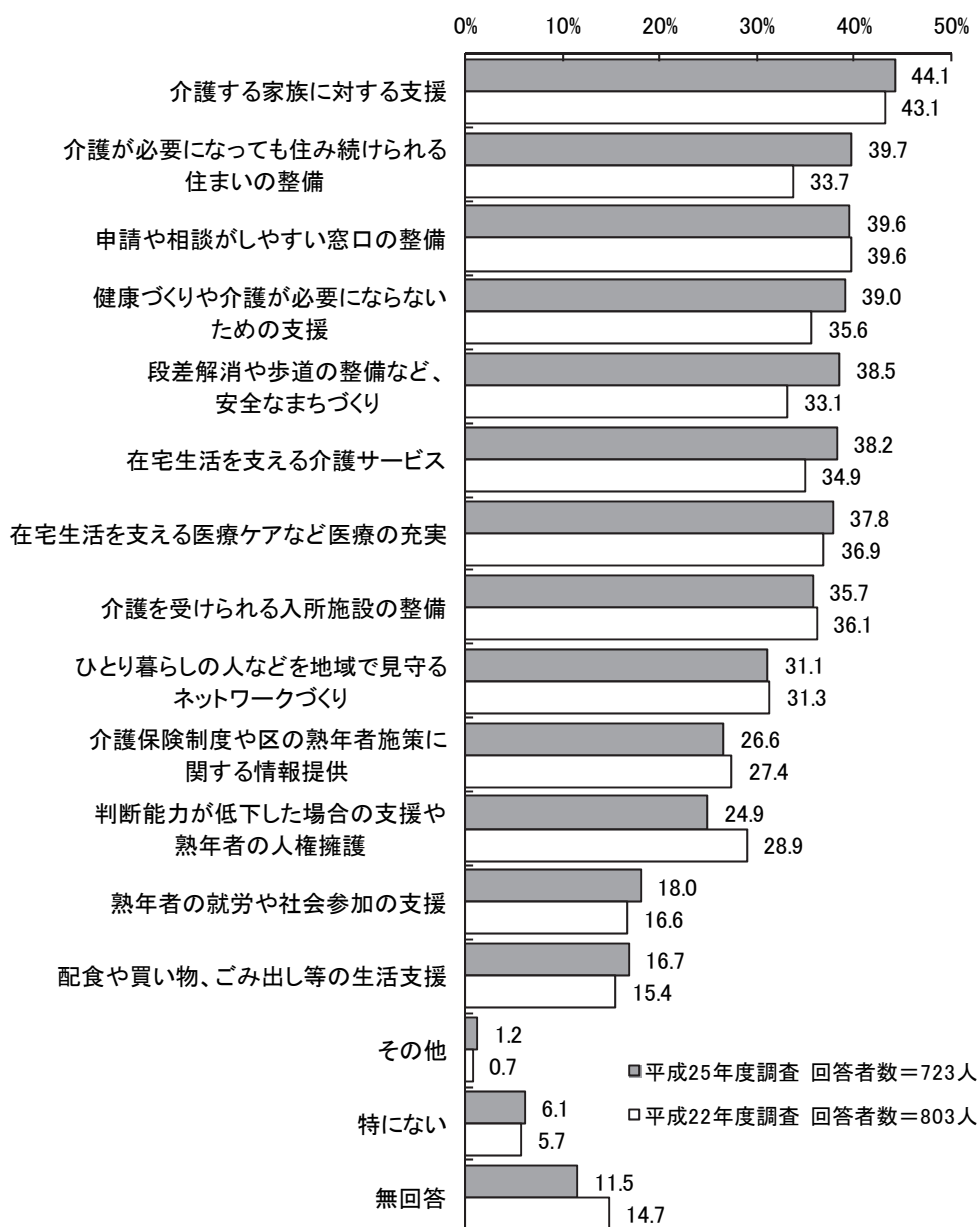
(あてはまるものすべてに○)

【比較調査254頁参照】

区の熟年者施策で充実してほしいことは、「介護する家族に対する支援」44.1%、「介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備」39.7%、「申請や相談がしやすい窓口の整備」39.6%、「健康づくりや介護が必要にならないための支援」39.0%、「段差解消や歩道の整備など、安全なまちづくり」38.5%が上位5位となっている。

平成22年度調査結果と比較すると、上位1位は同様であるが、前回第7位だった「介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備」が6.0ポイント増加し、第2位となっている。また、前回第5位の「健康づくりや介護が必要にならないための支援」が3.4ポイント増加し、第4位となっている。

図表2-47 区の熟年者施策で充実してほしいこと(複数回答)＜平成22年度調査との比較＞



(3)区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

(149件について分類・要約して記載)

【1】介護保険・区の介護支援等に対する意見・要望(70件より抜粋)

- ・現在ヘルパーをやっているが、配食や買い物、ごみ出し等の生活支援、在宅生活を支える介護サービスを今後充実すべきだと感じている。
- ・デイサービスが安価で気軽に利用できるようなになれば、在宅介護がしやすくなると思う。
- ・急に必要な介護用品のレンタル、手続き料金など、もっと一般の人に知らせてほしい。
- ・おむつの支給には感謝しているが、福祉タクシーの支給が半分になり不自由を感じている。もう少し増やしていただきたい。
- ・熟年者施策の充実と介護保険の制度的後退がないよう、江戸川区でも頑張ってもらいたい。
- ・どの程度になったら介護が必要となるのか、介護を受けることができるのか、よく分からない。その段階から知りたい。
- ・認知症になった父に大変苦労した。どこの介護施設にも受け入れてもらえず、今、母が認知症に一步入り、また同じ苦労をするのかと思うと、区、国の支援の改善を願わずにはいられない。
- ・ひとり暮らしの熟年者用住宅、介護が必要でない方のための共同住宅を希望する。孤独死のニュースを聞く度に身につまされる。
- ・動けなくなったら専門の施設に入らざるを得ないと思っているが、受け入れが大変少ないと聞いている。今後、益々熟年者が多くなるので、多く施設をつくってほしい。
- ・健康保険を一律2割にするべき。本当の弱者は申請しないので、そういう人を助けてほしい。
- ・これまで社会貢献してきた熟年者の気持ちを汲んでほしい。経費削減も分かるが熟年者のわずかな楽しみまで削るような今のやり方には不満を持っている。介護を受けるようになったら安心して受けられる施設の拡充を望む。

【2】道路・公園等のまちづくり、住宅に対する意見・要望(20件より抜粋)

- ・災害時の避難場所のくわしい説明、津波、高潮時等、どのマンションに避難すればいいか教えてほしい。
- ・東小岩2丁目の小岩駅行のバス停に屋根を付けてほしい。雨の日、土手でバスを待っている間、雨に濡れて滑りやすく危険である。
- ・誰でも歩きやすい道路にしてほしい。全部を舗装しなくても、平らにするなど段差を少なくすることはできないだろうか。
- ・部屋に冷暖房がないので、夏は熱中症にならないか不安。1年通して快適な室温で休憩できる場所が各町会に1つあれば、熟年者の集いの場にもなっていると思う。
- ・公園などに熟年者でもできるような運動器具を取り付けてほしい。

【3】就労・生きがい・社会参加に対する意見・要望(14件より抜粋)

- ・夫の看護の日々、長時間の外出は無理だが、好きな洋裁をしながら毎日を過している。これからはなるべくご近所さんと行き来をしたいと思っている。
- ・仕事をする環境の整備をしてほしい。仕事をするにより話し相手ができる。
- ・北小岩の外れに住んでいるが、いろいろな施設が遠くて行くことができない。学校の空き教室や公園内に運動できるものを設置したり、図書の貸し出しなどしてくれたらと思う。
- ・区の福祉の体操、水泳など、体力に応じて運動できる施設が充実しており感謝している。

【4】保健医療福祉施策に対する意見・要望(13件より抜粋)

- ・生活保護を受けておらず、すれすれの生活なので将来が不安である。インフルエンザもお金がなく受けられない。生活保護の方は無料なのでうらやましい。すれすれの生活の人の援助もお願いしたい。
- ・施設に入るのにはお金がかかるし、ひとり暮らしなので病気になったらどうなるか心配である。
- ・いつも健診のお知らせをいただきありがたく思っている。予防注射の支援にも感謝する。

【5】健康づくり・介護予防に対する意見・要望(6件より抜粋)

- ・私は4～5時間、銀行のお掃除に行っている。時間に出ることがとても楽しみで、1日の半分でも時間を決めて体を動かすことが健康の秘訣である。
- ・介護を必要とする以前に、ならないための健康づくり、予防が第一と思う。自分の町会に入れず他の町会のカルチャーに10年以上入っていたが、長く続けるには近辺であるとありがたい。
- ・最近、リズム体操も人数が多くなっているので、それに代わる新しい健康づくりの体操を考えてもらいたい。

【6】その他(26件より抜粋)

- ・私は70歳くらいまで着物関係の仕事をしていたので友人は多い。年のせいかな昨年より今年の方がしんどいが、病気もせず、よく頑張ったと思う。
- ・江戸川区は交通の便の悪さがあると思う。また、区役所の出張所なども、例えば西葛西にも必要だと思う。